



System i

プログラミング

Performance Tools for i5/OS コマンド

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

Performance Tools for i5/OS コマンド

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、259 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Performance Tools for i5/OS (プロダクト番号 5761-PT1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りが無い限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i
Programming
Performance Tools for i5/OS commands
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

データベース・ファイル分析 (ANZDBF)	1	実績グラフの表示 (DSPHSTGPH).	97
データベース・ファイルのキー分析 (ANZDBFKEY)	5	パフォーマンス・データの表示 (DSPPFRDTA)	111
パフォーマンス・データの分析 (ANZPFRDTA)	9	パフォーマンス・グラフの表示 (DSPPFRGPH)	115
プログラム分析 (ANZPGM)	13	ジョブ・トレース終了 (ENDJOBTRC)	135
機能領域の変更 (CHGFCNARA)	17	活動報告書の印刷 (PRTACTRPT)	141
グラフ様式の変更 (CHGGPHFMT)	21	構成要素報告書の印刷 (PRTCPTRPT)	149
グラフ・パッケージの変更 (CHGGPHPKG)	41	ジョブ間隔報告書の印刷 (PRTJOBTRPT)	167
ジョブ・タイプの変更 (CHGJOBTYP)	45	ジョブ・トレース印刷 (PRTJOBTRC)	181
機能領域のコピー (CPYFCNARA).	47	ロック報告書の印刷 (PRTLCKRPT)	187
グラフ様式のコピー (CPYGPHFMT).	51	プール報告書の印刷 (PRTPOLRPT)	193
グラフ・パッケージのコピー (CPYGPHPKG)	55	資源報告書の印刷 (PRTRSCRPT)	207
機能領域の作成 (CRTFCNARA)	59	システム報告書の印刷 (PRTSYSRPT)	213
グラフ様式の作成 (CRTGPHFMT).	63	トランザクション報告書の印刷 (PRTTNSRPT)	227
グラフ・パッケージの作成 (CRTGPHPKG)	81	ジョブ・トレース報告書の印刷 (PRTTRCRPT)	239
実績データの作成 (CRTHSTDTA).	85	ジョブ・トレースの開始 (STRJOBTRC)	245
機能領域の削除 (DLTFCNARA).	89	パフォーマンス・グラフィックスの開始 (STRPFRG)	249
グラフ様式の削除 (DLTGPHFMT).	91	パフォーマンス・ツール開始 (STRPFRT)	253
グラフ・パッケージの削除 (DLTGPHPKG)	93	機能領域の処理 (WRKFCNARA).	257
実績データの削除 (DLTHSTDTA)	95	付録. 特記事項	259

データベース・ファイル分析 (ANZDBF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース・ファイル分析(ANZDBF)コマンドは、1組のライブラリーの物理ファイルおよび論理ファイルと、ファイル間の関係を示す2つの報告書を作成します。このコマンドは、データベース・ファイル・キー分析(ANZDBFKEY)コマンドによって詳細に分析するために、データベース・ファイルに情報を保管します。両方の報告書（論理ファイルに対する物理ファイルの関係および物理ファイルに対する論理ファイルの関係）は、印刷装置ファイルQPPTANZDに書き出されます。同じ名前でも2つの印刷装置ファイルが作成されます。データはデータベース・ファイルQPFRDATA/QAPTAZDRのメンバーQAPTAZDRに保管されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIBL	アプリケーション・ライブラリー	値 (最大 10 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	名前, ANZDBF	オプション
JOBDD	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QFRJOBDD	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

トップ

アプリケーション・ライブラリー (LIBL)

報告するデータベース・ファイルが入っているライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 データベース・ファイル分析報告書に含まれる最大10個のライブラリー名を指定してください。

トップ

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBDD)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBDD(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

ANZDBF

コマンド名がジョブ名として使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBDD

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBDDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

ANZDBF LIBL(APDTA ARDTA)

このコマンドは、買掛管理(APDTA)および売掛管理(ARDTA)データ・ライブラリーに存在するすべてのファイル間の関係を表示する報告書を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

PFR9802

予期しないメッセージが検出された。

[トップ](#)

データベース・ファイルのキー分析 (ANZDBFKEY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース・ファイル・キー分析(ANZDBFKEY)コマンドは、データベース・ファイル分析(ANZDBF)コマンドによって生成されたデータから、データベース・ファイルのキー構造を示す2つの報告書を作成します。

片方の報告書は印刷装置ファイルQPPTANZKに書き出されます。もう一方の報告書は印刷装置ファイルQPPTANKMに書き出されます。QPPTANZKには、各キー・フィールドまたは選択規則のアクセス・パスおよび(論理ファイルのみ)選択基準のリストが含まれています。QPPTANKMには、物理ファイルを基本にしたすべての論理ファイルのキー・フィールドのマトリックスが含まれています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	物理ファイル	名前, *NUMLF	オプション
NUMLF	論理ファイルの最小数	1.0-99999.0, <u>5</u>	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>ANZDBFKEY</u>	オプション
JOBID	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRJOBID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

物理ファイル (FILE)

データベース・ファイル分析(ANZDBF)コマンドによって処理されたリストから選択する物理ファイルを指定します。報告書には、選択されたそれぞれの物理ファイルと関連したすべての論理ファイルが含まれます。

*NUMLF

関連した論理ファイルを少なくとも最小数もつすべての物理ファイルを指定します。特定の最小値は、**論理ファイルの最小数 (NUMLF)**パラメーターによって定義されます。

名前 特定の物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

論理ファイルの最小数 (NUMLF)

物理ファイルが選択される前に、その物理ファイルと関連した最小数の論理ファイルを指定します。このパラメーターが有効なのは、**物理ファイル (FILE)**パラメーターに*NUMLFが指定されている場合のみです。

5 少なくとも5つの論理ファイルが物理ファイルと関連付けられなければなりません。

1-99999

必要な論理ファイルの最小数を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBID)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBID(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

ANZDBFKEY

コマンド名がジョブ名として使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBID

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBIDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

例

```
ANZDBFKEY FILE(*NUMLF) NUMLF(2)
```

このコマンドは、2つ以上の論理ファイルに関連付けられている物理ファイルを参照するすべてのファイルのキーに関する報告書を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR5251

データベース・ファイルを分析するためのデータをアクセスすることができない。

PFR9802

予期しないメッセージが検出された。

トップ

パフォーマンス・データの分析 (ANZPFRDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・データ分析(ANZPFRDTA)コマンドは、ユーザーのシステムのパフォーマンスを改善するための推奨事項を作成します。対話式モードでは、システムによって推奨された変更を行なうことを要求することができます。バッチ・モードでは、推奨された変更が印刷されるので、ユーザーは個別のコマンドを入力して推奨された変更を行なう必要があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	名前, <u>*SELECT</u>	オプション, 位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 位置 3
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*FIRST</u> , *SELECT	
	要素 2: 開始日	日付, <u>*FIRST</u>	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*LAST</u>	
	要素 2: 終了日	日付, <u>*LAST</u>	
DATATYPE	データ・タイプ	<u>*ALL</u> , *SAMPLE	オプション

[トップ](#)

メンバー (MBR)

オペレーション・ナビゲーター・インターフェースからの収集サービスによって集められたパフォーマンス・データが入っているメンバーを指定します。

*SELECT

含める 1 つまたは複数の間隔を選択できる間隔選択画面が表示されます。この値は対話モードでのみ有効です。

名前 パフォーマンス・データが入っているメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データが入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データ・ファイルはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

出力が印刷されるか表示されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力が画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力がジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

報告書の期間 (PERIOD)

報告する期間を指定します。パラメーターは、開始時刻と開始日および終了時刻と終了日の4つの要素から構成されています。開始日の開始時刻の前に収集されたデータおよび終了日の終了時刻の後に収集されたデータは報告書に含まれません。

4つのどの要素にも省略時の値を示すために記号*Nを使用することができます。

要素1:開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

*FIRST

収集期間の初日の始め(00:00:00)から開始するデータ・レコードが含まれます。

*SELECT

含める1つまたは複数の間隔を選択できる間隔選択画面が表示されます。この値は対話式環境でのみ有効です。この値を使用した場合には、このパラメーターの残りの値(開始時刻と日付および終了時刻と日付)は無視されます。

時刻 **HHMM**または**HHMMSS**の形式を使用して、報告書に含める最初のデータ・レコードの時刻を指定してください。この場合に、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、次のように時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしで24時間形式で指定します。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のストリング(**HHMM**または**HHMMSS**)を指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、**SS** =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のストリングを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコ

マンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければならない。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日

*FIRST

収集期間の最初の日からのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最初のデータ・レコードの日付を指定してください。日付は、システム値 QDATFMT によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 QDATSEPによって指定されているように）入力しなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

*LAST

その日の終わり(23:59:59)までのデータ・レコードが報告書に含められます。

時刻 報告書に含める最後のデータ・レコードの時刻を指定してください。開始時刻に使用したものと同一形式を使用してください。

要素2: 終了日

*LAST

収集期間の最後の日までのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最後のレコードの日付を指定してください。日付は、システム値 QDATFMT によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 QDATSEPによって指定されているように）入力しなければなりません。

[トップ](#)

報告書オプション (DATATYPE)

分析するデータのタイプを指定します。

***ALL** すべてのデータ（サンプル・データおよびトレース・データ）が分析されます。

***SAMPLE**

サンプル・データだけが分析されます。

[トップ](#)

例

ANZPFRDTA

このコマンドは、システムのパフォーマンスを改善するための推奨事項を出力します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR1010

データが見つからないので要求を処理することができない。

PFR5501

パフォーマンス・データ・ファイルは上方に互換性がない。

PFR5502

パフォーマンス・データ・ファイルは下方に互換性がない。

PFR7003

パフォーマンス・データを表示することができない。

PFR7005

パフォーマンス・データを表示することができない。

[トップ](#)

プログラム分析 (ANZPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム分析(ANZPGM)コマンドは、1組のライブラリーのプログラムおよびファイルとそれらの関係を表示する報告書を作成します。両方の報告書が印刷装置ファイルQPPTANZPに書き出されます。同じ名前で2つの印刷装置ファイルが作成されます。片方の印刷装置ファイルには、プログラムからファイルへの相互参照情報が入っています。もう片方の印刷装置ファイルには、ファイルからプログラムへの相互参照情報が入っています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIBL	アプリケーション・ライブラリー	値 (最大 10 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	名前, ANZPGM	オプションル
JOB	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QFJRJOB	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

[トップ](#)

アプリケーション・ライブラリー (LIBL)

報告するプログラムが入っているライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 プログラム分析報告書に含められる最大10個のライブラリー名を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOB)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: **JOB**(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

ANZPGM

コマンド名がジョブ名として使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBDD

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBDDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

ANZPGM LIBL(APPGM ARPGM)

このコマンドは、買掛管理(APPGM)および売掛管理(ARPGM)プログラム・ライブラリーに存在するすべてのプログラムについて、プログラムおよびファイル間の関係を表示する報告書を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

PFR9802

予期しないメッセージが検出された。

[トップ](#)

機能領域の変更 (CHGFCNARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

業務分野変更(CHGFCNARA)コマンドによって、ユーザーはシステムの業務分野を変更することができます。業務分野は、報告書およびグラフィックス用にパフォーマンス・ツールによって使用されます。業務分野は、報告書およびグラフに含まれるジョブ名またはユーザー名あるいはその両方の事前定義リストです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FCNARA	機能領域	文字値	必須, キー, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, キー, 定位置 2
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK, * <u>SAME</u>	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: * <u>SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 250 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前	

トップ

機能領域 (FCNARA)

作成または変更する業務分野の名前を指定します。名前の文字間にスペースが入っている場合には、名前をアポストロフィで囲んでください。

これは必須パラメーターです。

トップ

ライブラリー (LIB)

業務分野が入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

業務分野はIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAに入っています。

ライブラリー名

業務分野が入っているライブラリー名を指定してください。

テキスト'記述' (TEXT)

業務分野を簡単に説明するテキストを指定します。

*SAME

テキストは変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

記述 アポストロフィで囲まれた、30文字を超えないテキストを指定してください。

トップ

ジョブ名 (JOB)

業務分野に含めるジョブのリストを指定します。ジョブ識別コードは、特殊値***SAME**、***NONE**、または最高2要素の修飾名であり、たとえば次の通りです。

*SAME

ジョブ名
ユーザー名/ジョブ名

指定する値に続く要素の代わりに*Nを使用することができます。たとえば、**USER1 / *N**はジョブ名とは無関係に、ユーザー名**USER1**を指定します。***N**を指定しない場合には、**USER1**は、ユーザー名ではなくジョブ名として解釈されることがあります。

*SAME

ジョブは変更されません。

*NONE

業務分野はすべてのジョブについて消去されます。

ジョブ名

業務分野に含めるジョブの名前を指定してください。これは、特定の名前または総称名とすることができます。

ユーザー名

業務分野に含めるユーザー名を指定してください。これは、特定の名前または総称名とすることができます。

トップ

例

例1:3つのエントリーを含むように業務分野を変更する

```
CHGFCNARA FCNARA(PERSONNEL) JOB(DAN/*N MARCY/*N RANDY/QPG*)
```

このコマンドは、以下の3つのエントリーを含むように業務分野**PERSONNEL**を変更します。:

- ユーザー**DAN**
- ユーザー**MARCY**

- RANDYによってサブミットされ、QPGで始まる名前のすべてのジョブ

ライブラリーQPFRDATAの業務分野が変更されます。

例2:4つのエントリーを含むように業務分野を変更する

```
CHGFCNARA  FCNARA('PERFORMANCE TOOLS')  LIB(RPFT)
            JOB(PRT*  TERESA/*N  KAREN/*N  JIM/QPFRXXX)
```

このコマンドは、以下の4つのエントリーを含むように業務分野「PERFORMANCE TOOLS」を変更します:

- PRTで始まる名前のジョブ
- ユーザーTERESA
- ユーザーKAREN
- JIMによってサブミットされたQPFRXXXという名前のジョブ

業務分野はライブラリーRPFTに作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0011

プロンプト一時変更プログラムによってエラーが検出された。

PFR9064

機能領域&2を変更することはできない。

[トップ](#)

グラフ様式の変更 (CHGGPHFMT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフ様式変更(CHGGPHFMT)コマンドは、パフォーマンスおよび実績グラフを表示するために使用されたグラフ様式を変更します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
GPHFMT	グラフ様式	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: グラフ様式	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	
TEXT	テキスト・記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション, 定位置 2
TITLE	タイトル	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK, *MBRTEXT	オプション
SUBTITLE	サブタイトル	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK, *MBRTEXT	オプション
GPHTYPE	グラフ・タイプ	<u>*SAME</u> , *SURFACE, *LINE, *CBAR, *FBAR, *SCATTER	オプション
DATATYPE	データ・タイプ	<u>*SAME</u> , *FCNARA, *JOBTYPE, *PRIORITY, *IOP, *DISK, *CMNLINE, *ALL	オプション
AREAFILL	区域充てん	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
REFLINE	基準線	1-99999, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
XAXIS	X軸	要素リスト	オプション
	要素 1: 変数	<u>*SAME</u> , *TIME, *CPU, *TNS, *NBRTNS, *RSP, *SYNCIO, *NBRASYNC, *ASYNCO, *NBRASYNC, *TOTDSKIO, *NBRDSKIO	
	要素 2: タイトル	文字値, <u>*SAME</u> , *DFT, *BLANK	
	要素 3: 範囲	単一値: <u>*SAME</u> , *AUTO その他の値: 要素リスト	
	要素 1: 最初の	0-99999	
	要素 2: 最後の	0-99999	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
YAXIS	Y軸	要素リスト	オプション
	要素 1: 変数	* <u>SAME</u> , *CPU, *TNS, *NBRTNS, *RSP, *SYNCIO, *NBRSYNC, *ASYNCIO, *NBRASYNC, *TOTDSKIO, *NBRDSKIO, *CMNIOP, *DSKIOP, *LWSIOP, *MFCIOP, *MFDIOP, *DSKARM, *PCTDSKOCC, *CMNLINE, *LGLDBIO	
	要素 2: タイトル	文字値, * <u>SAME</u> , *DFT, *BLANK	
	要素 3: 範囲	単一値: * <u>SAME</u> , *AUTO その他の値: 要素リスト	
	要素 1: 最初の	0-99999	
要素 2: 最後の	0-99999		
FCNARA	機能領域項目	単一値: * <u>SAME</u> その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 機能領域	文字値, *OTHER	
	要素 2: 凡例記述	文字値, * <u>DFT</u> , *BLANK	
	要素 3: 線のタイプ	1-8, <u>7</u>	
	要素 4: 非図形表示記号	文字値, *	
JOBTYPE	ジョブ・タイプ項目	単一値: * <u>SAME</u> その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ・タイプ	*ALL, *ALLINTER, *ALLBATCH, *ALLSYSTEM, *ASJ, *BCH, *CA4, *DDM, *EVK, *INT, *MRT, *PCS, *PDJ, *PJ, *PTH, *RDR, *S36, *SBS, *SYS, *WTR, *OTHER	
	要素 2: 凡例記述	文字値, * <u>DFT</u> , *BLANK	
	要素 3: 線のタイプ	1-8, <u>7</u>	
	要素 4: 非図形表示記号	文字値, *	
PRIORITY	ジョブ優先順位項目	単一値: * <u>SAME</u> その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 優先順位の下限	0-99, *OTHER, *ALL	
	要素 2: 優先順位の上限	0-99	
	要素 3: 凡例記述	文字値, * <u>DFT</u> , *BLANK	
	要素 4: 線のタイプ	1-8, <u>7</u>	
要素 5: 非図形表示記号	文字値, *		
IOP	IOPデータ項目	単一値: * <u>SAME</u> その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 稼働率のタイプ	*AVG, *MAX	
	要素 2: 凡例記述	文字値, * <u>DFT</u> , *BLANK	
	要素 3: 線のタイプ	1-8, <u>7</u>	
要素 4: 非図形表示記号	文字値, *		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DISK	ディスク・データ項目	単一値: *SAME その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 稼働率のタイプ	*AVG, *MAX	
	要素 2: 凡例記述	文字値, *DFT , *BLANK	
	要素 3: 線のタイプ	1-8, 7	
	要素 4: 非図形表示記号	文字値, *	
CMNLINE	通信回線項目	単一値: *SAME その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 通信回線	名前, *MAX	
	要素 2: 凡例記述	文字値, *DFT , *BLANK	
	要素 3: 線のタイプ	1-8, 7	
	要素 4: 非図形表示記号	文字値, *	
ALLDATA	すべてのデータ項目	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 凡例記述	文字値, *DFT , *BLANK	
	要素 2: 線のタイプ	1-8, 7	
	要素 3: 非図形表示記号	文字値, *	

上

グラフ様式 (GPHFMT)

変更するグラフ様式を指定します。

これは必須パラメーターです。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、グラフ様式を見つける場所です。

ライブラリー名

グラフ様式を見つけるライブラリーの名前を指定してください。

様式名 変更するグラフ様式の名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

グラフ様式またはグラフ・パッケージを簡単に説明するユーザー定義のテキストを指定します。

*SAME

テキストは変更されません。

*BLANK

グラフ様式またはグラフ・パッケージのテキスト記述はブランクのままです。

記述 アポストロフィで囲まれた50文字を超えないテキストを指定してください。

上

タイトル (TITLE)

グラフのタイトルを指定します。

*SAME

タイトルは変更されません。

*BLANK

タイトルはブランクのままです。

*MBRTEXT

この様式のグラフの作成に使用されたデータベース・メンバーのテキストがタイトルとして使用されます。

グラフ・タイトル

グラフのタイトルを50文字以内の長さで指定してください。ユーザー定義のタイトルをアポストロフィで囲んでください。

上

サブタイトル (SUBTITLE)

グラフのサブタイトルを指定します。

*SAME

サブタイトルは変更されません。

*BLANK

サブタイトルのグラフはブランクのままです。

*MBRTEXT

この様式のグラフの作成に使用されたデータベース・メンバーのテキストがサブタイトルとして使用されます。

グラフ・サブタイトル

グラフのサブタイトルを50文字以内の長さで指定してください。ユーザー定義のサブタイトルをアポストロフィで囲んでください。

上

グラフ・タイプ (GPHTYPE)

この様式を使用して作成するグラフのタイプを指定します。

*SAME

作成するグラフのタイプは変更されません。

*SURFACE

グラフは面グラフです。

*LINE グラフは折れ線グラフです。

***CBAR**

グラフは複合棒グラフです。

***FBAR**

グラフは浮動棒グラフです。

***SCATTER**

グラフは分散図表です。

上

データ・タイプ (DATATYPE)

グラフに入れるデータのタイプを指定します。

***SAME**

データ・タイプは変更されません。

***ALL** グラフは、すべてのジョブの情報を示します。

***FCNARA**

この値はジョブを、グラフ表示される各機能領域に入れます。機能領域はグラフ表示されるデータに対して固有としなければなりません。すなわち、グラフ用に選択された機能領域の複数にジョブが存在している場合には、複数の機能領域にジョブが存在していることを示すエラー・メッセージが出されます。また、実績データをグラフ表示するために機能領域を使用することはできません。

***JOBTYPE**

この値には、対話式などの個々のジョブ・タイプおよび*ALLINTER（すべて対話式）、*ALLBATCH（すべてバッチ）、および*ALLSYSTEM（すべてシステム）などの集成タイプが含まれます。「すべて対話式」とはジョブ・タイプ I のジョブのことであり、これには対話式、System i Access, システム/36, MRT, および表示装置パススルー・ジョブが含まれます。

***PRIORITY**

この値は、ジョブを優先順位の範囲に入れます。たとえば、10-20の範囲には、10-20の優先順位をもつすべてのジョブが含まれます。

***IOP** この値によって、特定のタイプの入出力プロセッサの最大および平均使用率の折れ線グラフを表示することができます。

DATATYPE(*IOP)を指定する場合には、次の組み合わせの1つを指定しなければなりません。

- YAXIS(*CMNIOP)およびXAXIS(*TIME)
- YAXIS(*DSKIOP)およびXAXIS(*TIME)
- YAXIS(*LWSIOP)およびXAXIS(*TIME)
- YAXIS(*MFCIOP)およびXAXIS(*TIME)
- YAXIS(*MFDIOP)およびXAXIS(*TIME)

***DISK** この値によって、ディスク・アームの最大および平均使用率の折れ線グラフを表示することができます。また、ディスク占有パーセントの折れ線グラフも表示することができます。

DATATYPE(*DISK)を指定する場合には、次の組み合わせの1つを指定しなければなりません。

- YAXIS(*DSKARM)およびXAXIS(*TIME)
- YAXIS(*PCTDSKOCC)およびXAXIS(*TIME)

*CMNLIN

この値によって、個々の通信回線の使用状況またはすべての通信回線の最大使用状況をグラフ表示することができます。この値は、YAXIS(*CMNLIN)およびXAXIS(*TIME)が指定される場合にだけ有効です。

上

区域充てん (AREAFILL)

グラフの区域を充てんするかどうかを指定します。

*SAME

区域充てんの値は変更されません。

*YES グラフの区域は充てんされます。

*NO グラフの区域は充てんされません。

上

基準線 (REFLINE)

グラフの基準線を入れる位置を指定します。基準線はY軸上に入れられます。線はX軸に並行です。

*SAME

基準線の値は変更されません。

*NONE

基準線はグラフに入れられません。

基準線の数値

基準線が入られるY軸上の数字を指定してください。

上

X軸 (XAXIS)

グラフ上のX軸の変更に使用される特性のリストを指定します。

指定できるX軸変数の値は次の通りです。

*SAME

X軸変数は変更されません。

*TIME

時間がX軸に沿ってマップされます。

*CPU 処理装置の使用率がX軸に沿ってマップされます。

*TNS 1時間当たりのトランザクション数がX軸に沿ってマップされます。

*NBRTNS

トランザクションの合計数がX軸に沿ってマップされます。

*RSP 応答時間がX軸に沿ってマップされます。

***SYNCIO**

1 秒当たりの同期ディスク入出力(I/O)回数がX軸に沿ってマップされます。

***NBRSYNC**

同期ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がX軸に沿ってマップされます。

***ASYNCIO**

1 秒当たりの非同期ディスク入出力(I/O)回数がX軸に沿ってマップされます。

***NBRASYNC**

非同期ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がX軸に沿ってマップされます。

***TOTDSKIO**

1 秒当たりのディスク入出力操作の合計回数がX軸に沿ってマップされます。

***NBRDSKIO**

ディスク入出力(I/O)合計回数がX軸に沿ってマップされます。

指定できるX軸タイトルの値は次の通りです。

***SAME**

X軸タイトルは変更されません。

***DFT** X軸の変数がX軸のタイトルとして使用されます。

***BLANK**

X軸のタイトルはブランクのままです。

X軸タイトル

X軸のタイトルを30文字以内で指定してください。タイトルをアポストロフィで囲んでください。

指定できるX軸の開始および終了範囲の値は次の通りです。

***SAME**

X軸範囲の値は変更されません。

***AUTO**

X軸の範囲は自動的に計算されます。X軸の変数に*TIMEを指定した場合には、この値を指定しなければなりません。

開始番号

X軸の範囲の開始番号を指定してください。開始番号を指定した場合には、終了番号も指定しなければなりません。

終了番号

X軸の範囲の終了番号を指定してください。終了番号を指定した場合には、開始番号も指定しなければなりません。

上

Y軸 (YAXIS)

グラフ上のY軸の変更に使用される特性のリストを指定します。

指定できるY軸変数の値は次の通りです。

***SAME**

Y軸変数は変更されません。

***CPU** 処理装置の使用率がY軸に沿ってマップされます。

***TNS** 1時間当たりのトランザクション数がY軸に沿ってマップされます。

***NBRTNS**

トランザクションの合計数がY軸に沿ってマップされます。

***RSP** 応答時間がY軸に沿ってマップされます。

***SYNCIO**

1秒当たりの同期ディスク入出力(I/O)回数がY軸に沿ってマップされます。

***NBRSYNC**

同期ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がY軸に沿ってマップされます。

***ASYNCIO**

1秒当たりの非同期ディスク入出力(I/O)回数がY軸に沿ってマップされます。

***NBRASYNC**

非同期ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がY軸に沿ってマップされます。

***TOTDSKIO**

合計ディスク入出力/秒がY軸に沿ってマップされます。

***NBRDSKIO**

ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がY軸に沿ってマップされます。

***CMNIOP**

通信入出力プロセッサ(IOP)の使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*CMNIOP)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***DSKIOP**

ディスクIOPの使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*DSKIOP)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***LWSIOP**

ローカル・ワークステーションIOPの使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*LWSIOP)**を指定した場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***MFCIOP**

通信の多機能IOPの使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*MFCIOP)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***MFDIOP**

ディスクの多機能IOPの使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*MFDIOP)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***DSKARM**

ディスク・アームの使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*DSKARM)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***PCTDSKOCC**

ディスクを占有する情報のパーセントがY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*PCTDSKOCC)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***CMNLINE**

通信回線の使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*CMNLINE)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***LGLDBIO**

論理データベース入出力操作の合計数がY軸に沿ってマップされます。

指定できるY軸タイトルの値は次の通りです。

***SAME**

Y軸タイトルは変更されません。

***DFT** Y軸の変数がY軸のタイトルとして使用されます。

***BLANK**

Y軸のタイトルはブランクのままです。

Y軸タイトル

Y軸のタイトルを30文字以内で指定してください。タイトルをアポストロフィで囲んでください。

指定できるY軸の開始および終了範囲の値は、次の通りです。

***SAME**

Y軸範囲の値は変更されません。

***AUTO**

Y軸範囲は自動的に計算されます。

開始番号

Y軸の範囲の開始番号を指定してください。開始番号を指定した場合には、終了番号も指定しなければなりません。

終了番号

Y軸の範囲の終了番号を指定してください。終了番号を指定した場合には、開始番号も指定しなければなりません。

上

機能領域項目 (FCNARA)

グラフ上の各機能領域に使用する特性のリストを指定します。このパラメーターが有効なのは、**DATATYPE(*FCNARA)**を指定している時だけです。**DATATYPE(*FCNARA)**を指定した時には、1つ以上で16個を超えない機能領域項目を指定しなければなりません。

***SAME**

機能領域の特性は変更されません。

指定できる機能領域名の値は次の通りです。

***OTHER**

このパラメーターに指定した機能領域の1つに属していないすべてのジョブが、一緒にグループ化されます。

機能領域名

機能領域の名前を指定してください。

指定できる**機能領域凡例記述**の値は次の通りです。

***DFT** 機能領域名として指定された名前または特殊値が凡例記述として使用されます。

***BLANK**

機能領域の凡例記述はブランクのままです。

凡例記述

機能領域の凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できる**グラフィックス表示の線のタイプ**の値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末では、機能領域を表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末で機能領域を表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できる**機能領域に使用する非グラフィックス・ワークステーション記号**の値は次の通りです。

*** _** 非グラフィックス端末では、機能領域のグラフィックス表現としてアスタリスク記号が使用されません。

文字 非グラフィックス端末で機能領域のグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

ジョブ・タイプ項目 (JOBTYPE)

グラフ上のジョブ・タイプ情報の変更には使用する特性のリストを指定します。このパラメーターが有効なのは、**DATATYPE(*JOBTYPE)**を指定している時だけです。**DATATYPE(*JOBTYPE)**を指定した時には、1つ以上で16個を超えないジョブ・タイプ項目を指定しなければなりません。

***SAME**

ジョブ・タイプの特性は変更されません。

考えられる**ジョブ・タイプ**の値は、次の通りです。

***ALL** すべてのジョブ・タイプと一緒にグループ化されます。

***ALLINTER**

すべての対話式ジョブ・タイプには次のものが含まれます。

- DDMジョブ
- パススルー・ジョブ

- System i Accessサーバー・ジョブで、バッチ活動のみを処理するジョブは除く
- 対話式ジョブ
- システム／36環境ジョブ
- 複数要求端末ジョブ

***ALLBATCH**

すべてのバッチ・ジョブ・タイプには次のものが含まれます。

- バッチ・ジョブ
- System i Accessサーバー・ジョブで、バッチ活動のみを処理するもの
- 呼び出しジョブ
- 書き出しプログラム・ジョブ
- 読み取りプログラム・ジョブ
- 事前開始ジョブ
- 自動開始ジョブ
- 印刷ドライバー・ジョブ

***ALLSYSTEM**

すべてのシステム・ジョブには次のものが含まれます。

- システム・ジョブ
- サブシステム・モニター・ジョブ

***ASJ** 自動開始ジョブ

***BCH** バッチ・ジョブ

***CA4** System i Accessサーバー・ジョブ

***DDM** 分散データ管理機能 (DDMジョブ)

***EVK** プロシーチャー開始要求によって開始されたジョブ

***INT** 対話式ジョブ

***MRT** 複数要求端末ジョブ

***PCS** System i Accessサーバー・ジョブ

***PDJ** 印刷ドライバー・ジョブ

***PJ** 事前開始ジョブ

***PTH** パススルー・ジョブ

***RDR** 読み取りプログラム・ジョブ

***S36** システム／36環境ジョブ

***SBS** サブシステム・モニター・ジョブ

***SYS** システム・ジョブ

***WTR** 書き出しプログラム・ジョブ

***OTHER**

このパラメーターで指定されなかったすべてのジョブ・タイプが、一緒にグループ化されます。

指定できるジョブ・タイプ凡例記述の値は次の通りです。

***DFT** ジョブ・タイプに指定された値が凡例記述として使用されます。

***BLANK**

ジョブ・タイプの凡例記述はブランクのままです。

凡例記述

ジョブ・タイプの凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できるジョブ・タイプのグラフィックス表示の線のタイプの値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末でジョブ・タイプを表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末でジョブ・タイプを表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できるジョブ・タイプに使用されるグラフィックス以外のワークステーション記号の値は次の通りです。

***** 非グラフィックス端末でのジョブ・タイプのグラフィックス表現としてアスタリスク(*)が使用されます。

文字 非グラフィックス端末でジョブ・タイプのグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

ジョブ優先順位項目 (PRIORITY)

グラフ上のジョブ優先順位情報の変更を使用する特性を指定します。このパラメーターは、**DATATYPE(*PRIORITY)**を指定した時にだけ有効です。**DATATYPE(*PRIORITY)**を指定した時には、1つ以上で16個を超えないジョブ優先順位項目を指定しなければなりません。

***SAME**

ジョブ優先順位の特性は変更されません。

指定できるジョブ優先順位の値は、次の通りです。

***ALL** すべてのジョブ優先順位が一緒にグループ化されます。

***OTHER**

このパラメーターで指定されたジョブ優先順位境界内に入らないすべてのジョブ優先順位が、一緒にグループ化されます。

優先順位の下限

ジョブ優先順位の下限を指定してください。有効な値の範囲は0-99です。

優先順位の上限

ジョブ優先順位の上限を指定してください。0 - 99の範囲の値を指定することができます。上限の値は下限の値より大きいか等しくなければなりません。

指定できるジョブ優先順位凡例記述の値は次の通りです。

***DFT** 境界に指定された値が凡例記述として使用されます。

***BLANK**

ジョブ優先順位の凡例記述はブランクのままにしておかれます。

凡例記述

ジョブ優先順位の凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できるジョブ優先順位のグラフィックス表示の線のタイプの値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末でジョブ優先順位を表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末でジョブ優先順位を表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できるジョブ優先順位に使用されるグラフィックス以外のワークステーション記号の値は次の通りです。

* 非グラフィックス端末でジョブ優先順位のグラフィックス表現としてアスタリスク記号が使用されます。

文字 非グラフィックス端末でジョブ優先順位のグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

IOPデータ項目 (IOP)

グラフの入出力プロセッサ(IOP)情報の変更に使われる特性を指定します。このパラメーターが有効なのは、**DATATYPE(*IOP)**を指定している場合だけです。**DATATYPE(*IOP)**を指定している場合には、1つ以上で2つを超えないIOPデータ項目を指定しなければなりません。

*SAME

IOP情報の特性は変更されません。

指定できるIOPタイプの使用率の大きさの値は、次の通りです。

*AVG IOPタイプの平均使用率がグラフに示されます。

*MAX IOPタイプの最大使用率がグラフに示されます。

指定できるIOPタイプ凡例記述の値は次の通りです。

*DFT 使用率の大きさに指定された値が凡例記述として使用されます。

*BLANK

IOPデータの凡例記述はブランクのままにしておかれます。

凡例記述

IOPデータの凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できるIOPタイプのグラフィックス表示の線のタイプの値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末でIOPタイプを表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末でIOPタイプを表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できるIOPタイプに使用されるグラフィックス以外のワークステーション記号の値は次の通りです。

* 非グラフィックス端末でIOPタイプのグラフィックス表現としてアスタリスク(*)が使用されます。

文字 非グラフィックス端末でIOPタイプのグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

ディスク・データ項目 (DISK)

グラフ上のディスク・データ作成の変更に使用する特性のリストを指定します。このパラメーターが有効なのは、DATATYPE(*DISK)を指定している時だけです。DATATYPE(*DISK)を指定した時には、1つ以上で2個を超えないディスク・データ項目を指定しなければなりません。ディスク・データのタイプはディスク・アーム使用率と占有するディスクのパーセントです。

*SAME

ディスク・データ情報の特性は変更されません。

指定できるディスク・データ・タイプの使用率の大きさの値は、次の通りです。

***AVG** ディスク・データ・タイプの平均使用率がグラフに示されます。

***MAX** ディスク・データ・タイプの最大使用率がグラフに示されます。

指定できるディスク・データ・タイプの凡例記述の値は次の通りです。

***DFT** 使用率の大きさに指定された値が凡例記述として使用されます。

***BLANK**

ディスク・データ・タイプの凡例記述はブランクのままにしておかれます。

凡例記述

ディスク・データ・タイプの凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できるディスク・データ・タイプのグラフィックス表示の線のタイプの値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末でディスク・データ・タイプを表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末でディスク・データを表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できるディスク・データ・タイプに使用されるグラフィックス以外のワークステーション記号の値は次の通りです。

***** 非グラフィックス端末でディスク・データのグラフィックス表現としてアスタリスク(*)が使用されます。

文字 非グラフィックス端末でディスク・データのグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

通信回線項目 (CMNLINE)

グラフの通信回線情報の変更使用する特性を指定します。このパラメーターが有効なのは、

DATATYPE(*CMNLINE)を指定している場合だけです。**DATATYPE(*CMNLINE)**を指定する場合には、1つ以上で16を超えない通信回線項目を指定しなければなりません。

***SAME**

通信回線情報の特性は変更されません。

指定できる**通信回線名**の値は次の通りです。

***MAX** すべての通信回線の最大使用率がグラフに示されます。

通信回線名

使用率をグラフ上に示す通信回線の名前を指定してください。

通信回線の凡例記述として指定できる値は次の通りです。

***DFT** 通信回線名として指定された名前または特殊値が凡例記述として使用されます。

***BLANK**

通信回線の凡例記述はブランクのままです。

凡例記述

通信回線の凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できる**通信回線のグラフィックス表示の線のタイプ**の値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末で通信回線を表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末で通信回線を表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できる**通信回線に使用されるグラフィックス以外のワークステーション記号**の値は次の通りです。

***** 非グラフィックス端末で通信回線のグラフィックス表現としてアスタリスク(*) が使用されます。

文字 非グラフィックス端末で通信回線のグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

すべてのデータ項目 (ALLDATA)

すべてのジョブのグラフ上の情報の変更に使用する特性を指定します。このパラメーターが有効なのは、**DATATYPE(*ALL)**を指定している時だけです。

***SAME**

すべてのジョブ・データの特性が変更されません。

指定できる**すべてのジョブ・データの凡例記述**の値は次の通りです。

***DFT** 値*ALLが凡例記述として使用されます。

***BLANK**

データの凡例記述はブランクのままです。

凡例記述

データの凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できるすべてのジョブ・データのグラフィックス表示の線のタイプの値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末ですべてのジョブ・データを表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末ですべてのジョブ・データを表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できるすべてのジョブ・データに使用されるグラフィックス以外のワークステーション記号の値は次の通りです。

* 非グラフィックス端末ですべてのジョブ・データのグラフィックス表現としてアスタリスク記号が使用されます。

文字 非グラフィックス端末ですべてのジョブ・データのグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

例

```
CHGGPHFMT GRAPH(FORMAT1) DATATYPE(*ALL)
          ALLDATA(ABCCOMPANY *DFT 7)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATA内のFORMAT1という名前のグラフ様式を変更し、すべてのデータを一つのグループにします。データ凡例説明はABCCOMPANYとなり、グラフ上に実線で表示されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF0011

プロンプト一時変更プログラムによってエラーが検出された。

PFR9001

IOP変数を使用するためにはDATATYPE(*IOP)を指定しなければならない。

PFR9002

ディスク変数を使用するためには、DATATYPE(*DISK)を指定しなければならない。

PFR9003

YAXISにはIOP変数を指定しなければなりません。

PFR9004

YAXISにはディスク変数を指定しなければならない。

PFR9006

XAXISには*TIMEを指定しなければならない。

PFR9007

XAXISには*TIMEを指定しなければならない。

PFR9009

ライブラリー&1にグラフ様式&2が見つからなかった。

PFR9010

機能領域&2は存在していない。

PFR9014

指定したグラフの軸範囲が正しくない。

PFR9015

指定した優先順位限界が正しくない。

PFR9016

FCNARAパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9017

JOBTYPEDパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9018

PRIORITYパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9019

IOPパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9020

DISKパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9021

両方の軸変数を同じにすることはできない。

PFR9030

パッケージ&1に様式&2が入っている。

PFR9040

変数が*TIMEの場合には、範囲に*AUTOを指定してください。

PFR9081

機能領域名が正しくない。

PFR9090

通信回線変数を使用するためには、DATATYPE(*CMNLIN)を指定しなければならない。

PFR9091

YAXISに通信回線変数を指定しなければならない。

PFR9092

CMNLINパラメーターの値を指定しなければならない。

PFR9094

ライブラリー&2にグラフ様式&3が見つからなかった。

PFR9106

分散グラフに指定されたデータ行の行数が多すぎる。

PFR9116

*LGLDBIOが有効となるのは、*JOBTYPEがDATATYPEパラメーターに指定された場合だけである。

PFR9117

ジョブ・タイプ・パラメーターに*DDMを指定しなければなりません。

上

グラフ・パッケージの変更 (CHGGPHPKG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフ・パッケージ変更(CHGGPHPKG)コマンドは、1つまたは複数のグラフ様式を含むグラフ・パッケージを変更します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GPHPKG	グラフ・パッケージ	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: グラフ・パッケージ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u> , *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK, *SAME	オプション
GPHFMT	グラフ様式	単一値: *SAME, *SELECT その他の値 (最大 25 回の繰り返し): 名前	オプション

[トップ](#)

グラフ・パッケージ (GPHPKG)

作成また変更するグラフ・パッケージを指定します。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、グラフ・パッケージを見つける場所です。

*LIBL グラフ・パッケージを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

グラフ・パッケージを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフ・パッケージを見つけるライブラリーの名前を指定してください。

グラフ・パッケージ

グラフ・パッケージの名前を指定してください。これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

グラフ様式またはグラフ・パッケージを簡単に説明するユーザー定義のテキストを指定します。

*SAME

テキストは変更されません。

*BLANK

グラフ様式またはグラフ・パッケージのテキスト記述はブランクのままです。

記述 アポストロフィで囲まれた50文字を超えないテキストを指定してください。

[トップ](#)

様式 (GPHFMT)

グラフ・パッケージに含めるグラフ様式を指定します。

*SAME

グラフ様式のリストは変更されません。

*SELECT

グラフ・パッケージに含めるように選択するグラフ様式のリストのリストを表示します。この値は対話式環境でのみ有効です。

様式名 グラフ・パッケージに含めるグラフ様式を指定してください。最高25個の様式名を指定することができます。

[トップ](#)

例

例1:3つのフォーマットを含むようにグラフ・パッケージを変更する

```
CHGGPHPKG  GPHPKG(EXAMPLE) TEXT('THIS IS AN EXAMPLE')
            GPHFMT(GPH1 GPH9 GPH12)
```

このコマンドは、EXAMPLEというグラフ・パッケージを、GPH1、GPH9、およびGPH12の3つのフォーマットを含むように変更します。このパッケージはデフォルトのライブラリーQPFRDATA内にあります。

例2:2つのフォーマットを含むようにグラフ・パッケージを変更する

```
CHGGPHPKG  GPHPKG(MYLIB/MYPKG) TEXT('MY PACKAGE')
            GPHFMT(MYGPH1 MYGPH2)
```

このコマンドは、MYPKGというグラフ・パッケージを、MYGPH1およびMYGPH2の2つのフォーマットを含むように変更します。MYPKGはMYLIBライブラリーにあります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0011

プロンプト一時変更プログラムによってエラーが検出された。

PFR9012

ライブラリー&1にグラフ・パッケージ&2が見つからない。

PFR9013

グラフ様式&2を追加することはできない。

PFR9032

選択した様式が多すぎる。

[トップ](#)

ジョブ・タイプの変更 (CHGJOBTYPE)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

パラメーター

例
エラー・メッセージ

スレッド・セーフ: いいえ

ジョブ・タイプ変更(CHGJOBTYPE)コマンドでは、トランザクション報告書印刷(PRTTNSRPT)コマンドを使用して作成した報告書に現れるジョブのジョブ・タイプを変更することができます。このコマンドによって、ジョブの特性を（たとえば、バッチから対話式に）変更し、抜けているジョブ・タイプを訂正し、あるいはジョブ・タイプを割り当てることができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2

トップ

メンバー (MBR)

使用するパフォーマンス・データ・メンバーを指定します。この名前は、パフォーマンス・トレース終了(ENDPFRTRC)コマンドのMBRパラメーターに指定されているメンバー名と対応している必要があります。

これは必須パラメーターです。

トップ

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データが入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データ・ファイルはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

例1:新規セッションを開始する

```
CHGJOB TYP MBR(TEST) LIB(QPFRDATA)
```

このコマンドは、TESTメンバー(QPFRDATAライブラリーのQAPMDMPTファイル内) のジョブで、ジョブ・タイプが変更された可能性があるもの(例えばバッチ(B)から対話式(I)へ)のすべてのリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR3280

この報告書のパフォーマンス・データ・ファイルが存在していない。

[トップ](#)

機能領域のコピー (CPYFCNARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

業務分野コピー(CPYFCNARA)コマンドによって、ユーザーは業務分野を新しい業務分野にコピーすることができます。業務分野は、パフォーマンス・ツール報告書およびグラフィックス用に使用されます。業務分野は、報告書またはグラフに含まれるジョブ名とユーザー名の事前定義リストです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFCNARA	コピー元機能領域	文字値	必須, 定位置 1
FROMLIB	取り出しライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2
TOFCNARA	コピー先機能領域	文字値, <u>*FROMFCNARA</u>	オプション, 定位置 3
TOLIB	受け入れライブラリー名	名前, <u>*FROMLIB</u>	オプション, 定位置 4
REPLACE	置き換え	<u>*NO</u> , *YES	オプション

[トップ](#)

コピー元機能領域 (FROMFCNARA)

コピー元の業務分野の名前を指定します。名前の文字間にスペースが入っている場合には、名前をアポストロフィで囲んでください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

取り出しライブラリー (FROMLIB)

コピーする業務分野の入っている場所を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

QPFRDATA

IBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが業務分野の入っている場所です。

ライブラリー名

業務分野が入っているライブラリー名を指定してください。

コピー先機能領域 (TOFCNARA)

コピーの送り先の業務分野の名前を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

FROMFCNARA

FROMFCNARAパラメーターで指定された名前が使用されます。

業務分野名

コピーの送り先の業務分野の名前を指定します。名前の文字間にスペースが入っている場合には、名前をアポストロフィで囲んでください。

トップ

受け入れライブラリー名 (TOLIB)

そこへ業務分野のコピーが送られるライブラリーを指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***FROMLIB**

業務分野は、FROMLIBパラメーターで指定されたライブラリーにコピーされます。

ライブラリー名

業務分野をコピーするライブラリーの名前を指定してください。

トップ

置き換え (REPLACE)

業務分野がすでに存在している場合に、**コピー先機能領域**プロンプト (TOFCNARAパラメーター) の業務分野を置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 既存の業務分野は、新しい業務分野で置き換えられません。

***YES** 既存の業務分野は、新しい業務分野で置き換えられます。

トップ

例

例1:同じライブラリーにファイルをコピーする

```
CPYFCNARA FROMFCNARA(PERSONNEL) TOFCNARA(MIKE)
```

このコマンドは、業務分野PERSONNELを業務分野MIKEにコピーします。2つの業務分野は、共にライブラリーQPFRDATAにあります。

例2:別のライブラリーにコピーする

```
CPYFCNARA FROMFCNARA('PERFORMANCE TOOLS')
          TOFCNARA(MIKE) TOLIB(USRLIB)
```

このコマンドは、「PERFORMANCE TOOLS」という業務分野を、USRLIBライブラリーの業務分野MIKEにコピーします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR9062

TOFCNARAパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9065

機能領域&2をコピーすることはできない。

PFR9066

機能領域&2にコピーすることはできない。

[トップ](#)

グラフ様式のコピー (CPYGPHFMT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフ様式コピー(CPYGPHFMT)コマンドは、既存のグラフ様式をユーザーが指定したグラフ様式にコピーします。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFMT	コピー元様式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コピー元様式	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u> , *CURLIB	
TOFMT	コピー先様式	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: コピー先様式	名前, *FROMFMT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *FROMLIB, *CURLIB	
REPLACE	置き換え	*NO, *YES	オプション

トップ

コピー元様式 (FROMFMT)

コピーを作成するグラフ様式を指定します。

これは必須パラメーターです。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・ライブラリーQPFRDATAは、グラフ様式のコピーが入っているライブラリーです。

*CURLIB

グラフ様式を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフ様式を見つけるライブラリーの名前を指定してください。

様式名 グラフ様式の名前を指定してください。

コピー先様式 (TOFMT)

コピーを作成するグラフ様式の位置を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***FROMLIB**

グラフ様式は、FROMFMTパラメーターで指定されたライブラリーに入っています。

***CURLIB**

グラフ様式のコピーはジョブの現行ライブラリーに入れられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフ様式のコピーが入れられるライブラリーの名前を指定してください。

***FROMFMT**

FROMFMTパラメーターで指定されたグラフ様式名が使用されます。

様式名 グラフ様式のコピーの名前を指定してください。

トップ

置き換え (REPLACE)

グラフ様式がすでに存在している場合に、**コピー先様式**プロンプト (TOFMTパラメーター) のグラフ様式を置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 既存のグラフ様式が新しいグラフ様式で置き換えられません。

***YES** 既存のグラフ様式が新しいグラフ様式で置き換えられます。

トップ

例

例1:コピーをデフォルトのライブラリーに送信する

```
CPYGPHEMT FROMFMT(MYFMT) TOFMT(YOURFMT)
```

このコマンドはMYFMTのコピーを送り、ライブラリーQPFRDATAのYOURFMTに保管します。

例2:コピーを指定したライブラリーに送信する

```
CPYGPHEMT FROMFMT(MYLIB/FMT1) TOFMT(YOURLIB/FMT2)
```

このコマンドはMYLIBライブラリー内のFMT1のコピーを送り、ライブラリーYOURLIBのFMT2に保管します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR9043

&1はライブラリー&2に存在していない。

[トップ](#)

グラフ・パッケージのコピー (CPYGPHPKG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

グラフ・パッケージ・コピー(CPYGPHPKG)コマンドは、既存のグラフ・パッケージをユーザーが指定したグラフ・パッケージにコピーします。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMPKG	コピー元パッケージ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コピー元パッケージ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u> , *CURLIB	
TOPKG	コピー先パッケージ	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: コピー先パッケージ	名前, * <u>FROMPKG</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>FROMLIB</u> , *CURLIB	
REPLACE	置き換え	* <u>NO</u> , *YES	オプション

トップ

コピー元パッケージ (FROMPKG)

コピーを作成するグラフ・パッケージを指定します。

これは必須パラメーターです。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、グラフ・パッケージを見つける場所です。

*CURLIB

グラフ・パッケージを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフ・パッケージを見つけるライブラリーの名前を指定してください。

パッケージ名

グラフ・パッケージの名前を指定してください。

コピー先パッケージ (TOPKG)

コピーの作成先であるグラフ・パッケージの位置を指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***FROMLIB**

グラフ・パッケージが、FROMPKGパラメーターで指定されたライブラリーにコピーされます。

***CURLIB**

グラフ・パッケージのコピーはジョブの現行ライブラリーに入れられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフ・パッケージが入られるライブラリーの名前を指定してください。

***FROMPKG**

FROMPKGパラメーターで指定されたグラフ・パッケージ名が使用されます。

パッケージ名

グラフ・パッケージの名前を指定してください。

トップ

置き換え (REPLACE)

グラフ・パッケージがすでに存在していた場合に、コピー先パッケージプロンプト (TOPKGパラメーター) のグラフ・パッケージを置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 既存のグラフ・パッケージが新しいグラフ・パッケージで置き換えられません

***YES** 既存のグラフ・パッケージが新しいグラフ・パッケージで置き換えられます。

トップ

例

例1:コピーをデフォルトのライブラリーに送信する

```
CPYGPHPKG FROMPKG(MYPKG) TOPKG(YOURPKG)
```

このコマンドはMYPKGのコピーを送り、ライブラリーQPFRDATAのYOURPKGに保管します。

例2:コピーを指定したライブラリーに送信する

```
CPYGPHPKG FROMPKG(MYLIB/PKG1) TOPKG(YOURLIB/PKG2)
```

このコマンドはMYLIBライブラリー内のPKG1のコピーを送り、ライブラリーYOURLIBのPKG2に保管します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR9043

&1はライブラリー&2に存在していない。

機能領域の作成 (CRTFCNARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

業務分野作成(CRTFCNARA)コマンドによって、ユーザーはシステムの業務分野を作成することができます。業務分野は、報告書およびグラフィックス用にパフォーマンス・ツールによって使用されます。業務分野は、報告書およびグラフに含まれるジョブ名またはユーザー名あるいはその両方の事前定義リストです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FCNARA	機能領域	文字値	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: *NONE その他の値 (最大 250 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前	

トップ

機能領域 (FCNARA)

作成または変更する業務分野の名前を指定します。名前の文字間にスペースが入っている場合には、名前をアポストロフィで囲んでください。

これは必須パラメーターです。

トップ

ライブラリー (LIB)

業務分野が入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

業務分野はIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAに入っています。

ライブラリー名

業務分野が入っているライブラリー名を指定してください。

テキスト'記述' (TEXT)

業務分野を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

記述 アポストロフィで囲まれた、30文字を超えないテキストを指定してください。

トップ

ジョブ名 (JOB)

業務分野に含めるジョブのリストを指定します。ジョブ識別コードは、特殊値*NONE または最高2要素の修飾名を択一します。たとえば、次の通りです。

*NONE

ジョブ名
ユーザー名/ジョブ名

指定する値に続く要素の代わりに*Nを使用することができます。たとえば、USER1 /*Nはジョブ名とは無関係に、ユーザー名USER1を指定します。*Nを指定しない場合には、USER1は、ユーザー名ではなくジョブ名として解釈されることがあります。

*NONE

空の業務分野が作成されます。

ジョブ名

業務分野に含めるジョブの名前を指定してください。これは、特定の名前または総称名とすることができます。

ユーザー名

業務分野に含めるユーザーの名前を指定してください。これは、特定の名前または総称名とすることができます。

トップ

例

例1:デフォルト・ライブラリーの業務分野を作成する

```
CRTFCNARA FCNARA(PERSONNEL) JOB(MIKE/*N ROSS/*N QPFR*)
```

このコマンドは、以下の3つのエントリーを含む業務分野PERSONNELを作成します。:

- ユーザーMIKE
- ユーザーROSS
- QPFRで始まる名前のジョブ

業務分野はライブラリーQPFRDATAに作成されます。

例2:指定されたライブラリーに業務分野を作成する

```
CRTFCNARA  FCNARA('PERFORMANCE TOOLS') LIB(RPFT)
            JOB(TODD/*N MARTY/*N DEB/QPFRMON)
```

このコマンドは、以下の3つのエントリーを含む業務分野「PERFORMANCE TOOLS」を作成します:

- ユーザーTODD
- ユーザーMARTY
- DEBによってサブミットされたQPFRMONという名前のジョブ

業務分野はライブラリーRPFTに作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR9063

機能領域&2を作成することはできない。

[トップ](#)

グラフ様式の作成 (CRTGPHFMT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフ様式作成(CRTGPHFMT)コマンドは、パフォーマンス・データ・メンバーから作成されるパフォーマンスおよび実績グラフを表示するために使用されるグラフ様式を作成します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
GPHFMT	グラフ様式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: グラフ様式	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	
TEXT	テキスト・記述	文字値, * <u>BLANK</u>	オプション, 定位置 2
TITLE	タイトル	文字値, * <u>BLANK</u> , *MBRTEXT	オプション, 定位置 3
SUBTITLE	サブタイトル	文字値, * <u>BLANK</u> , *MBRTEXT	オプション
GPHTYPE	グラフ・タイプ	* <u>SURFACE</u> , * <u>LINE</u> , * <u>CBAR</u> , * <u>FBAR</u> , * <u>SCATTER</u>	オプション
DATATYPE	データ・タイプ	* <u>FCNARA</u> , * <u>JOBTYPE</u> , * <u>PRIORITY</u> , * <u>IOP</u> , * <u>DISK</u> , * <u>CMNLINE</u> , * <u>ALL</u>	オプション
AREAFILL	区域充てん	* <u>YES</u> , * <u>NO</u>	オプション
REFLINE	基準線	1-99999, * <u>NONE</u>	オプション
XAXIS	X軸	要素リスト	オプション
	要素 1: 変数	* <u>TIME</u> , * <u>CPU</u> , * <u>TNS</u> , * <u>NBRTNS</u> , * <u>RSP</u> , * <u>SYNCIO</u> , * <u>NBRSYNC</u> , * <u>ASYNCIO</u> , * <u>NBRASYNC</u> , * <u>TOTDSKIO</u> , * <u>NBRDSKIO</u>	
	要素 2: タイトル	文字値, * <u>DFT</u> , * <u>BLANK</u>	
	要素 3: 範囲	単一値: * <u>AUTO</u> その他の値: 要素リスト	
	要素 1: 最初の	10 進数	
	要素 2: 最後の	10 進数	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
YAXIS	Y軸	要素リスト	オプション
	要素 1: 変数	*CPU, *TNS, *NBRTNS, *RSP, *SYNCIO, *NBRASYNC, *ASYNCIO, *NBRASYNC, *TOTDSKIO, *NBRDSKIO, *CMNIOP, *DSKIOP, *LWSIOP, *MFCIOP, *MFDIOP, *DSKARM, *PCTDSKOCC, *CMNLIN, *LGLDBIO	
	要素 2: タイトル	文字値, *DFT, *BLANK	
	要素 3: 範囲	単一値: *AUTO その他の値: 要素リスト	
	要素 1: 最初の	10 進数	
	要素 2: 最後の	10 進数	
FCNARA	機能領域項目	値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 機能領域	文字値, *OTHER	
	要素 2: 凡例記述	文字値, *DFT, *BLANK	
	要素 3: 線のタイプ	1-8, 7	
	要素 4: 非図形表示記号	文字値, *	
JOBTYPE	ジョブ・タイプ項目	値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ・タイプ	*ALL, *ALLINTER, *ALLBATCH, *ALLSYSTEM, *ASJ, *BCH, *CA4, *DDM, *EVK, *INT, *MRT, *PCS, *PDJ, *PJ, *PTH, *RDR, *S36, *SBS, *SYS, *WTR, *OTHER	
	要素 2: 凡例記述	文字値, *DFT, *BLANK	
	要素 3: 線のタイプ	1-8, 7	
	要素 4: 非図形表示記号	文字値, *	
PRIORITY	ジョブ優先順位項目	値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 優先順位の下限	0-99, *OTHER, *ALL	
	要素 2: 優先順位の上限	0-99	
	要素 3: 凡例記述	文字値, *DFT, *BLANK	
	要素 4: 線のタイプ	1-8, 7	
	要素 5: 非図形表示記号	文字値, *	
IOP	IOPデータ項目	値 (最大 2 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 稼働率のタイプ	*AVG, *MAX	
	要素 2: 凡例記述	文字値, *DFT, *BLANK	
	要素 3: 線のタイプ	1-8, 7	
	要素 4: 非図形表示記号	文字値, *	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DISK	ディスク・データ項目	値 (最大 2 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 稼働率のタイプ	*AVG, *MAX	
	要素 2: 凡例記述	文字値, *DFT, *BLANK	
	要素 3: 線のタイプ	1-8, 7	
	要素 4: 非図形表示記号	文字値, *	
CMNLINE	通信回線項目	値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 通信回線	名前, *MAX	
	要素 2: 凡例記述	文字値, *DFT, *BLANK	
	要素 3: 線のタイプ	1-8, 7	
	要素 4: 非図形表示記号	文字値, *	
ALLDATA	すべてのデータ項目	要素リスト	オプション
	要素 1: 凡例記述	文字値, *DFT, *BLANK	
	要素 2: 線のタイプ	1-8, 7	
	要素 3: 非図形表示記号	文字値, *	

上

グラフ様式 (GPHFMT)

作成するグラフ様式を指定します。

これは必須パラメーターです。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、グラフ様式を見つける場所です。

ライブラリー名

グラフ様式を見つけるライブラリーの名前を指定してください。

様式名 作成するグラフ様式の名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

グラフ様式またはグラフ・パッケージを簡単に説明するユーザー定義のテキストを指定します。

*BLANK

グラフ様式またはグラフ・パッケージのテキスト記述はブランクのままです。

記述 アポストロフィで囲まれた50文字を超えないテキストを指定してください。

上

タイトル (TITLE)

グラフのタイトルを指定します。

***BLANK**

グラフのタイトルはブランクのままです。

***MBRTEXT**

この様式のグラフの作成に使用されたデータベース・メンバーのテキストがタイトルとして使用されます。

グラフ・タイトル

この様式を使用して作成されたグラフのタイトルを50文字以内の長さで指定してください。ユーザー定義のタイトルをアポストロフィで囲んでください。

上

サブタイトル (SUBTITLE)

グラフのサブタイトルを指定します。

***BLANK**

サブタイトルのグラフはブランクのままです。

***MBRTEXT**

この様式のグラフの作成に使用されたデータベース・メンバーのテキストがサブタイトルとして使用されます。

グラフ・サブタイトル

この様式を使用して作成されたグラフのサブタイトルを50文字以内の長さで指定してください。ユーザー定義のサブタイトルをアポストロフィで囲んでください。

上

グラフ・タイプ (GPHTYPE)

作成するグラフのタイプを指定します。

***SURFACE**

グラフは面グラフです。

***LINE** グラフは折れ線グラフです。

***CBAR**

グラフは複合棒グラフです。

***FBAR**

グラフは浮動棒グラフです。

***SCATTER**

グラフは分散図表です。

上

データ・タイプ (DATATYPE)

グラフに含めるデータのタイプを指定します。

***ALL** この値は、グラフ表示のためにすべてのジョブを1つのグループに入れます。

*FCNARA

この値はジョブを、グラフ表示される各機能領域に入れます。機能領域はグラフ表示されるデータに対して固有としなければなりません。すなわち、グラフ用に選択された機能領域の複数にジョブが存在している場合には、複数の機能領域にジョブが存在していることを示すエラー・メッセージが出されます。また、実績データをグラフ表示するために機能領域を使用することはできません。

*JOBTYPE

この値には、対話式などの個々のジョブ・タイプおよび*ALLINTER（すべて対話式）、*ALLBATCH（すべてバッチ）、および*ALLSYSTEM（すべてシステム）などの集成タイプが含まれます。「すべて対話式」とはジョブ・タイプ I のジョブのことであり、これには対話式、System i Access、システム/36、MRT、および表示装置パススルー・ジョブが含まれます。

*PRIORITY

この値は、ジョブを優先順位の範囲に入れます。たとえば、10-20の範囲には、10-20の優先順位をもつすべてのジョブが含まれます。

***IOP** この値によって、特定のタイプの入出力プロセッサの最大および平均使用率の折れ線グラフを表示することができます。

DATATYPE(*IOP)を指定する場合には、次の組み合わせの1つを指定しなければなりません。

- YAXIS(*CMNIOP)およびXAXIS(*TIME)
- YAXIS(*DSKIOP)およびXAXIS(*TIME)
- YAXIS(*LWSIOP)およびXAXIS(*TIME)
- YAXIS(*MFCIOP)およびXAXIS(*TIME)
- YAXIS(*MFDIOP)およびXAXIS(*TIME)

***DISK** この値によって、ディスク・アームの最大および平均使用率の折れ線グラフを表示することができます。また、ディスク占有パーセントの折れ線グラフも表示することができます。

DATATYPE(*DISK)を指定する場合には、次の組み合わせの1つを指定しなければなりません。

- YAXIS(*DSKARM)およびXAXIS(*TIME)
- YAXIS(*PCTDSKOCC)およびXAXIS(*TIME)

*CMNLINE

この値によって、個々の通信回線の使用状況またはすべての通信回線の最大使用状況をグラフ表示することができます。この値は、YAXIS(*CMNLINE)およびXAXIS(*TIME)が指定される場合にだけ有効です。

上

区域充てん (AREAFILL)

グラフの区域を充てんするかどうかを指定します。

***YES** グラフの区域は充てんされます。

***NO** グラフの区域は充てんされません。

基準線 (REFLINE)

グラフの基準線を入れる位置を指定します。基準線はY軸上に入れます。線はX軸に並行です。

*NONE

基準線はグラフに入れません。

基準線の数値

基準線が入れるY軸上の数字を指定してください。

X軸 (XAXIS)

グラフ上のX軸の作成用に使用される特性のリストを指定します。

指定できるX軸変数の値は次の通りです。

*TIME

時間がX軸に沿ってマップされます。

*CPU 処理装置の使用率がX軸に沿ってマップされます。

*TNS 1時間当たりのトランザクション数がX軸に沿ってマップされます。

*NBRTNS

トランザクションの合計数がX軸に沿ってマップされます。

*RSP 応答時間がX軸に沿ってマップされます。

*SYNCIO

1秒当たりの同期ディスク入出力(I/O)回数がX軸に沿ってマップされます。

*NBRSYNC

同期ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がX軸に沿ってマップされます。

*ASYNCIO

1秒当たりの非同期ディスク入出力(I/O)回数がX軸に沿ってマップされます。

*NBRASYNC

非同期ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がX軸に沿ってマップされます。

*TOTDSKIO

1秒当たりの合計ディスク入出力(I/O)回数がX軸に沿ってマップされます。

*NBRDSKIO

ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がX軸に沿ってマップされます。

指定できるX軸タイトルの値は次の通りです。

*DFT X軸の変数がX軸のタイトルとして使用されます。

*BLANK

X軸のタイトルはブランクのままです。

X軸タイトル

X軸のタイトルを30文字以内で指定してください。タイトルをアポストロフィで囲んでください。

指定できるX軸の開始および終了範囲の値は次の通りです。

*AUTO

X軸の範囲は自動的に計算されます。*TIMEをX軸変数として指定する場合には、この値を指定しなければなりません。

開始番号

X軸の範囲の開始番号を指定してください。開始番号を指定した場合には、終了番号も指定しなければなりません。

終了番号

X軸の範囲の終了番号を指定してください。終了番号を指定した場合には、開始番号も指定しなければなりません。

上

Y軸 (YAXIS)

グラフ上のY軸の作成用に使用される特性のリストを指定します。

指定できるY軸変数の値は次の通りです。

*CPU 処理装置の使用率がY軸に沿ってマップされます。

*TNS 1時間当たりのトランザクション数がY軸に沿ってマップされます。

*NBRTNS

トランザクションの合計数がY軸に沿ってマップされます。

*RSP 応答時間がY軸に沿ってマップされます。

*SYNCIO

1秒当たりの同期ディスク入出力(I/O)回数がY軸に沿ってマップされます。

*NBRSYNC

同期ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がY軸に沿ってマップされます。

*ASYNCIO

1秒当たりの非同期ディスク入出力(I/O)回数がY軸に沿ってマップされます。

*NBRASYNC

非同期ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がY軸に沿ってマップされます。

*TOTDSKIO

合計ディスク入出力/秒がY軸に沿ってマップされます。

*NBRDSKIO

ディスク入出力(I/O)操作の合計回数がY軸に沿ってマップされます。

*CMNIOP

通信入出力プロセッサ(IOP)の使用率がY軸に沿ってマップされます。YAXIS(*CMNIOP)を指定する場合には、XAXIS(*TIME)を指定しなければなりません。

***DSKIOP**

ディスクIOPの使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*DSKIOP)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***LWSIOP**

ローカル・ワークステーションIOPの使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*LWSIOP)**を指定した場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***MFCIOP**

通信の多機能IOPの使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*MFCIOP)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***MFDIOP**

ディスクの多機能IOPの使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*MFDIOP)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***DSKARM**

ディスク・アームの使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*DSKARM)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***PCTDSKOCC**

ディスクを占有する情報のパーセントがY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*PCTDSKOCC)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***CMNLIN**

通信回線の使用率がY軸に沿ってマップされます。**YAXIS(*CMNLIN)**を指定する場合には、**XAXIS(*TIME)**を指定しなければなりません。

***LGLDBIO**

論理データベース入出力操作の合計数がY軸に沿ってマップされます。

指定できるY軸タイトルの値は次の通りです。

***DFT** Y軸の変数がY軸のタイトルとして使用されます。

***BLANK**

Y軸のタイトルはブランクのままです。

Y軸タイトル

Y軸のタイトルを30文字以内の長さで指定してください。タイトルをアポストロフィで囲んでください。

指定できるY軸の開始および終了範囲の値は、次の通りです。

***AUTO**

Y軸範囲は自動的に計算されます。

開始番号

Y軸の範囲の開始番号を指定してください。開始番号を指定した場合には、終了番号も指定しなければなりません。

終了番号

Y軸の範囲の終了番号を指定してください。終了番号を指定した場合には、開始番号も指定しなければなりません。

上

機能領域項目 (FCNARA)

グラフ上の各機能領域に使用する特性のリストを指定します。このパラメーターが有効なのは、**DATATYPE(*FCNARA)**を指定している時だけです。**DATATYPE(*FCNARA)**を指定した時には、1つ以上で16個を超えない機能領域項目を指定しなければなりません。

指定できる**機能領域名**の値は次の通りです。

*OTHER

このパラメーターに指定した機能領域の1つに属していないすべてのジョブが、一緒にグループ化されます。

機能領域名

機能領域の名前を指定してください。

指定できる**機能領域凡例記述**の値は次の通りです。

***DFT** 機能領域名として指定された名前または特殊値が凡例記述として使用されます。

*BLANK

機能領域の凡例記述はブランクのままです。

凡例記述

機能領域の凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できる**グラフィックス表示の線のタイプ**の値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末では、機能領域を表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末で機能領域を表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できる**機能領域に使用する非グラフィックス・ワークステーション記号**の値は次の通りです。

*** _** 非グラフィックス端末では、機能領域のグラフィックス表現としてアスタリスク記号が使用されません。

文字 非グラフィックス端末で機能領域のグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

ジョブ・タイプ項目 (JOBTYPE)

グラフ上のジョブ・タイプ情報の作成に使用する特性のリストを指定します。このパラメーターが有効なのは、**DATATYPE(*JOBTYPE)**を指定している時だけです。**DATATYPE(*JOBTYPE)**を指定した時には、1つ以上で16個を超えないジョブ・タイプ項目を指定しなければなりません。

考えられるジョブ・タイプの値は、次の通りです。

***ALL** すべてのジョブ・タイプと一緒にグループ化されます。

***ALLINTER**

すべての対話式ジョブ・タイプには次のものが含まれます。

- DDMジョブ
- パススルー・ジョブ
- System i Accessサーバー・ジョブで、バッチ活動のみを処理するジョブは除く
- 対話式ジョブ
- システム/36環境ジョブ
- 複数要求端末ジョブ

***ALLBATCH**

すべてのバッチ・ジョブ・タイプには次のものが含まれます。

- バッチ・ジョブ
- System i Accessサーバー・ジョブで、バッチ活動のみを処理するもの
- 呼び出しジョブ
- 書き出しプログラム・ジョブ
- 読み取りプログラム・ジョブ
- 事前開始ジョブ
- 自動開始ジョブ
- 印刷ドライバー・ジョブ

***ALLSYSTEM**

すべてのシステム・ジョブには次のものが含まれます。

- システム・ジョブ
- サブシステム・モニター・ジョブ

***ASJ** 自動開始ジョブ

***BCH** バッチ・ジョブ

***CA4** System i Accessサーバー・ジョブ

***DDM** 分散データ管理機能 (DDMジョブ)

***EVK** プロシーチャー開始要求によって開始されたジョブ

***INT** 対話式ジョブ

***MRT** 複数要求端末ジョブ

***PCS** System i Accessサーバー・ジョブ

***PDJ** 印刷ドライバー・ジョブ

***PJ** 事前開始ジョブ

- *PTH パススルー・ジョブ
- *RDR 読み取りプログラム・ジョブ
- *S36 システム/36環境ジョブ
- *SBS サブシステム・モニター・ジョブ
- *SYS システム・ジョブ
- *WTR 書き出しプログラム・ジョブ
- *OTHER

このパラメーターで指定されなかったすべてのジョブ・タイプが、一緒にグループ化されます。

指定できるジョブ・タイプ凡例記述の値は次の通りです。

*DFT ジョブ・タイプに指定された値が凡例記述として使用されます。

***BLANK**

ジョブ・タイプの凡例記述はブランクのままです。

凡例記述

ジョブ・タイプの凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できるジョブ・タイプのグラフィックス表示の線のタイプの値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末でジョブ・タイプを表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末でジョブ・タイプを表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できるジョブ・タイプに使用されるグラフィックス以外のワークステーション記号の値は次の通りです。

* 非グラフィックス端末でのジョブ・タイプのグラフィックス表現としてアスタリスク(*)が使用されます。

文字 非グラフィックス端末でジョブ・タイプのグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

ジョブ優先順位項目 (PRIORITY)

グラフ上のジョブ優先順位情報を作成するために使用する特性を指定します。このパラメーターは、**DATATYPE(*PRIORITY)**を指定した時にだけ有効です。**DATATYPE(*PRIORITY)**を指定した時には、1つ以上で16個を超えないジョブ優先順位項目を指定しなければなりません。

指定できるジョブ優先順位の値は、次の通りです。

***ALL** すべてのジョブ優先順位が一緒にグループ化されます。

***OTHER**

このパラメーターで指定されたジョブ優先順位境界内に入らないすべてのジョブ優先順位が、一緒にグループ化されます。

優先順位の下限

ジョブ優先順位の下限を指定してください。有効な値の範囲は0-99です。

優先順位の上限

ジョブ優先順位の上限を指定してください。0 - 99の範囲の値を指定することができます。上限の値は下限の値より大きいか等しくなければなりません。

指定できるジョブ優先順位凡例記述の値は次の通りです。

***DFT** ジョブ優先順位として指定した上限または下限の値あるいは特殊値が凡例記述として使用されます。

***BLANK**

ジョブ優先順位の凡例記述はブランクのままにしておかれます。

凡例記述

ジョブ優先順位の凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できるジョブ優先順位のグラフィックス表示の線のタイプの値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末でジョブ優先順位を表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末でジョブ優先順位を表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できるジョブ優先順位に使用されるグラフィックス以外のワークステーション記号の値は次の通りです。

- * 非グラフィックス端末でジョブ優先順位のグラフィックス表現としてアスタリスク記号が使用されます。
- 文字 非グラフィックス端末でジョブ優先順位のグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

IOPデータ項目 (IOP)

グラフの入出力プロセッサ(IOP)情報の作成に使用される特性を指定します。このパラメーターが有効なのは、**DATATYPE(*IOP)**を指定している場合だけです。**DATATYPE(*IOP)**を指定している場合には、1つ以上で2つを超えないIOPデータ項目を指定しなければなりません。

指定できる**IOPタイプ**の使用率の大きさの値は、次の通りです。

- ***AVG** IOPタイプの平均使用率がグラフに示されます。
- ***MAX** IOPタイプの最大使用率がグラフに示されます。

指定できる**IOPタイプ**の**凡例記述**の値は次の通りです。

***DFT** 使用率の大きさに指定された値が凡例記述として使用されます。

***BLANK**

IOPデータの凡例記述はブランクのままにしておかれます。

凡例記述

IOPデータの凡例記述を指定してください。このユーザー定義の記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できる**IOPタイプ**の**グラフィックス表示の線のタイプ**の値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末でIOPタイプを表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末でIOPタイプを表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できる**IOPタイプ**に使用される**グラフィックス以外のワークステーション記号**の値は次の通りです。

- * 非グラフィックス端末でIOPタイプのグラフィックス表現としてアスタリスク(*)が使用されます。

文字 非グラフィックス端末でIOPタイプのグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

ディスク・データ項目 (DISK)

グラフのディスク・データ情報の作成に使用される特性を指定します。このパラメーターが有効なのは、**DATATYPE(*DISK)**を指定している時だけです。**DATATYPE(*DISK)**を指定した時には、1つ以上で2個を超えないディスク・データ項目を指定しなければなりません。ディスク・データのタイプはディスク・アーム使用率と占有するディスクのパーセントです。

指定できる**ディスク・データ・タイプ**の使用率の大きさの値は、次の通りです。

***AVG** ディスク・データ・タイプの平均使用率がグラフに示されます。

***MAX** ディスク・データ・タイプの最大使用率がグラフに示されます。

指定できる**ディスク・データ・タイプ**の**凡例記述**の値は次の通りです。

***DFT** 使用率の大きさに指定された値が凡例記述として使用されます。

***BLANK**

ディスク・データ・タイプの凡例記述はブランクのままにしておかれます。

凡例記述

ディスク・データ・タイプの凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できる**ディスク・データ・タイプ**の**グラフィックス表示の線のタイプ**の値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末でディスク・データ・タイプを表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末でディスク・データ・タイプを表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できる**ディスク・データ・タイプ**に使用される**グラフィックス以外のワークステーション記号**の値は次の通りです。

***** 非グラフィックス端末でディスク・データのグラフィックス表現としてアスタリスク(*)が使用されます。

文字 非グラフィックス端末でディスク・データのグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

通信回線項目 (CMNLINE)

グラフの通信回線情報の作成に使用する特性を指定します。このパラメーターが有効なのは、**DATATYPE(*CMNLINE)**を指定している場合だけです。**DATATYPE(*CMNLINE)**を指定する場合には、1つ以上で16を超えない通信回線項目を指定しなければなりません。

指定できる通信回線名の値は次の通りです。

***MAX** すべての通信回線の最大使用率がグラフに示されます。

通信回線名

使用率をグラフ上に示す通信回線の名前を指定してください。

通信回線の凡例記述として指定できる値は次の通りです。

***DFT** 通信回線名として指定された名前または特殊値が凡例記述として使用されます。

*BLANK

通信回線の凡例記述はブランクのままです。

凡例記述

通信回線の凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できる通信回線のグラフィックス表示の線のタイプの値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末で通信回線を表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末で通信回線を表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できる通信回線に使用されるグラフィックス以外のワークステーション記号の値は次の通りです。

***** 非グラフィックス端末で通信回線のグラフィックス表現としてアスタリスク(*) が使用されます。

文字 非グラフィックス端末で通信回線のグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

すべてのデータ項目 (ALLDATA)

すべてのジョブのグラフ上での情報の作成に使用する特性を指定します。このパラメーターが有効なのは、**DATATYPE(*ALL)**を指定している時だけです。

指定できるすべてのジョブ・データの**凡例記述**の値は次の通りです。

***DFT** 値*ALLが凡例記述として使用されます。

***BLANK**

データの凡例記述はブランクのままです。

凡例記述

データの凡例記述を指定してください。記述はアポストロフィで囲んでください。

指定できるすべてのジョブ・データの**グラフィックス表示の線のタイプ**の値は次の通りです。

7 (実線)

グラフィックス端末ですべてのジョブ・データを表す線として実線が使用されます。

線のタイプの番号

グラフィックス端末ですべてのジョブ・データを表す線に使用する線のタイプの番号を指定してください。選択できる8つの線タイプは次の通りです。

1. 点線
2. 短い破線
3. 鎖線
4. 二重点線
5. 長い破線
6. 2点鎖線
7. 実線
8. 非表示

指定できるすべてのジョブ・データに使用される**グラフィックス以外のワークステーション記号**の値は次の通りです。

***** 非グラフィックス端末ですべてのジョブ・データのグラフィックス表現としてアスタリスク記号が使用されます。

文字 非グラフィックス端末ですべてのジョブ・データのグラフィックス表現として使用する文字を指定してください。

上

例

```
CRTGPHFMT  GPHFMT(FORMAT1)  TITLE(*MBRTEXT)  DATATYPE(*FCNARA)
            FCNARA((ACCOUNTING 'ACCOUNTING') (SALES 'SALES' 7 #)
                   (OFFICE 'OFFICE' 7 @))
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATAにFORMAT1という名前のグラフ様式を作成します。タイトルはこのフォーマットを用いてグラフに表示されるメンバーで指定したテキストになります。グラフは面グラフで、区域充てんはなく(NO AREA FILL)、基準線も指定されていません。グラフ化されるジョブは以下の3つのファンクション・エリアによってグループ化されます。:

1. ACCOUNTING
2. SALES
3. OFFICE

ACCOUNTINGのファンクション・エリアは、グラフ上に実線で表示され、ACCOUNTINGというラベルがつきます。このフォーマットが非グラフィック・ワークステーションで表示される場合、ACCOUNTINGのファンクション・エリアの表示にはアスタリスク(*)記号が使用されます。SALESおよびOFFICEのファンクション・エリアは、ACCOUNTINGファンクション・エリアとほぼ同様にフォーマットされますが、非グラフィック・ワークステーションで表示される場合は、SALESのグラフは#記号で、またOFFICEのグラフは@記号で表示されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0011

プロンプト一時変更プログラムによってエラーが検出された。

PFR9001

IOP変数を使用するためにはDATATYPE(*IOP)を指定しなければならない。

PFR9002

ディスク変数を使用するためには、DATATYPE(*DISK)を指定しなければならない。

PFR9003

YAXISにはIOP変数を指定しなければなりません。

PFR9004

YAXISにはディスク変数を指定しなければならない。

PFR9006

XAXISには*TIMEを指定しなければならない。

PFR9007

XAXISには*TIMEを指定しなければならない。

PFR9008

グラフ様式&2はライブラリー&1にすでに存在している。

PFR9010

機能領域&2は存在していない。

PFR9014

指定したグラフの軸範囲が正しくない。

PFR9015

指定した優先順位限界が正しくない。

PFR9016

FCNARAパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9017

JOBTYPEDパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9018

PRIORITYパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9019

IOPパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9020

DISKパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9021

両方の軸変数を同じにすることはできない。

PFR9040

変数が*TIMEの場合には、範囲に*AUTOを指定してください。

PFR9081

機能領域名が正しくない。

PFR9090

通信回線変数を使用するためには、DATATYPE(*CMNLINE)を指定しなければならない。

PFR9091

YAXISに通信回線変数を指定しなければならない。

PFR9092

CMNLINEパラメーターの値を指定しなければならない。

PFR9093

グラフ様式&3はライブラリー&2にすでに存在している。

PFR9104

GDFファイル&2のレコード長が正しくない。

PFR9106

分散グラフに指定されたデータ行の行数が多すぎる。

PFR9116

*LGLDBIOが有効となるのは、*JOBTYPEがDATATYPEパラメーターに指定された場合だけである。

PFR9117

ジョブ・タイプ・パラメーターに*DDMを指定しなければなりません。

PFR9804

ライブラリー&2が見つからない。

上

グラフ・パッケージの作成 (CRTGPHPKG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフ・パッケージ作成(CRTGPHPKG)コマンドは、1つまたは複数のグラフ様式を含むグラフ・パッケージを作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GPHPKG	グラフ・パッケージ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: グラフ・パッケージ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u> , *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
GPHFMT	グラフ様式	単一値: *SELECT その他の値 (最大 25 回の繰り返し): 名前	オプション

[トップ](#)

グラフ・パッケージ (GPHPKG)

作成また変更するグラフ・パッケージを指定します。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、グラフ・パッケージを見つける場所です。

*LIBL グラフ・パッケージを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

グラフ・パッケージを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフ・パッケージを見つけるライブラリーの名前を指定してください。

グラフ・パッケージ

グラフ・パッケージの名前を指定してください。これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

グラフ様式またはグラフ・パッケージを簡単に説明するユーザー定義のテキストを指定します。

*BLANK

グラフ様式またはグラフ・パッケージのテキスト記述はブランクのままです。

記述 アポストロフィで囲まれた50文字を超えないテキストを指定してください。

トップ

様式 (GPHFMT)

グラフ・パッケージに含めるグラフ様式を指定します。

*SELECT

グラフ・パッケージに含めるように選択するグラフ様式のリストのリストを表示します。この値は対話式環境でのみ有効です。

様式名 グラフ・パッケージに含めるグラフ様式を指定してください。最高25個の様式名を指定することができます。

トップ

例

例1:3つのフォーマットを含むパッケージを作成する

```
CRTGPHPKG  GHPKG(EXAMPLE) TEXT('THIS IS AN EXAMPLE')
            GPHFMT(GPH1 GPH9 GPH12)
```

このコマンドは、GPH1、GPH9、およびGPH12の3つのフォーマットを含む、EXAMPLEというグラフ・パッケージを作成します。このパッケージはデフォルトのライブラリーQPFRDATA内に保存されます。

例2:2つのフォーマットを含むパッケージを作成する

```
CRTGPHPKG  GHPKG(MYLIB/MYPKG) TEXT('MY PACKAGE')
            GPHFMT(MYGPH1 MYGPH2)
```

このコマンドは、MYGPH1およびMYGPH2の2つのフォーマットを含むMYPKGというグラフ・パッケージを作成します。MYPKGはMYLIBライブラリーに保存されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR9011

グラフ・パッケージ&2はライブラリー&1にすでに存在している。

PFR9013

グラフ様式&2を追加することはできない。

PFR9032

選択した様式が多すぎる。

[トップ](#)

実績データの作成 (CRTHSTDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

実績データ作成(CRTHSTDTA)コマンドは、メンバーの実績データを作成して、実績データ・ファイルに追加します。実績データは、このコマンドを使用して要約されたメンバーを反映するシステムの進行中要約です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u> , *CURLIB	オプション, 定位置 2
REPLACE	置き換え	*NO, *YES	オプション
JOBID	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRJOBID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

メンバー (MBR)

実績データを作成するために使用するメンバーを指定します。メンバーの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

メンバーを見つけるライブラリーを指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、メンバーを見つける場所です。

*CURLIB

メンバーをコピーするためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メンバーを見つけるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

置き換え (REPLACE)

実績データがすでに存在していた場合に、メンバーの実績データを置き換えるかどうかを指定します。

***NO** 実績データは置き換えられません。

***YES** 実績データは置き換えられます。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

バッチ処理用のジョブの投入に使用されるジョブ記述を指定します。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定します。

QPFRJOBID

弊社提供パフォーマンス・ツール・ジョブ記述が使用されます。

ジョブ記述名

代替ジョブ記述の名前を指定してください。

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されず、その代わりに、ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この間に、ユーザーのワークステーションを使用することはできません。これは、特に長時間ジョブの場合に考慮する事項です。

トップ

例

例1:デフォルトのライブラリーにファイルを作成する

```
CRTHSTDTA MBR(MONDAY)
```

このコマンドはMONDAYというメンバー名でヒストリカル・データを含むファイルを作成します。

例2:指定したライブラリーにファイルを作成する

```
CRTHSTDTA MBR(TUESPM) LIB(MYLIB)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにTUESPMというメンバー名で、ヒストリカル・データを含むファイルを作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR9039

メンバー&2の実績データを作成することができない。

PFR9056

グラフ様式またはパッケージをコピーすることができない。

PFR9061

実績データを作成することができない。

PFR9070

実績データを作成することができない。

PFR9803

実績データを作成することができない。

[トップ](#)

機能領域の削除 (DLTFCNARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

業務分野削除(DLTFCNARA)コマンドによって、システムから業務分野を削除することができます。業務分野は、報告書およびグラフィックス用にパフォーマンス・ツールによって使用されます。業務分野は、報告書およびグラフに含まれるジョブ名またはユーザー名あるいはその両方の事前定義リストです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FCNARA	機能領域	文字値	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

機能領域 (FCNARA)

削除する業務分野の名前を指定します。名前の文字間にスペースが入っている場合には、名前をアポストロフィで囲んでください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

業務分野が入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

業務分野はIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAに入っています。

ライブラリー名

業務分野が入っているライブラリー名を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:デフォルト・ライブラリーの業務分野を削除する

```
DLTFCNARA FCNARA(PERSONNEL)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATAからPERSONNELという業務分野を削除します。

例2:指定されたライブラリーの業務分野を削除する

```
DLTFCNARA FCNARA('PERFORMANCE TOOLS') LIB(RPFT)
```

このコマンドは、ライブラリーRPFTから「PERFORMANCE TOOLS」という業務分野を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR9067

機能領域&2を削除することはできない。

[トップ](#)

グラフ様式の削除 (DLTGPHFMT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフ様式削除(DLTGPHFMT)コマンドは、グラフ様式を削除します。また、このコマンドは、それを含んでいるすべてのパッケージからグラフ様式を削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GPHFMT	グラフ様式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: グラフ様式	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

グラフ様式 (GPHFMT)

削除するグラフ様式を指定します。

これは必須パラメーターです。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、グラフ様式を見つける場所です。

*CURLIB

グラフ様式を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフ様式を見つけるライブラリーの名前を指定してください。

様式名 削除するグラフ様式の名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:指定したライブラリーのグラフ様式を削除する

```
DLTGPHFMT  GPHFMT(MYLIB/MYFMT)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBにあるMYFMTという名前のグラフ様式を削除します。

例2:デフォルト・ライブラリーのグラフ様式を削除する

```
DLTGPHFMT  GPHFMT(TESTFMT)
```

このコマンドは、デフォルトのライブラリーQPFRDATAにあるTESTFMTという名前のグラフ様式を削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR9043

&1はライブラリー&2に存在していない。

[トップ](#)

グラフ・パッケージの削除 (DLTGPHPKG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフ・パッケージ削除(DLTGPHPKG)コマンドは、グラフ・パッケージを削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GPHPKG	グラフ・パッケージ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: グラフ・パッケージ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

グラフ・パッケージ (GPHPKG)

削除するグラフ・パッケージを指定します。

これは必須パラメーターです。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、グラフ・パッケージを見つける場所です。

*CURLIB

グラフ・パッケージを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフ・パッケージを見つけるライブラリーの名前を指定してください。

パッケージ名

削除するグラフ・パッケージの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:指定したライブラリーのパッケージを削除する

```
DLTGPHPKG  GPHPKG(MYLIB/MYPKG)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBからグラフ・パッケージMYPKGを削除します。

例2:デフォルト・ライブラリーのパッケージを削除する

```
DLTGPHPKG  GPHPKG(TESTPKG)
```

このコマンドは、デフォルトのライブラリーQPFRDATAからグラフ・パッケージTESTPKGを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR9043

&1はライブラリー&2に存在していない。

[トップ](#)

実績データの削除 (DLTHSTDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

実績データ削除(DLTHSTDTA)コマンドは、実績データベース・ファイルから、選択されたメンバーの実績データを削除します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	単一値: <u>*SELECT</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション、位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRJOB</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

メンバー (MBR)

削除する実績データをもっているメンバーを指定します。

*SELECT

削除する実績データをもつメンバーを選択できるように、指定したライブラリー中の使用可能なすべてのメンバーをリストします。この値は対話式環境でのみ有効です。

メンバー名

データベース・ファイルから削除する実績データをもっているメンバーを指定してください。最大 50 個のメンバーを指定することができます。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

ファイルを見つけるライブラリーを指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、ファイルを見つける場所です。

ライブラリー名

ファイルを見つけるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

バッチ処理用のジョブの投入に使用されるジョブ記述を指定します。

***LIBL** 最初の一一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されま
す。

*CURLIB

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラ
リーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定します。

QPFJRJOBID

弊社提供パフォーマンス・ツール・ジョブ記述が使用されます。

ジョブ記述名

代替ジョブ記述の名前を指定してください。

*NONE

バッチ・ジョブは投入されず、その代わりに、ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。
この間に、ユーザーのワークステーションを使用することはできません。これは、特に長時間ジョ
ブの場合に考慮する事項です。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR9033

削除するために選択した項目が多すぎる。

PFR9038

メンバー&2から実績データを削除することはできない。

PFR9053

メンバー&2の実績データが存在していない。

[トップ](#)

実績グラフの表示 (DSPHSTGPH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

実績グラフ表示(DSPHSTGPH)コマンドは、実績データ作成(CRTHSTDTA)コマンドによって作成された実績データからグラフを作成します。DSPHSTGPHコマンドは、グラフィックス表現でシステムの実績が眼で見えるようにすることを目的としています。

CRTHSTDTAコマンドは、収集サービスによって収集されたパフォーマンス・データを要約します。グラフ様式は、グラフ様式作成(CRTGPHFMT)コマンドによって定義されていなければなりません。グラフは、他のシステムが使用できるグラフィックス端末装置、非グラフィックス端末装置、印刷装置、作図装置、および図形データ様式(GDF)ファイルに送ることができます。実績データ・メンバーは、選択的にグラフに含めることができます。

実績データ作成(CRTHSTDTA)コマンドはグラフに含めたい各メンバーごとに実行されていることが重要です。あるメンバーに対してCRTHSTDTAが実行されていない場合には、このコマンドの実績データの作成プロンプト (CRTHSTDTA パラメーター) に*YESを指定しない限り、そのメンバーはグラフに含まれません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
GRAPH	グラフ様式またはパッケージ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: グラフ様式またはパッケージ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u> , *CURLIB	
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2
TITLE	タイトル	文字値, *SAME, *MBRTEXT, *BLANK	オプション
SUBTITLE	サブタイトル	文字値, *SAME, *MBRTEXT, *BLANK	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *PLOT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力ファイル	名前	
	修飾子 2: 出力ファイル・ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力ファイル・メンバー	要素リスト	オプション
	要素 1: メンバー名	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
PLTSPD	プロッターの速度	1-100, <u>100</u>	オプション
PLTPEN	プロッターのペンの幅	1-10, <u>3</u>	オプション
PLTADR	プロッター・アドレス	1-31, <u>1</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRTDEV	印刷装置またはタイプ	名前, <u>4214</u> , 4234, 522X, *IPDS, *NONGRAPHIC	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: * <u>PRTDEV</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u>	
PAGELEN	ページの長さ	* <u>PRTDEV</u> , 51, 66	オプション
TYPE	タイプ	* <u>GPHFMT</u> , *GPHPKG	オプション
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日	日付, * <u>FIRST</u> , *SELECT	
	要素 2: 終了日	日付, * <u>LAST</u>	
CRTHSTDTA	実績データの作成	* <u>NO</u> , *YES	オプション
XAXIS	X軸	要素リスト	オプション
	要素 1: 範囲	単一値: * <u>SAME</u> , *AUTO その他の値: 要素リスト	
	要素 1: 最初の	0-99999	
	要素 2: 最後の	0-99999	
YAXIS	Y軸	要素リスト	オプション
	要素 1: 範囲	単一値: * <u>SAME</u> , *AUTO その他の値: 要素リスト	
	要素 1: 最初の	0-99999	
	要素 2: 最後の	0-99999	
AREAFILL	区域充てん	* <u>SAME</u> , *YES, *NO	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>DSPHSTGPH</u>	オプション
JOBID	ジョブ記述	単一値: * <u>NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QPFRJOBID	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	

上

グラフ様式またはパッケージ (GRAPH)

グラフを作成するために使用するグラフ様式またはグラフ・パッケージを指定します。

これは必須パラメーターです。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

QPFRDATA

グラフ様式またはグラフ・パッケージは弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

*CURLIB

グラフ様式またはグラフ・パッケージを入れるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフ様式またはグラフ・パッケージを入れるライブラリー名を指定してください。

次のものは要素でないので、一緒に使用することはできません。したがって、グラフ様式の名前を指定するか、あるいはグラフ・パッケージの名前を指定してください。これらを同時に指定することはできません。

様式名 グラフ様式の名前を指定してください。

パッケージ名

グラフ・パッケージの名前を指定してください。

上

ライブラリー (LIB)

実績データ作成(CRTHSTDTA)コマンドによって作成された実績データが入っているライブラリーを指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAは、実績データが入れられる場所です。

ライブラリー名

実績データが入れられるライブラリーを指定してください。

上

タイトル (TITLE)

グラフまたはパッケージの各グラフの最上部に表示するタイトルを指定します。

***SAME**

グラフ様式に定義されているタイトルが使用されます。

***BLANK**

空白のタイトルが使用されます。

***MBRTEXT**

パフォーマンス・モニターが最後に作成した、選択されたメンバーのテキストが使用されます。

グラフ・タイトル

アポストロフィで囲まれた50文字を超えないタイトルを指定してください。

上

サブタイトル (SUBTITLE)

グラフまたはパッケージの各グラフの最上部に表示するサブタイトルを指定します。

***SAME**

グラフ様式に定義されているサブタイトルが使用されます。

***BLANK**

空白のサブタイトルが使用されます。

*MBRTEXT

パフォーマンス・モニターが最後に作成した、選択されたメンバーのテキストが使用されます。

サブタイトル

アポストロフィで囲まれた50文字を超えないサブタイトルを指定してください。

上

出力 (OUTPUT)

グラフィックス・データ様式(GDF)ファイルに、グラフを表示、印刷、作図、または保管するかどうかを指定します。

*
- グラフは出力画面に表示されます。**JOBID(*NONE)**を指定していない場合には、この特殊値は正しくありません。

表示装置はグラフィックス表示装置または非グラフィックス表示装置のいずれでも構いません。グラフィックス表示装置はグラフをカラー、陰影などで表示します。非グラフィックス表示装置は、カラー、陰影などを表現するためにユーザーが選択した文字を使用してグラフを表示します。

グラフが表示されると、1つのオーバーレイを定義することができます。オーバーレイとは、現行グラフの最上部に位置づけられるグラフのことです。

*PRINT

グラフは印刷装置ファイルQPPGGPHに印刷され、スプール出力ファイルにはグラフ様式と同じ名前が付けられます。

注：

グラフィック装置によって印刷または表示されるグラフの様子は、非グラフィック装置によって印刷または表示された場合とは異なる場合があります（特にY（縦）軸に*AUTOが指定されている時）。

*PLOT

グラフは接続されているプロッターで作図されます。**JOBID(*NONE)**を指定していない場合には、この値は正しくありません。6180, 6182, 7371,および7372プロッターがサポートされています。

*OUTFILE

グラフは、出力ファイルプロンプト（OUTFILEパラメーター）に指定されたグラフィックス・データ様式(GDF)ファイルに保管されます。パッケージを表示する場合には、このオプションは正しくありません。

このファイルを使用することにより、図形データ表示管理プログラムまたはビジネス・グラフィックス・ユーティリティー・ライセンス・プログラムをサポートしているシステムでグラフを表示することができます。

注：

グラフ・パッケージをGDFファイルへ送ることはできません。

上

出力ファイル (OUTFILE)

グラフ・データ様式が保管されるライブラリーおよびファイルを指定します。このパラメーターが有効なのは、**OUTPUT(*OUTFILE)**が指定されている時だけです。グラフは、グラフィックス・データ様式(GDF)ファイルに保管されます。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

グラフを保管するファイルを見つけるために、現行ジョブ・ライブラリーを検索します。ライブラリー・リストに現行ジョブ・ライブラリー項目が存在していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフを保管するライブラリーの名前を指定してください。

ファイル名

グラフを保管するファイルの名前を指定してください。

上

出力ファイル・メンバー (OUTMBR)

グラフを保管する様式メンバーを指定します。このパラメーターが有効なのは、**OUTPUT(*OUTFILE)**を指定している時だけです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。**OUTMBR(*FIRST)**を指定して、メンバーが存在していない場合には、システムは、出力ファイルプロンプト (OUTFILEパラメーター) に指定したファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

その中にグラフを保管するメンバーの名前を指定してください。**OUTMBR (メンバー名)**が指定され、メンバーが存在していない場合には、システムによって作成されます。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはメンバーを消去してから、新しいレコードを追加するオプションがあります。

指定できる任意の値は次の通りです。

***REPLACE**

メンバーが存在している場合には、システムはこれを消去して、新しいレコードを追加します。

***ADD** メンバーが存在している場合には、システムは既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

プロッターの速度 (PLTSPD)

プロッターがグラフを作成する速度を指定します。値が大きいほど作図速度が早くなります。値が小さければ小さいほどグラフの作図品質がよくなります。このパラメーターが有効なのは、**OUTPUT(*PLOT)**が指定されている時だけです。

100 プロッターの速度100が使用されます。

プロッターの速度

プロッターの速度を指定してください。プロッターの速度の範囲は1-100（速度）です。

上

プロッターのペンの幅 (PLTPEN)

グラフに陰影を付けるペン幅を指定します。値が小さければ小さいほど陰影用の線に近づくことになりま
す。小さい値を選択した場合には、作図するグラフが長くなります。値が大きすぎる場合には、陰影付けが
その中にギャップをもつことになりま
す。このパラメーターが有効なのは、**OUTPUT(*PLOT)**が指定され
ている時だけです。

3 0.3ミリメートルのペン幅が使用されます。

ペン幅 ペンの幅を指定してください。ペン幅の範囲は0.1-1ミリメートルです。有効な値の範囲は1-10で
す。

上

プロッター・アドレス (PLTADR)

グラフが作成される端末のプロッター・アドレスを指定します。

1 アドレス1で指定されたプロッターを使用します。

プロッター・アドレス

プロッターのアドレスを指定してください。有効な値の範囲は1-31です。

上

印刷装置またはタイプ (PRTDEV)

グラフを印刷する印刷装置の名または印刷装置のタイプを指定します。たとえば、PRT01、PRT02などの
印刷装置名を使用した場合には、出力は印刷装置の出力待ち行列にスプールされます。たとえば、4214など
の印刷装置タイプを指定した場合には、出力は出力待ち行列プロンプト（OUTQパラメーター）に指定した
出力待ち行列にスプールされます。このパラメーターが有効なのは、**OUTPUT(*PRINT)**を指定している時
だけです。

4214 4214印刷装置が使用されます。

4234 4234印刷装置が使用されます。

522X 522シリーズの印刷装置の1つが使用されます。このシリーズには5224および5225 印刷装置があり
ます。

***IPDS** 高機能印刷装置データ・ストリーム(IPDS)印刷装置の1つが使用されます。これは、3812および4224印刷装置です。

***NONGRAPHIC**

出力は、グラフィックスをサポートしていない印刷装置で印刷されるので、グラフィックス様式ではスプールされません。

印刷装置名

出力が送られる印刷装置のシステム名を指定してください。

上

出力待ち行列 (OUTQ)

印刷装置ファイルが送られる出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

***PRTDEV**

印刷装置と対応した出力待ち行列が使用されます。印刷装置タイプを指定した場合には、出力がジョブの出力待ち行列に送られます。

出力待ち行列名

出力待ち行列名を指定してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

出力待ち行列を見つけるライブラリー名を指定してください。

上

ページの長さ (PAGELEN)

グラフのページの長さを指定します。PAGELENパラメーターは、OUTPUT(*PRINT)を指定した場合のみ有効です。

***PRTDEV**

PRTDEVパラメーターに指定された印刷装置または印刷装置タイプのページの長さが使用されます。

51 1ページあたり51行(8.5インチ)を指定します。

66 1ページあたり66行(11インチ)を指定します。

上

タイプ (TYPE)

グラフがグラフ様式またはグラフ・パッケージであるかどうかを指定します。

***GPHFMT**

グラフはグラフ様式です。

*GHPKG

グラフはグラフ・パッケージです。

上

報告書の期間 (PERIOD)

グラフの時間間隔範囲を指定するグラフに含めるメンバーを指定します。*SELECT 値を使用して、または開始および終了日付範囲を指定することによって、メンバーを選択することができます。

注: 作成済みの実績データをもっていないメンバーは、**CRTHSTDTA(*YES)**が指定されていない限り、グラフに含まれません。

位置を維持するために指定する値に先行する要素の代わりに*Nを使用することができます。たとえば、次の通りです。

PERIOD(*N 091289)

この例は、終了日を指定し、*Nで指定する省略時の開始日を使用しています。

開始日を表す次の値の1つを指定してください。この日付により前に収集された実績情報はグラフに含まれません。

指定できる**開始日**の値は次の通りです。

*FIRST

実績情報が、ライブラリー中の最も古い実績情報の日付で始まるグラフに含まれます。

*SELECT

パフォーマンス・メンバーのリストを表示し、パフォーマンス・メンバーが実績データをもっているかどうかを示します。このリストから、どのメンバーがグラフに含まれているかを選択することができます。この値は対話式環境でのみ有効です。使用した場合には、**報告書の期間**プロンプト (PERIODパラメーター) の残りの値は無視されます (終了日)。

開始日付

それより後のデータ・レコードが含まれる日付を指定してください。システム値QDATFMT (区切り文字を使用している場合はQDATSEP) によって指定された形式で、日付を入力しなければなりません。たとえば、システムの日付形式を'MM/DD/YY'とします。月(MM),日(DD),および年(YY)がすべて必要です (1または2桁の値)。6桁すべてを指定する場合には、スラッシュ(/)は任意指定です。スラッシュを省略した場合、あるいはプロンプト画面から値を入力した場合には、アポストロフィは不要です。

終了日を表す次の値の1つを指定してください。この日付より後に収集された実績情報は、グラフに含まれません。

指定できる**終了日**の値は次の通りです。

*LAST

実績情報が、ライブラリー中の最も新しい実績情報の日付で終わるグラフに含まれます。

終了日付

それより後のレコードを含まない日付を指定してください。この値は、**開始日**と同じ形式で指定します。

実績データの作成 (CRTHSTDTA)

実績データが作成されていないパフォーマンス・データ・メンバーに対して実績データを作成するかどうかを指定します。

***NO** 実績データは作成されません。選択した期間中に存在していて、それらを表す実績データの無いすべてのパフォーマンス・データはグラフに含められません。

***YES** 実績データは作成されます。

注: 実績データの作成は、大部分の表示ジョブより多くの時間がかかります。

X軸 (XAXIS)

X軸上で使用される範囲を指定します。

***SAME**

グラフ様式に指定された範囲が使用されます。

***AUTO**

使用するデータに基づいて、システムが範囲を決定します。

指定できる**開始番号**の値は次の通りです。

開始番号

X軸の範囲の開始番号を指定してください。X軸に*TIMEを指定している場合には、このユーザー定義の変数は正しくありません。開始番号を指定した場合には、終了番号も指定しなければなりません。

指定できる**終了番号**の値は次の通りです。

終了番号

X軸の範囲の終了番号を指定してください。X軸に*TIMEを指定している場合には、このユーザー定義の変数は正しくありません。終了番号を指定した場合には、開始番号も指定しなければなりません。

Y軸 (YAXIS)

Y軸上で使用される範囲を指定します。

***SAME**

グラフ様式に指定された範囲が使用されます。

***AUTO**

使用するデータに基づいて、システムが範囲を決定します。

指定できる**開始番号**の値は次の通りです。

開始番号

Y軸の範囲の開始番号を指定してください。開始番号を指定した場合には、終了番号も指定しなければなりません。

指定できる終了番号の値は次の通りです。

終了番号

Y軸の範囲の終了番号を指定してください。終了番号を指定した場合には、開始番号も指定しなければなりません。

上

区域充てん (AREAFILL)

陰影パターンで充てんされた面および棒のグラフを表示するかどうかを指定します。

このパラメーターによって、詳細なグラフを迅速に表示することができます。CRTGPHFMTコマンドにAREAFILL(*YES)を指定している時に、このコマンドにAREAFILL(*NO)を指定した場合には、グラフより迅速に表示されます。これは、線を引く時間よりも陰影パターンで区域を充てんする方がより長く時間がかかることによります。また、陰影パターンの密度が濃ければ濃いほど、時間がかかります。時間が短く、グラフィックス品質がしばらく重要でない場合には、これらの問題が重要になります。

*SAME

グラフは、グラフ様式定義にしたがって陰影が付けられます。

*YES グラフは陰影パターンで充てんされます。

*NO グラフは陰影パターンで充てんされません。

上

ジョブ名 (JOB)

バッチ処理用にジョブを投入する場合に使用するジョブ名を指定します。

ジョブ記述プロンプト (JOBDDパラメーター) に*NONEを指定した場合には、このパラメーターは無視され、ジョブ処理は対話式に実行されます。

指定できるジョブ名の値は次の通りです。

DSPHSTGPH

コマンド名がジョブ名として使用されます。

ジョブ名

バッチ・ジョブに使用する名前を指定してください。

上

ジョブ記述 (JOBDD)

バッチ処理用のジョブの投入に使用されるジョブ記述を指定します。

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されず、その代わりに、ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この間に、ユーザーのワークステーションを使用することはできません。これは、特に長時間ジョブの場合に考慮する事項です。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定します。

QPFRJOB

弊社提供パフォーマンス・ツール・ジョブ記述が使用されます。

ジョブ記述名

代替ジョブ記述の名前を指定してください。

上

例

例1:データ・ファイルを表示する

```
DSPHSTGPH GRAPH(GRAPHLIB/CPU)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATA内のヒストリカル・データ・ファイルをユーザーの画面に表示します。その際、ライブラリーGRAPHLIBのグラフ様式のCPUが使用されます。ライブラリーQPFRDATAのすべてのヒストリカル情報がグラフに取り込まれます。

例2:グラフを保存する

```
DSPHSTGPH GRAPH(GRAPHLIB/CPU) OUTPUT(*OUTFILE)
          OUTFILE(USERLIB/USERFILE) OUTMBR(TEST)
          JOBD(*LIBL/QPFRJOB)
```

このコマンドは、GDFファイルにグラフを保存するジョブを投入します。グラフはファイルUSERLIB/USERFILE/TESTに保存されます。

例3:グラフを印刷する

```
DSPHSTGPH GRAPH(GRAPHLIB/CPU) OUTPUT(*PRINT)
          PRTDEV(PRT03) JOBD(*LIBL/QPFRJOB)
```

このコマンドは、システム・プリンターPRT03にグラフを印刷するジョブを投入します。

例4:パッケージ内のすべてのグラフを印刷する

```
DSPHSTGPH GRAPH(GRAPHLIB/PACKAGE1) OUTPUT(*PRINT)
          PRTDEV(PRT03) TYPE(*GPHPKG) JOBD(*LIBL/QPFRJOB)
```

このコマンドは、GRAPHLIBのPACKAGE1で定義されたすべてのグラフを印刷するジョブを投入します。印刷ジョブはPRT03という名前のシステム・プリンターに送られます。グラフの情報として、QPFRDATAのヒストリカル・データ・メンバーが使用されます。

例5: グラフを表示する

```
DSPHSTGPH  GRAPH(GRAPHLIB/CPU)  OUTPUT(*)  
           PERIOD(112799 100900)
```

このコマンドは、1999年11月27日から2000年10月9日までのヒストリカル情報のグラフを表示します。

例6: グラフ化するメンバーを選択する

```
DSPHSTGPH  GRAPH(GRAPHLIB/CPU)  MBRLIB(MONDAY)  
           OUTPUT(*)  PERIOD(*SELECT *N)
```

このコマンドは、ライブラリーMONDAYのメンバーからヒストリカル情報のメンバーを選択するメニューを表示します。そこでユーザーはグラフに表示するメンバーを選択できます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR5501

パフォーマンス・データ・ファイルは上方に互換性がない。

PFR5502

パフォーマンス・データ・ファイルは下方に互換性がない。

PFR9068

OUTFILEパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9069

JOBIDパラメーターに値*NONEを指定しなければならない。

PFR9071

両方のグラフのX軸変数は同じでなければならない。

PFR9072

実績グラフのメンバー&3を使用することはできない。

PFR9073

実績グラフのメンバー&2を使用することはできない。

PFR9074

選択されたメンバーが多すぎる。

PFR9075

プロッターが見つからない。

PFR9076

プロッターのこのタイプはサポートされていない。

PFR9077

グラフ様式のオーバーレイ用の凡例項目が多すぎる。

PFR9078

データが脱落しているので、グラフを表示することができない。

PFR9079

出力ファイルにグラフを書き出すことはできない。

PFR9080

X軸が*TIMEの場合には、範囲に*AUTOを指定してください。

PFR9082

印刷装置&1が見つからなかった。

PFR9083

実績グラフに指定したグラフ様式が正しくない。

PFR9088

データが脱落しているので、グラフを表示することができない。

PFR9096

実績データ・ファイルQAPGHSTDがライブラリー&1に見つからない。

PFR9097

グラフ様式&1をそれ自身にコピーすることはできない。

PFR9098

グラフ・パッケージ&1をそれ自身にコピーすることはできない。

PFR9099

機能領域&1をそれ自身にコピーすることはできない。

PFR9101

グラフのデータ点多すぎて表示できない。

PFR9107

グラフ様式&1が正しくない。

PFR9114

グラフにする実績データがない。

上

パフォーマンス・データの表示 (DSPPFRDTA)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・データ表示(DSPPFRDTA)コマンドは、一連の画面を使用して、オペレーション・ナビゲーター・インターフェースからの収集サービスによって収集されたパフォーマンス・データを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	名前, <u>*SELECT</u>	オプション, 位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 位置 2

[トップ](#)

メンバー (MBR)

オペレーション・ナビゲーター・インターフェースからの収集サービスによって集められたパフォーマンス・データが入っているメンバーを指定します。

*SELECT

指定されたライブラリーで使用可能なすべてのメンバーが、パフォーマンス・メンバーの選択画面にリストされます。

名前 パフォーマンス・データが入っているメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データベース・ファイルを見つけるライブラリーを指定します。

QPFRDATA

データベース・ファイルを見つけるためにIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAが使用されます。

名前 データベース・ファイルを見つけるライブラリーの名前を指定してください。

例

例1:メンバーのリストを表示する

```
DSPPFRDTA
```

このコマンドは、パフォーマンス・メンバーの選択画面を使用して、ユーザーがパフォーマンス・データを表示するメンバーを選択するために、デフォルトのライブラリーQPFRDATAで選択可能なメンバーのリストを表示します。

例2:パフォーマンス・データを表示する

```
DSPPFRDTA MBR(JUNE1)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATA内のメンバーJUNE1に格納されたパフォーマンス・データを表示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR1010

データが見つからないので要求を処理することができない。

PFR5501

パフォーマンス・データ・ファイルは上方に互換性がない。

PFR5502

パフォーマンス・データ・ファイルは下方に互換性がない。

PFR7001

ライブラリー&1にパフォーマンス・データが入っていない。

PFR7003

パフォーマンス・データを表示することができない。

PFR7005

パフォーマンス・データを表示することができない。

PFR7006

パフォーマンス・データを表示することはできない。

PFR7022

表示するパフォーマンス・データはない。

PFR9031

パフォーマンス・グラフのメンバー&3を使用することができない。

PFR9072

実績グラフのメンバー&3を使用することはできない。

PFR9114

グラフにする実績データがない。

[トップ](#)

パフォーマンス・グラフの表示 (DSPPFRGPH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・グラフ表示(DSPPFRGPH)コマンドは、収集サービスによって収集されたパフォーマンス・データからグラフを作成します。

グラフ様式はグラフ様式作成(CRTGPHFMT)コマンドで定義されていなければなりません。グラフは、グラフィックス端末、非グラフィックス端末、印刷装置、プロッター、および他のシステムで使用できるグラフィックス・データ様式(GDF)ファイルに出力として送信することができます。ジョブは、選択的にグラフに含めるかまたはグラフから除外することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
GRAPH	グラフ様式またはパッケージ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: グラフ様式またはパッケージ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u> , *CURLIB	
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 2
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 3
TITLE	タイトル	文字値, *SAME, *MBRTEXT, *BLANK	オプション, 定位置 4
SUBTITLE	サブタイトル	文字値, *SAME, *MBRTEXT, *BLANK	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *PLOT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力ファイル	名前	
	修飾子 2: 出力ファイル・ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力ファイル・メンバー	要素リスト	オプション
	要素 1: メンバー名	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
PLTSPD	プロッターの速度	1-100, <u>100</u>	オプション
PLTPEN	プロッターのペンの幅	1-10, <u>3</u>	オプション
PLTADR	プロッター・アドレス	1-31, <u>1</u>	オプション
PRTDEV	印刷装置またはタイプ	名前, <u>4214</u> , 4234, 522X, *IPDS, *NONGRAPHIC	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *PRTDEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	

キーワード	記述	選択項目	ノート
PAGELEN	ページの長さ	* <u>PRTDEV</u> , 51, 66	オプション
TYPE	タイプ	* <u>GPHFMT</u> , *GPHPKG	オプション
XAXIS	X軸	要素リスト	オプション
	要素 1: 範囲	単一値: * <u>SAME</u> , *AUTO その他の値: 要素リスト	
	要素 1: 最初の	0-99999	
	要素 2: 最後の	0-99999	
YAXIS	Y軸	要素リスト	オプション
	要素 1: 範囲	単一値: * <u>SAME</u> , *AUTO その他の値: 要素リスト	
	要素 1: 最初の	0-99999	
	要素 2: 最後の	0-99999	
AREAFILL	区域充てん	* <u>SAME</u> , *YES, *NO	オプション
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, * <u>FIRST</u>	
	要素 2: 開始日	日付, * <u>FIRST</u>	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, * <u>LAST</u>	
	要素 2: 終了日	日付, * <u>LAST</u>	
SLTJOB	選択するジョブ	単一値: * <u>ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 選択するジョブ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
OMTJOB	除外するジョブ	単一値: * <u>NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 除外するジョブ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SLTUSER	選択するユーザー	単一値: * <u>ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMTUSER	除外するユーザー	単一値: * <u>NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
SLTPOOLS	選択するプール	単一値: * <u>ALL</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64	オプション
OMTPOOLS	除外するプール	単一値: * <u>NONE</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64	オプション
SLTSBS	サブシステムの選択	単一値: * <u>ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTSBS	サブシステムの除外	単一値: * <u>NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTLINE	通信回線の選択	単一値: * <u>ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTLINE	通信回線の除外	単一値: * <u>NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTCTL	制御装置の選択	単一値: * <u>ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OMTCTL	制御装置の除外	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTFCNARA	選択する機能領域	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMTFCNARA	除外する機能領域	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>DSPPFRGPH</u> , *MBR	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QPFRJOB	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

上

グラフ様式またはパッケージ (GRAPH)

グラフを作成するために使用するグラフ様式またはグラフ・パッケージを指定します。

これは必須パラメーターです。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

QPFRDATA

グラフ様式またはグラフ・パッケージは弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

*CURLIB

グラフ様式またはグラフ・パッケージを入れるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフ様式またはグラフ・パッケージを入れるライブラリー名を指定してください。

次のものは要素でないで、一緒に使用することはできません。したがって、グラフ様式の名前を指定するか、あるいはグラフ・パッケージの名前を指定してください。これらを同時に指定することはできません。

様式名 グラフ様式の名前を指定してください。

パッケージ名

グラフ・パッケージの名前を指定してください。

上

メンバー (MBR)

パフォーマンス・グラフで使用するパフォーマンス・データを指定します。メンバーの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

ライブラリー (LIB)

グラフで使用するパフォーマンス・データ・メンバーが入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データ・メンバーは弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

ライブラリー名

パフォーマンス・データ・メンバーが入っているライブラリーを指定してください。

タイトル (TITLE)

グラフまたはパッケージの各グラフの最上部に表示するタイトルを指定します。

*SAME

グラフ様式に定義されているグラフ・タイトルが使用されます。

*BLANK

ブランクのタイトルが使用されます。

*MBRTEXT

選択したメンバーのテキストが使用されます。

グラフ・タイトル

アポストロフィで囲まれた50文字を超えないタイトルを指定してください。

サブタイトル (SUBTITLE)

グラフまたはパッケージの各グラフの最上部に表示するサブタイトルを指定します。

*SAME

グラフ様式に定義されているグラフ・サブタイトルのテキストが使用されます。

*BLANK

ブランクのサブタイトルが使用されます。

*MBRTEXT

選択したメンバーのテキストが使用されます。

グラフ・サブタイトル

アポストロフィで囲まれた50文字を超えないサブタイトルを指定してください。

出力 (OUTPUT)

グラフィックス・データ様式(GDF)ファイルに、グラフを表示、印刷、作図、または保管するかどうかを指定します。

*
- グラフは出力画面に表示されます。**JOBID(*NONE)**を指定していない場合には、この特殊値は正しくありません。

表示装置はグラフィックス表示装置または非グラフィックス表示装置のいずれでも構いません。グラフィックス表示装置はグラフをカラー、陰影などで表示します。非グラフィックス表示装置は、カラー、陰影などを表現するためにユーザーが選択した文字を使用してグラフを表示します。

グラフが表示されると、1つのオーバーレイを定義することができます。オーバーレイとは、現行グラフの最上部に位置づけられるグラフのことです。

*PRINT

グラフは印刷装置ファイルQPPGGPHに印刷され、スプール出力ファイルにはグラフ様式と同じ名前が付けられます。

注：

グラフィック装置によって印刷または表示されるグラフの様子は、非グラフィック装置によって印刷または表示された場合とは異なる場合があります（特にY（縦）軸に*AUTOが指定されている時）。

*PLOT

グラフは接続されているプロッターで作図されます。**JOBID(*NONE)**を指定していない場合には、この値は正しくありません。6180, 6182, 7371,および7372プロッターがサポートされています。

*OUTFILE

グラフは、出力ファイルプロンプト（**OUTFILE**パラメーター）に指定されたグラフィックス・データ様式(GDF)ファイルに保管されます。パッケージを表示する場合には、このオプションは正しくありません。

このファイルを使用することにより、図形データ表示管理プログラムまたはビジネス・グラフィックス・ユーティリティ・ライセンス・プログラムをサポートしているシステムでグラフを表示することができます。

注：

グラフ・パッケージをGDFファイルへ送ることはできません。

上

出力ファイル (OUTFILE)

グラフ・データ様式が保管されるライブラリーおよびファイルを指定します。このパラメーターが有効なのは、**OUTPUT(*OUTFILE)**が指定されている時だけです。グラフは、グラフィックス・データ様式(GDF)ファイルに保管されます。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

QPFRDATA

グラフは弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAに保管されています。

*LIBL グラフを保管するファイルを見つけるために、ライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

グラフを保管するファイルを見つけるために、現行ジョブ・ライブラリーを検索します。ライブラリー・リストに現行ジョブ・ライブラリー項目が存在していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

グラフを保管するライブラリーの名前を指定してください。

ファイル名

グラフを保管するファイルの名前を指定してください。

上

出力ファイル・メンバー (OUTMBR)

グラフを保管する様式メンバーを指定します。このパラメーターが有効なのは、**OUTPUT(*OUTFILE)**を指定している時だけです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。**OUTMBR(*FIRST)**を指定して、メンバーが存在していない場合には、システムは、**出力ファイルプロンプト** (OUTFILEパラメーター) に指定したファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

その中にグラフを保管するメンバーの名前を指定してください。**OUTMBR (メンバー名)** が指定され、メンバーが存在していない場合には、システムによって作成されます。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはメンバーを消去してから、新しいレコードを追加するオプションがあります。

指定できる任意の値は次の通りです。

***REPLACE**

メンバーが存在している場合には、システムはこれを消去して、新しいレコードを追加します。

***ADD** メンバーが存在している場合には、システムは既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

プロッターの速度 (PLTSPD)

プロッターがグラフを作成する速度を指定します。値が大きいほど作図速度が早くなります。値が小さければ小さいほどグラフの作図品質がよくなります。このパラメーターが有効なのは、**OUTPUT(*PLOT)**が指定されている時だけです。

100 プロッターの速度100が使用されます。

プロッターの速度

プロッターの速度を指定してください。プロッターの速度の範囲は1-100 (速度) です。

上

プロッターのペンの幅 (PLTPEN)

グラフに陰影を付けるペン幅を指定します。値が小さければ小さいほど陰影用の線に近づくこととなります。小さい値を選択した場合には、作図するグラフが長くなります。値が大きすぎる場合には、陰影付けがその中にギャップをもつこととなります。このパラメーターが有効なのは、**OUTPUT(*PLOT)**が指定されている時だけです。

3 0.3ミリメートルのペン幅が使用されます。

ペン幅 ペンの幅を指定してください。ペン幅の範囲は0.1-1ミリメートルです。有効な値の範囲は1-10です。

上

プロッター・アドレス (PLTADR)

グラフが作成される端末のプロッター・アドレスを指定します。

1 アドレス1で指定されたプロッターを使用します。

プロッター・アドレス

プロッターのアドレスを指定してください。有効な値の範囲は1-31です。

上

印刷装置またはタイプ (PRTDEV)

グラフを印刷する印刷装置の名前または印刷装置のタイプを指定します。たとえば、PRT01、PRT02などの印刷装置名を使用した場合には、出力は印刷装置の出力待ち行列にスプールされます。たとえば、4214などの印刷装置タイプを指定した場合には、出力は**出力待ち行列プロンプト** (OUTQパラメーター) に指定した出力待ち行列にスプールされます。このパラメーターが有効なのは、**OUTPUT(*PRINT)**を指定している時だけです。

4214 4214印刷装置が使用されます。

4234 4234印刷装置が使用されます。

522X 522シリーズの印刷装置の1つが使用されます。このシリーズには5224および5225印刷装置があります。

***IPDS** 高機能印刷装置データ・ストリーム(IPDS)印刷装置の1つが使用されます。これは、3812および4224印刷装置です。

*NONGRAPHIC

出力は、グラフィックスをサポートしていない印刷装置で印刷されるので、グラフィックス様式ではスプールされません。

印刷装置名

出力が送られる印刷装置のシステム名を指定してください。

上

出力待ち行列 (OUTQ)

印刷装置ファイルが送られる出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

*PRTDEV

印刷装置と対応した出力待ち行列が使用されます。印刷装置タイプを指定した場合には、出力がジョブの出力待ち行列に送られます。

出力待ち行列名

出力待ち行列名を指定してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

ライブラリー名

出力待ち行列を見つけるライブラリー名を指定してください。

上

ページの長さ (PAGELEN)

グラフのページの長さを指定します。PAGELENパラメーターは、OUTPUT(*PRINT) を指定した場合のみ有効です。

*PRTDEV

PRTDEVパラメーターに指定された印刷装置または印刷装置タイプのページの長さが使用されます。

51 1 ページあたり51行 (8.5インチ) を指定します。

66 1 ページあたり66行 (11インチ) を指定します。

上

タイプ (TYPE)

グラフがグラフ様式またはグラフ・パッケージであるかどうかを指定します。

*GPHFMT

グラフはグラフ様式です。

*GPHPKG

グラフはグラフ・パッケージです。

上

X軸 (XAXIS)

X軸上で使用される範囲を指定します。

*SAME

グラフ様式に指定された範囲が使用されます。

***AUTO**

使用するデータに基づいて、システムが範囲を決定します。

指定できる**開始番号**の値は次の通りです。

開始番号

X軸の範囲の開始番号を指定してください。X軸に*TIMEを指定している場合には、このユーザー定義の変数は正しくありません。開始番号を指定した場合には、終了番号も指定しなければなりません。

指定できる**終了番号**の値は次の通りです。

終了番号

X軸の範囲の終了番号を指定してください。X軸に*TIMEを指定している場合には、このユーザー定義の変数は正しくありません。終了番号を指定した場合には、開始番号も指定しなければなりません。

上

Y軸 (YAXIS)

Y軸上で使用される範囲を指定します。

***SAME**

グラフ様式に指定された範囲が使用されます。

***AUTO**

使用するデータに基づいて、システムが範囲を決定します。

指定できる**開始番号**の値は次の通りです。

開始番号

Y軸の範囲の開始番号を指定してください。開始番号を指定した場合には、終了番号も指定しなければなりません。

指定できる**終了番号**の値は次の通りです。

終了番号

Y軸の範囲の終了番号を指定してください。終了番号を指定した場合には、開始番号も指定しなければなりません。

上

区域充てん (AREAFILL)

陰影パターンで充てんされた面および棒のグラフを表示するかどうかを指定します。

このパラメーターによって、詳細なグラフを迅速に表示することができます。CRTGPHFMTコマンドに**AREAFILL(*YES)**を指定している時に、このコマンドに**AREAFILL(*NO)**を指定した場合には、グラフより迅速に表示されます。これは、線を引く時間よりも陰影パターンで区域を充てんする方がより長く時間がかかることによります。また、陰影パターンの密度が濃ければ濃いほど、時間がかかります。時間が短く、グラフィックス品質がしばらく重要でない場合には、これらの問題が重要になります。

*SAME

グラフは、グラフ様式定義にしたがって陰影が付けられます。

***YES** グラフは陰影パターンで充てんされます。

***NO** グラフは陰影パターンで充てんされません。

上

報告書の期間 (PERIOD)

パフォーマンス・グラフ用のパフォーマンス情報を収集する期間を指定します。開始および終了時刻と日付は、4つの要素から構成されます。

PERIOD ((開始時刻 開始日) (終了時刻 終了日))

*Nは、位置づけをメンテナンスするために指定する値の前にくる要素の代わりに使用することができます。たとえば、PERIOD(*N(*N 091289))は、終了日、および開始時刻、開始日、終了時刻の省略時の値を指定しています。

次の値の1つを使用して開始時刻を指定します。開始時刻と開始日より前に収集された情報は、グラフに含まれません。

指定できる**開始時刻**の値は次の通りです。

*FIRST

その日の始めから開始するレコードが収集されます。

開始時刻

その時刻以後にレコードを収集する時刻を指定してください。

時刻は、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時間、MM =分、SS =秒です。この3つはすべて正確に2桁でなければなりません (必要な場合には先行ゼロを使用してください)。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のストリングを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

時刻は24時間形式です。たとえば、1 P.M.には13:00を使用してください。

次の値の1つを使用して開始日を指定します。このパラメーターに指定した日付の開始時刻より前に収集された情報は、グラフに含まれません。

指定できる**開始日**の値は次の通りです。

*FIRST

収集期間の最初の日から始まるレコードがグラフに含まれます。

開始日付

その日より後のレコードを収集する日付を指定してください。日付の入力はシステム値QDATFMT (区切り記号を使用する場合にはQDATSEP) で指定された形式で行なわなければなりません。たとえば、システムの日付形式は'MM/DD/YY'のことがあります。月(MM),日(DD),および年(YY)はす

べて必須で、それぞれ1桁または2桁の値です。6桁すべてを指定する場合には、スラッシュ(/)は任意指定です。スラッシュを省略した場合、または値をプロンプト画面から入力する場合には、アポストロフィは必要ありません。

次の値の1つを使用して終了時刻を指定します。終了時刻と終了日より後に収集された情報は、グラフに含まれません。

指定できる**終了時刻**の値は次の通りです。

***LAST**

その日の終わり(23:59:59)までのレコードがグラフに含まれます。

終了時刻

それより後のレコードを収集しない時刻を指定してください。時刻を指定する方法の詳細については、このパラメーターの**開始時刻**を参照してください。

次の値の1つを使用して終了日を指定します。終了時刻と終了日より後に収集された情報は、グラフに含まれません。

指定できる**終了日**の値は次の通りです。

***LAST**

収集期間の最後の日までのレコードがグラフに含まれます。

終了日付

それより後のレコードを収集しない日付を指定してください。日付を指定する方法については、このパラメーターの**開始日**を参照してください。

上

選択するジョブ (SLTJOB)

選択する50個までのジョブのリストを指定します。指定されたジョブだけがグラフに含まれます。

ジョブIDは、特殊値*ALLまたは最高3つの要素による修飾名であり、たとえば、次の通りです。

*ALL
ジョブ名
ユーザー名/ジョブ名
ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名

位置を維持するために、指定する値の後に要素の代わりに*Nを使用することができます。たとえば、123456/*N/*Nは、ジョブ名およびユーザー名とは無関係に、ジョブ番号123456だけを指定します。*Nを指定しない場合には、123456は、ジョブ番号ではなく、ジョブ名として解釈されることとなります。

注: **選択するジョブ・プロンプト (SLTJOBパラメーター)** と **除外するジョブ・プロンプト (OMTJOBパラメーター)** を一緒に使用することはできません。

***ALL** なにか他の選択基準によって除外されない限り、収集されたデータのすべてのジョブが含まれます。

ジョブ名

選択するジョブの名前を指定してください。ジョブは同じジョブ名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。これは、特定の名前または総称名とすることができます。

ユーザー名

選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。これは、特定の名前または総称名とすることができます。

ジョブ番号

選択するジョブの6桁の番号を指定してください。6桁すべてを指定しなければなりません（必要な場合には、先行ゼロを使用します）。

上

除外するジョブ (OMTJOB)

除外する50個までのジョブのリストを指定します。指定したすべてのジョブがグラフから除外されます。

ジョブIDは特殊値*NONEまたは最高3つの要素からなる修飾名のいずれかです。パラメーター値文字列内の位置を維持するために要素に代わって*Nを使用することができます。

注: 選択するジョブ・プロンプト (SLTJOBパラメーター) と除外するジョブ・プロンプト (OMTJOBパラメーター) を一緒に使用することはできません。

*NONE

ジョブIDに基づいて除外されるジョブはありません。

ジョブ名

除外するジョブの名前を指定してください。ジョブは同じジョブ名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。これは、特定の名前または総称名とすることができます。

ユーザー名

除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。これは、特定の名前または総称名とすることができます。

ジョブ番号

除外するジョブの6桁の番号を指定してください。6桁すべてを指定しなければなりません（必要な場合には、先行ゼロを使用します）。

上

選択するユーザー (SLTUSER)

選択する50個までのユーザー名のリストを指定します。指定したユーザー名の1つのジョブだけがグラフに含まれます。

注: 選択するユーザー・プロンプト (SLTUSERパラメーター) と除外するユーザー・プロンプト (OMTUSERパラメーター) を一緒に使用することはできません。

***ALL** 他の選択基準によって除外されない限り、すべてのユーザー名のジョブが含まれます。

ユーザー名

選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるの

で、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。これは、特定の名前または総称名とすることができます。**SLTUSER(ユーザー)**は**SLTJOB(*N/ユーザー/*N)**と同じことです。

上

除外するユーザー (OMTUSER)

除外する50個までのユーザー名のリストを指定します。指定された名前のジョブだけがグラフから除外されます。

注: 選択するユーザー・プロンプト (SLTUSERパラメーター) と除外するユーザー・プロンプト (OMTUSERパラメーター) を一緒に使用することはできません。

*NONE

ユーザー名に基づいて除外されるジョブはありません。

ユーザー名

除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。これは、特定の名前または総称名とすることができます。**OMTUSER (ユーザー)**は**OMTJOB (*N/ユーザー/*N)**と同じです。

上

選択するプール (SLTPOOLS)

選択する64個までのプールのリストを指定します。指定したプールの1つで実行中のジョブだけがグラフに含まれます。

注: 選択するプール・プロンプト (SLTPOOLSパラメーター) と除外するプール・プロンプト (OMTPOOLSパラメーター) を一緒に使用することはできません。

***ALL** 他の選択基準によって除外されない限り、すべてのプールで実行中のジョブが含まれます。

記憶域プール識別コード

選択するプールの番号を指定してください。有効な値の範囲は1 - 64です。

上

除外するプール (OMTPOOLS)

除外する64個までのプールのリストを指定します。指定したプールで実行中のジョブがグラフから除外されます。

注: 選択するプール・プロンプト (SLTPOOLSパラメーター) と除外するプール・プロンプト (OMTPOOLSパラメーター) を一緒に使用することはできません。

*NONE

これらのプールに基づいて除外されるジョブはありません。

記憶域プール識別コード

除外するプールの番号を指定してください。有効な値の範囲は1 - 64です。

サブシステムの選択 (SLTSBS)

選択する50個までのサブシステムのリストを指定します。指定したサブシステムの1つで実行中のジョブだけがグラフに含まれます。

注: サブシステムの選択プロンプト (SLTSBSパラメーター) とサブシステムの除外プロンプト (OMTSBSパラメーター) を一緒に使用することはできません。

***ALL** 他の選択基準によって除外されない限り、すべてのサブシステムのジョブが除外されます。

サブシステム名

選択するサブシステムの名前を指定してください。

サブシステムの除外 (OMTSBS)

除外する最大50のサブシステムのリストを指定します。指定したサブシステムで実行中のジョブがグラフから除外されます。

注: サブシステムの選択プロンプト (SLTSBSパラメーター) とサブシステムの除外プロンプト (OMTSBSパラメーター) を一緒に使用することはできません。

***NONE**

サブシステムに基づいて除外されるジョブはありません。

サブシステム名

除外するサブシステムの名前を指定してください。

通信回線の選択 (SLTLINE)

選択する最大50の通信回線のリストを指定します。指定した通信回線の1つを介して接続されたりリモート装置を使用しているジョブだけがグラフに含まれます。

注: 通信回線の選択プロンプト (SLTLINEパラメーター) と通信回線の除外プロンプト (OMTLINEパラメーター) を一緒に使用することはできません。

***ALL** 他の選択基準によって除外されない限り、すべてのジョブが含まれます。

通信回線名

選択する通信回線の名前を指定してください。これにより、たとえ、それらの装置が接続された制御装置がSLTCTLパラメーターに指定されていても、他の通信回線を介して（あるいは通信回線なしで）接続されたりリモート装置を使用しているジョブが除外されます。

通信回線の除外 (OMTLINE)

除外する最大50の通信回線のリストを指定します。指定した回線の1つを介して接続されたりモート装置を使用しているジョブがグラフから除外されます。

注: 通信回線の選択プロンプト (SLTLINEパラメーター) と通信回線の除外プロンプト (OMTLINEパラメーター) を一緒に使用することはできません。

*NONE

通信回線に基づいて除外されるジョブはありません。

通信回線名

除外する通信回線の名前を指定してください。

上

制御装置の選択 (SLTCTL)

選択する最大50の通信制御装置のリストを指定します。指定した通信制御装置の1つに接続された装置を使用しているジョブだけがグラフに含まれます。

注: 制御装置の選択プロンプト (SLTCTLパラメーター) と制御装置の除外プロンプト (OMTCTLパラメーター) を一緒に使用することはできません。

*ALL 他の選択基準によって除外されない限り、すべてのジョブが含まれます。

制御装置名

選択する通信制御装置の名前を指定してください。

上

制御装置の除外 (OMTCTL)

除外する最大50の通信制御装置のリストを指定します。指定した通信制御装置の1つに接続された装置を使用しているジョブがグラフから除外されます。

注: 制御装置の選択プロンプト (SLTCTLパラメーター) と制御装置の除外プロンプト (OMTCTLパラメーター) を一緒に使用することはできません。

*NONE

通信制御装置に基づいて除外されるジョブはありません。

制御装置名

除外する通信制御装置の名前を指定してください。

上

選択する機能領域 (SLTFCNARA)

選択する最大50の機能領域のリストを指定します。機能領域の1つで識別されるジョブだけがグラフに含まれます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブまたはユーザー名（あるいはその両方）のリストです。機能領域の定義情報は、Performance Tools for i5/OSの資料に入っています。

注: 選択する機能領域プロンプト (SLTFCNARAパラメーター) と除外する機能領域プロンプト (OMTFCNARAパラメーター) を一緒に使用することはできません。

***ALL** 他の選択基準によって除外されない限り、すべてのジョブが含まれます。

機能領域名

選択する機能領域の名前を指定してください。

上

除外する機能領域 (OMTFCNARA)

除外する50個までの機能領域のリストを指定します。機能領域の1つで識別されるジョブおよびユーザーがグラフから除外されます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブおよびユーザー名のリストです。機能領域の定義情報は、Performance Tools for i5/OSの資料に入っています。

注: 選択する機能領域プロンプト (SLTFCNARAパラメーター) と除外する機能領域プロンプト (OMTFCNARAパラメーター) を一緒に使用することはできません。

***NONE**

機能領域に基づいて除外されるジョブはありません。

機能領域名

除外する機能領域の名前を指定してください。

上

ジョブ名 (JOB)

バッチ処理用にジョブを投入する場合に使用するジョブ名を指定します。

ジョブ記述プロンプト (JOBIDパラメーター) に***NONE**を指定した場合には、このパラメーターは無視され、ジョブ処理は対話式に実行されます。

指定できるジョブ名の値は次の通りです。

DSPFFRGPH

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバープロンプト (MBRパラメーター) に指定されたパフォーマンス・データ・メンバー名が使用されます。

ジョブ名

バッチ・ジョブに使用する名前を指定してください。

上

ジョブ記述 (JOBDD)

バッチ処理用のジョブの投入に使用されるジョブ記述を指定します。

*NONE

バッチ・ジョブは投入されず、その代わりに、ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この間に、ユーザーのワークステーションを使用することはできません。これは、特に長時間ジョブの場合に考慮する事項です。

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定します。

QPFRJOBDD

弊社提供パフォーマンス・ツール・ジョブ記述が使用されます。

ジョブ記述名

代替ジョブ記述の名前を指定してください。

上

例

例1: パフォーマンス・データ・ファイルを表示する

```
DSPPFRGPH  GRAPH(GRAPHLIB/CPU)  MBR(QPFRDATA/JUN1)
            TITLE(*MBRTEXT)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATAのメンバーJUN1にあるパフォーマンス・データ・ファイルを表示します。その際、ライブラリーGRAPHLIBのグラフ様式CPUで指定された形式で表示されます。報告書の表題は、このメンバーのテキストになります。

例2: グラフを保存する

```
DSPPFRGPH  GRAPH(GRAPHLIB/CPU)  MBR(JUN1)  OUTPUT(*OUTFILE)
            OUTFILE(USERLIB/USERFILE)  OUTMBR(TEST)
            JOBDD(*LIBL/QPFRJOBDD)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATA内のメンバーJUN1のパフォーマンス・データのグラフをGDFファイルに保存するジョブを投入します。グラフはUSERLIB/USERFILE/TEST (ライブラリーUSRLIB内のファイルUSRFILEのメンバーTEST)に保管されます。

例3: グラフを印刷する

```
DSPPFRGPH  GRAPH(GRAPHLIB/CPU)  MBR(JUN1)  OUTPUT(*PRINT)
            PRTDEV(PRT03)  JOBDD(*LIBL/QPFRJOBDD)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATA内のメンバーJUN1のパフォーマンス・データのグラフをシステム・プリンターPRT03で印刷するジョブを投入します。

例4:すべてのグラフを印刷する

```
DSPPFRGPH  GRAPH(GRAPHLIB/PACKAGE1) MBR(JUN1) OUTPUT(*PRINT)
            PRTDEV(PRT03)  JOB(*LIBL/QPFRJOB)  TYPE(*GPHPKG)
```

このコマンドは、GRAPHLIBのPACKAGE1で定義されたすべてのグラフを印刷するジョブを投入します。印刷ジョブはシステム・プリンターPRT03に送られます。データ・ソースはライブラリーQPFRDATAのパフォーマンス・データ・メンバーJUN1になります。

例5:グラフを表示する

```
DSPPFRGPH  GRAPH(GRAPHLIB/CPU) MBR(JUN1) OUTPUT(*)
            PERIOD((2330)(0130))
```

このコマンドは、収集期間の第1日目の11:30 PMから最終日の1:30 AM までに収集されたデータのグラフを表示します。ただし、データ収集が開始日と同じ日に終了した場合は、その終了日時は指定された開始日時よりも先になるため、エラー・メッセージが出力されます。

例6:選択されたユーザーのグラフを表示する

```
DSPPFRGPH  GRAPH(GRAPHLIB/CPU) MBR(JUN1) OUTPUT(*)
            PERIOD((2330)(0130)) SLTUSER(D46*)
```

このコマンドは、収集期間の第1日目の11:30 PMから最終日の1:30 AM までに収集された、ユーザーIDがD46で始まるすべてのジョブのパフォーマンス・データのグラフを表示します。ただし、データ収集が開始日と同じ日に終了した場合は、その終了日時は指定された開始日時よりも先になるため、エラー・メッセージが出力されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR5501

パフォーマンス・データ・ファイルは上方に互換性がない。

PFR5502

パフォーマンス・データ・ファイルは下方に互換性がない。

PFR9031

パフォーマンス・グラフのメンバー&3を使用することができない。

PFR9046

ジョブが複数の機能領域に定義されている。

PFR9049

ライブラリー&3のグラフ様式&1は存在していない。

PFR9068

OUTFILEパラメーターに値を指定しなければならない。

PFR9069

JOBIDパラメーターに値*NONEを指定しなければならない。

PFR9071

両方のグラフのX軸変数は同じでなければならない。

PFR9075

プロッターが見つからない。

PFR9076

プロッターのこのタイプはサポートされていない。

PFR9077

グラフ様式のオーバーレイ用の凡例項目が多すぎる。

PFR9078

データが脱落しているので、グラフを表示することができない。

PFR9079

出力ファイルにグラフを書き出すことはできない。

PFR9080

X軸が*TIMEの場合には、範囲に*AUTOを指定してください。

PFR9082

印刷装置&1が見つからなかった。

PFR9083

実績グラフに指定したグラフ様式が正しくない。

PFR9096

実績データ・ファイルQAPGHSTDがライブラリー&1に見つからない。

PFR9097

グラフ様式&1をそれ自身にコピーすることはできない。

PFR9098

グラフ・パッケージ&1をそれ自身にコピーすることはできない。

PFR9099

機能領域&1をそれ自身にコピーすることはできない。

PFR9101

グラフのデータ点多すぎて表示できない。

PFR9107

グラフ様式&1が正しくない。

PFR9113

データが脱落しているので、グラフを表示することができない。

上

ジョブ・トレース終了 (ENDJOBTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・トレース終了(ENDJOBTRC)コマンドは、ジョブ・トレースの開始(STRJOBTRC)コマンドによって開始されたジョブ・トレース機能をオフにし、集められたすべてのトレース・レコードをデータベース・ファイルに保管し、任意指定でパフォーマンスに関する情報についてデータを分析するために使用される報告書を作成します。また、ジョブ・トレース印刷(PRTJOBTRC)コマンドを使用して、同じソース・データから報告書を作成することもできます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	出力ファイル・メンバー	名前, <u>QAJOBTRC</u>	オプションル, 位置 1
LIB	出力ファイル・ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプションル, 位置 2
RPTTYPE	報告書タイプ	*NONE, *DETAIL, *SUMMARY, *BOTH	オプションル, 位置 3
TITLE	報告書のタイトル	文字値, <u>*BLANK</u>	オプションル, 位置 4
STRSEQ	開始順序番号	1-999999, <u>*FIRST</u>	オプションル
ENDSEQ	終了順序番号	10 進数, <u>*LAST</u>	オプションル
ENDTNS	トランザクション終了プログラム	名前, <u>QT3REQIO</u> , *BATCH	オプションル
STRTNS	トランザクション開始プログラム	名前, <u>QWSGET</u>	オプションル
JOB	ジョブ名	名前, <u>ENDJOBTRC</u> , *MBR	オプションル
JOBID	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRJOBID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

出力ファイル・メンバー (MBR)

トレース・データを保管するファイルQAPTTRCJのメンバーを指定します。メンバーが存在していない場合には、そのメンバーがファイルに追加されます。メンバーが存在する場合には、新しいデータで前の内容が置き換えられます。

QAJOBTRC

標準メンバー名QAJOBTRCが使用されます。

名前 データを保管する代替メンバーの名前を指定してください。これにより、複数のジョブ・トレース・データ・セットを保管することができます。

[トップ](#)

出力ファイル・ライブラリー (LIB)

トレース・データが保管されるライブラリーを指定します。ライブラリーにQAPTTRCJという名前のファイルが入っていない場合には、このファイルが作成されます。

QPFRDATA

トレース・データはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAに保管されます。

名前 トレース・データが保管される代替ライブラリーの名前を指定してください。これは省略時のライブラリーにアクセスできない場合に必要です。

[トップ](#)

報告書タイプ (RPTTYPE)

作成される報告書のタイプを指定します。

***NONE**

報告書は作成されませんが、ジョブ・トレース印刷(PRTJOBTRC)コマンドを使用して後から保管されたデータについて報告することができます。この値が選択された場合には、残りのパラメーターはどれも適用されません。

***DETAIL**

個々のジョブ・トレース・レコードを詳細に示す報告書が作成されます。出力は印刷装置ファイルQPPTTRCDに送られます。各ページ見出しにはテキスト「ジョブ・トレース情報」が含まれます。

***SUMMARY**

ワークステーション・トランザクション別にジョブ・トレース・データを要約する2つの報告書が作成されます。1つの報告書は基本的な物理ディスク活動を示し、その印刷装置ファイルはQPPTTRC1で、そのページ見出しにはテキスト「トレース分析の要約」が含まれます。もう1つの報告書はデータベース入出力やプログラム相互間の制御の転送などの高位レベルの活動に集中し、その印刷装置ファイルはQPPTTRC2で、そのページ見出しにはテキスト「トレース分析入出力の要約」が含まれます。

***BOTH**

明細報告書と2つの要約報告書の両方（合計3つの報告書）が作成されます。

[トップ](#)

報告書のタイトル (TITLE)

それぞれの報告書のページ見出しに印刷されるタイトルを指定します。

***BLANK**

タイトルは指定されません。

文字値 アポストロフィで囲んで50桁以内のタイトルを指定してください。これは、たとえば別のトレース・データ・セットについての報告書や同じデータの別の部分を区別するために使用することができます。

トップ

開始順序番号 (STRSEQ)

報告書に含められる最初のジョブ・トレース・レコードの順序番号を指定します。この番号より前のレコードは明細報告書にリストされず、どちらの要約報告書でもカウントされません。

***FIRST**

最初のトレース・レコード（順序番号1）からのトレース・レコードが含められます。

1-999999

含められる最初のトレース・レコードの順序を指定してください。該当する値は、ジョブ・トレース・データから作成される報告書をプレビューして決定します。順序番号は、報告する特定のトランザクションのセットを一括するために使用することができます。

トップ

終了順序番号 (ENDSEQ)

報告書に含められる最後のジョブ・トレース・レコードの順序番号を指定します。この番号より後のレコードは明細報告書にリストされず、どちらの要約報告書でもカウントされません。

***LAST**

最後のトレース・レコードまでのトレース・レコードが含められます。

1-999999

含められる最後のトレース・レコードの順序番号を指定してください。該当する値は、特定のトランザクション・セットを一括するように事前表示プロセスで選択することができます。

トップ

トランザクション終了プログラム (ENDTNS)

トランザクションの終わりを知らせるプログラムを指定します。 **トランザクション開始プログラム (STRTNS)**パラメーターのプログラム名も指定しなければなりません。

QT3REQIO

ワークステーション入出力プログラムQT3REQIOが使用されます。この値は、トレース・データを中断して表示装置トランザクションに入るために使用されます。

名前 トランザクションを終了するプログラムの名前を指定してください。これにより、通信回線などの非表示装置トランザクションで報告することができます。

トップ

トランザクション開始プログラム (STRTNS)

トランザクションの開始を知らせるプログラムを指定します。 トランザクション終了プログラム (ENDTNS)パラメーターのプログラム名も指定しなければなりません。

QWSGET

ワークステーション入力プログラムQWSGETが使用されます。この値は、トレース・データを中断して表示装置トランザクションに入るために使用されます。

名前 トランザクションを開始するプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBDD)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBDD(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

ENDJOBTRC

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBDD

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBDDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

例1:ジョブのトレースを停止する

```
ENDJOBTRC
```

このコマンドは、トレースを終了し、作成されたトレース・レコードをQPFRDATA/QAPTTRCJのメンバーQAJOBTRCに保管します。報告書は作成されません。

例2:ジョブ・レコードの報告書を作成する

```
ENDJOBTRC LIB(MYLIB) RPTTYPE(*DETAIL)
```

このコマンドは、ジョブのトレースを停止し、作成されたトレース・レコードをMYLIB/QAPTTRCJのメンバーQAJOBTRCに保管し、詳細な報告書を作成します。専用ライブラリーを使用することで、同時に複数のユーザーによるジョブのトレースが可能になります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

活動報告書の印刷 (PRTACTRPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動報告書印刷(PRTACTRPT)コマンドは、データ：システム活動処理(WRKSYSACT) コマンドで収集されたデータに基づいて報告書を生成します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	名前, <u>QAITMON</u>	オプション, 位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 位置 2
TITLE	タイトル	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション, 位置 3
RPTTYPE	報告書タイプ	<u>*SUMMARY</u> , *DETAIL, *ALL	オプション
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: 開始日	日付, <u>*FIRST</u>	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*LAST</u>	
	要素 2: 終了日	日付, <u>*LAST</u>	
SEQ	順序	*JOBTASK, *USER, *PTY, <u>*CPU</u> , *TOTALIO, *SYNCIO, *ASYNCO, *FAULT, *SDBREAD, *SDBWRITE, *SNDBREAD, *SNDBWRITE, *ADBREAD, *ADBWRITE, *ANDBREAD, *ANDBWRITE	オプション
NBRJOBS	ジョブの数	1-32767, <u>10</u> , *ALL	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>PRTACTRPT</u> , *MBR	オプション
JOBID	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRJOBID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

トップ

メンバー (MBR)

システム活動処理(WRKSYSACT)コマンドによってパフォーマンス・データが保管されたメンバーを指定します。

QAITMON

標準メンバー名QAITMONが使用されます。

名前 パフォーマンス・データが入っているメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データ・ファイルQAITMONが保管されるライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAに保管されます。

名前 データ・ファイルが保管されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

タイトル (TITLE)

生成される活動報告書のタイトルを指定します。

*BLANK

活動報告書にタイトルは入れられません。

文字値 活動報告書のタイトルを指定してください。アポストロフィで囲んで50桁以内を指定してください。

[トップ](#)

報告書タイプ (RPTTYPE)

生成される活動報告書のタイプを指定します。

*SUMMARY

処理装置使用率および実行された入出力操作数に従って、PERIODパラメーターで指定された時間枠全体にわたって測定された上位10項目をリストします。

*DETAIL

PERIODパラメーターで指定されたそれぞれの間隔に対して、NBRJOBSパラメーターで指定された項目数が、SEQパラメーターで指定された順序でリストされます。

***ALL** 要約活動報告書および詳細活動報告書を生成します。

[トップ](#)

報告書の期間 (PERIOD)

報告書の期間を指定します。それぞれ2つの要素の2つのリストが入っているこのパラメーターには次の値をコーディングすることができます。指定された開始時刻と日付の前に収集されたデータ、および指定された終了時刻と日付の後に収集されたデータは表示されません。

要素1:開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

*FIRST

指定された開始日の最初の間隔に使用可能な収集データが報告書に含まれます。

時刻 その時刻以後に収集されたデータを報告書に含めたい時刻を指定してください。この時刻は4桁または6桁 (HHMMまたはHHMMSS) として指定します。ここで、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、**SS** =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のストリングを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければならない。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日

*FIRST

パフォーマンス・データ収集の最初の日の指定された開始時刻以後に使用可能な収集データが報告書に含まれます。

日付 その日以後に収集されたデータを報告書に含めたい開始日を指定してください。この日付は、ジョブに指定されているものと同じ形式で入力しなければなりません。

要素2:終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

*LAST

指定された終了日の最後の間隔までに使用可能な収集データが報告書に含まれます。

時刻 その時刻より前に収集されたデータを報告書に含めたい時刻を指定してください。この時刻は4桁または6桁 (HHMMまたはHHMMSS) として指定します。ここで、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のSTRING(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時間、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のSTRINGを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、STRINGをアポストロフィで囲まなければならない。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 終了日

***LAST**

パフォーマンス・データ収集の最後の日の指定された終了時刻までに使用可能な収集データが報告書に含められます。

日付 その日以前に収集されたデータを報告書に含めたい終了日付を指定してください。この日付は、ジョブに指定されているものと同じ形式で入力しなければなりません。

トップ

順序 (SEQ)

ジョブおよびタスクがランクづけされて、詳細活動報告書にリストされるフィールドを指定します。このパラメーターが有効なのは、RPTTYPEパラメーターに*DETAILまたは*ALLが指定されている場合だけです。

***CPU** 処理装置の使用率に従って降順で項目をリストします。

***JOBTASK**

ジョブ名またはタスク名に従ってアルファベット順で項目をリストします。

***USER**

ユーザー・プロファイルに従ってアルファベット順で項目をリストします。

***PTY** 優先順位にしたがって降順で項目をリストします。

***TOTALIO**

実行された同期および非同期入出力操作の合計数に従って降順で項目をリストします。

***SYNCIO**

実行された同期入出力操作の合計数に従って降順で項目をリストします。

***ASYNCIO**

開始された非同期入出力操作の合計数に従って降順で項目をリストします。

***FAULT**

起こった処理アクセス・グループ・ページ不在の数に従って降順で項目をリストします。

***SDBREAD**

実行された同期データベース読み取り操作の数に従って降順で項目をリストします。

***SDBWRITE**

実行された同期データベース書き出し操作の数に従って降順で項目をリストします。

***SNDBREAD**

実行された同期非データベース読み取り操作の数に従って降順で項目をリストします。

***SNDBWRITE**

実行された同期非データベース書き出し操作の数に従って降順で項目をリストします。

***ADBREAD**

開始された非同期データベース読み取り操作の数に従って降順で項目をリストします。

***ADBWRITE**

開始された非同期データベース書き出し操作の数に従って降順で項目をリストします。

***ANDBREAD**

開始された非同期非データベース読み取り操作の数に従って降順で項目をリストします。

***ANDBWRITE**

開始された非同期非データベース書き出し操作の数に従って降順で項目をリストします。

[トップ](#)

ジョブの数 (NBRJOBS)

詳細活動報告書のそれぞれの間隔に対してリストされる項目数を指定します。このパラメーターが有効なのは、RPTTYPEパラメーターに*DETAILまたは*ALLが指定されている場合だけです。

10 それぞれの間隔に対して10項目をリストします。

***ALL** 収集されたデータに入っているすべての項目をリストします。

I-32767

それぞれの間隔に対してリストされる項目数を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBID)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBID(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

PRTACTRPT

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

*NONE

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBDD

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBDDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

トップ

例

例1: 要約報告書を生成する

```
PRTACTRPT
```

このコマンドは、デフォルトのライブラリーQPFRDATA内のデフォルトのメンバーQAITMONに存在するパフォーマンス・データをもとに、活動報告書の要約を生成するバッチ・ジョブを投入します。この報告書は測定期間の全体をカバーし、この報告書の表題はブランクになります。

例2: 要約および詳細活動報告書生成する

```
PRTACTRPT  MBR(JUNE01)  TITLE('ACTIVITY REPORT FOR JUNE 1ST')
            RPTTYPE(*ALL) SEQ(*CPU)
```

このコマンドは、活動報告書の要約と詳細活動報告書の両方を生成するバッチ・ジョブを投入します。パフォーマンス・データはデフォルトのライブラリーQPFRDATA内のメンバーJUNE01のものを使用します。この報告書は測定期間の全体をカバーし、この報告書の表題は「ACTIVITY REPORT FOR JUNE 1ST」になります。詳細活動報告書は、それぞれの時間間隔ごとにCPU使用率の高いもの10個のエントリーを降順にリストします。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR7010

メンバーに印刷するデータがない。

PFR7017

活動報告書を印刷することができない。

[トップ](#)

構成要素報告書の印刷 (PRTCPTPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成要素報告書印刷(PRTCPTPT)コマンドは、システム報告書で与えられる情報を拡張する報告書を作成します。それぞれの構成要素のシステム・パフォーマンスに関する詳細情報が報告されます。この明細報告書は、オペレーション・ナビゲーター・インターフェースから収集サービスによって収集しているパフォーマンス・データから作成され、データはジョブ、ユーザー、プール、ディスク、IOP、ローカル・ワークステーション、例外、データベース・ジャーナル処理、およびTCP/IP別に表示されます。この報告書は印刷装置ファイルQPPTCPTPTに書き出されます。ジョブは、各種のジョブ明細および間隔時間に基づいて選択的に報告書に含め、あるいは報告書から除外することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
TITLE	報告書のタイトル	文字値, *MBR	オプション, 定位置 3
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *FIRST, *SELECT	
	要素 2: 開始日	日付, *FIRST	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *LAST	
要素 2: 終了日	日付, *LAST		
LIB	ライブラリー	名前, QPFRDATA	オプション, 定位置 2
TYPE	情報のタイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 12 回の繰り返し): *INTERVAL, *WORKLOAD, *POOL, *DISK, *IOP, *LCLWS, *RMTWS, *EXCEPTION, *DBJRN, *TCP/IP, *HTTP, *DOMINO	オプション
DETAIL	報告書の詳細	*JOB, *THREAD	オプション
SLTJOB	選択するジョブ	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
	要素 2:	要素リスト	
要素 1: スレッド	文字値, *ALL		

キーワード	記述	選択項目	ノート
OMTJOB	除外するジョブ	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: スレッド	文字値, *ALL	
SLTUSRID	選択するユーザー	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMTUSRID	除外するユーザー	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
SLTJOBTYPE	ジョブ・タイプの選択	単一値: *ALL その他の値 (最大 15 回の繰り返し): A, B, C, D, E, I, L, M, P, R, S, T, W, X, 3	オプション
OMTJOBTYPE	ジョブ・タイプの除外	単一値: *NONE その他の値 (最大 15 回の繰り返し): A, B, C, D, E, I, L, M, P, R, S, T, W, X, 3	オプション
SLTRUNPTY	ジョブ実行優先順位の選択	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 最高優先順位	0-99	
	要素 2: 最低優先順位	0-99	
OMTRUNPTY	ジョブ実行優先順位の除外	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 最高優先順位	0-99	
	要素 2: 最低優先順位	0-99	
SLTPOOLS	選択するプール	単一値: *ALL その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64	オプション
OMTPOOLS	除外するプール	単一値: *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64	オプション
SLTSBS	サブシステムの選択	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTSBS	サブシステムの除外	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTLINE	通信回線の選択	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTLINE	通信回線の除外	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SLTCTL	制御装置の選択	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTCTL	制御装置の除外	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTFCNARA	選択する機能領域	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMTFCNARA	除外する機能領域	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>PRTCPTRPT</u> , *MBR	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFJRJOB</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

上

メンバー (MBR)

使用するパフォーマンス・データ・メンバーを指定します。この名前は、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRTA) コマンドの TOMBR パラメーターに指定されているメンバー名と対応している必要があります。

これは必須パラメーターです。

上

報告書のタイトル (TITLE)

作成される報告書のタイトルを指定します。

*MBR パフォーマンス・データが入っているデータベース・メンバーのテキストが報告書のタイトルです。

文字値 アポストロフィで囲んだ最大50桁のテキストで報告書に必要なタイトルを指定してください。

上

報告書の期間 (PERIOD)

報告する期間を指定します。パラメーターは、開始時刻と開始日および終了時刻と終了日の4つの要素から構成されています。開始日の開始時刻の前に収集されたデータおよび終了日の終了時刻の後に収集されたデータは報告書に含まれません。

4つのどの要素にも省略時の値を示すために記号*Nを使用することができます。

要素1:開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

*FIRST

収集期間の初日の始め(00:00:00)から開始するデータ・レコードが含まれます。

*SELECT

含める1つまたは複数の間隔を選択できる間隔選択画面が表示されます。この値は対話式環境でのみ有効です。この値を使用した場合には、このパラメーターの残りの値（開始時刻と日付および終了時刻と日付）は無視されます。

時刻 **HHMM**または**HHMMSS**の形式を使用して、報告書に含める最初のデータ・レコードの時刻を指定してください。この場合に、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、次のように時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしで24時間形式で指定します。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のストリング(**HHMM**または**HHMMSS**)を指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、**SS** =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のストリングを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければならない。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日

*FIRST

収集期間の最初の日からのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最初のデータ・レコードの日付を指定してください。日付は、システム値 **QDATFMT** によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 **QDATSEP**によって指定されているように）入力しなければなりません。

要素2:終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

*LAST

その日の終わり(23:59:59)までのデータ・レコードが報告書に含められます。

時刻 報告書に含める最後のデータ・レコードの時刻を指定してください。開始時刻に使用したものと同一形式を使用してください。

要素2: 終了日

***LAST**

収集期間の最後の日までのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最後のレコードの日付を指定してください。日付は、システム値 QDATFMT によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 QDATSEPによって指定されているように）入力しなければなりません。

上

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データが入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データ・ファイルはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

情報のタイプ (TYPE)

印刷したい報告書のセクションを指定します。

***ALL** 報告書のすべてのセクションが印刷されます。

***INTERVAL**

構成要素の期間活動セクションを印刷することを指定します。

***WORKLOAD**

ジョブ作業負荷活動セクションを印刷することを指定します。

***POOL**

記憶域プール活動セクションを印刷することを指定します。

***DISK** ディスク活動セクションを印刷することを指定します。

***IOP** IOP使用率セクションを印刷することを指定します。

***LCLWS**

ローカル・ワークステーション・セクションを印刷することを指定します。

***RMTWS**

リモート・ワークステーション・セクションを印刷することを指定します。このセクションだけを印刷できるのは、前のリリースでSTRPFRMONコマンドによって収集したパフォーマンス・データを変換した場合だけです。収集サービスはこのデータを収集しません。

***EXCEPTION**

例外発生の要約および間隔カウント・セクションを印刷することを指定します。

***DBJRN**

データベース・ジャーナル処理要約セクションを印刷することを指定します。

*TCPIP

TCP/IP活動セクションを印刷したいことを指定します。このセクションはV5R1以降から新規のもので、前のリリースからデータを変換した場合には、これは使用できません。

*HTTP

HTTPサーバー活動セクションを印刷することを指定します。このセクションには、HTTPサーバーの統計(APACHE提供)が含まれます。

*DOMINO

Lotus Domino Server活動セクションを印刷することを指定します。このセクションには、Lotus Domino for i5/OSの統計が入っています。

上

報告書の詳細 (DETAIL)

報告書で詳細なジョブ情報をジョブ・レベルで提供するかスレッド・レベルで提供するかを指定します。

***JOB** ジョブ・レベルの詳細な情報が必要であることを指定します。

*THREAD

スレッド・レベルの詳細な情報が必要であることを指定します。

上

選択するジョブ (SLTJOB)

報告書に含める最大50のジョブのリストを指定します。指定されたジョブだけが報告書に含まれます。

個々のジョブは「ジョブID」によって識別されます。ジョブIDは、特殊値*ALLまたは修飾名のいずれかであり、ジョブ番号、ユーザー名、およびジョブ名の最大3つの修飾子から構成されます。ジョブIDはジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名の形式で書かれますが、必ずしも3つの修飾子全部を指定する必要はありません。ジョブIDの最大2つの修飾子のプレースホルダーとして、記号*Nを使用することができます。

注: このパラメーターと除外するジョブ (OMTJOB)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、収集されたデータのすべてのジョブが含まれます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 選択するジョブの総称ジョブ名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば, ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 選択するジョブのジョブ名を指定してください。ジョブは同じジョブ名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子2: ユーザー

名前 選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子3: 番号

000000-999999

選択するジョブの6桁の番号を指定してください。ゼロを含めて6桁全部を指定しなければなりません。

要素2: スレッド

要素1: スレッド

***ALL** 他を選択基準で除外されない限り、すべてのスレッドが含まれます。

文字値 選択するスレッドIDを指定してください。一部のジョブは同一のスレッドIDを持つことがあるので、この値では特定のジョブを識別できない場合があります。

上

除外するジョブ (OMTJOB)

報告書から除外される最大50のジョブのリストを指定します。

個々のジョブは「ジョブID」によって識別されます。ジョブIDは、特殊値*NONEまたは修飾名のいずれかであり、ジョブ番号、ユーザー名、およびジョブ名の最大3つの修飾子から構成されます。ジョブIDはジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名の形式で書かれますが、必ずしも3つの修飾子全部を指定する必要はありません。ジョブIDの最大2つの修飾子のプレースホルダーとして、記号*Nを使用することができます。

注: このパラメーターと**選択するジョブ (SLTJOB)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

ジョブIDに基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 除外するジョブの総称ジョブ名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば, ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除外するジョブのジョブ名を指定してください。ジョブは同じジョブ名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子2: ユーザー

名前 除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子3: 番号

000000-999999

除外するジョブの6桁の番号を指定してください。ゼロを含めて6桁全部を指定しなければなりません。

要素2: スレッド

要素1: スレッド

***ALL** 他の選択基準で含まれない限り、すべてのスレッドが除外されます。

文字値 除外するスレッドIDを指定してください。一部のジョブは同一のスレッドIDを持つことがあるので、この値では特定のジョブを識別できない場合があります。

上

選択するユーザー (SLTUSRID)

報告書に含められる最大50のユーザー名のリストを指定します。指定されたユーザー名の1つのジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと除外するユーザー (OMTUSRID)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、ユーザー名をもつすべてのジョブが含まれます。

その他の値（最大50個まで指定可能）

総称名 選択するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

注：総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング（たとえば、ABC*）です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。SLTUSRID（ユーザー）はSLTJOB(*N/ユーザー/*N)と同じです。

上

除外するユーザー (OMTUSRID)

報告書から除外される最大50のユーザー名のリストを指定します。

注：このパラメーターと**選択するユーザー (SLTUSRID)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

ユーザー名に基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値（最大50個まで指定可能）

総称名 除外するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

注：総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング（たとえば、ABC*）です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。OMTUSRID（ユーザー）はOMTJOB(*N/ユーザー/*N)と同じです。

上

ジョブ・タイプの選択 (SLTJOBTYPE)

報告書に組み込まれる最大15のジョブ・タイプのリストを指定します。

注：このパラメーターと**ジョブ・タイプの除外 (OMTJOBTYPE)**パラメーターは同時に使用することはできません。

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのタイプのジョブが組み込まれます。

- A 自動開始ジョブ
- B バッチ・ジョブ
- C System i Access ジョブ
- D DDMサーバー・ジョブ

- E 呼び出しジョブ
- I 対話式ジョブ
- L ライセンス内部コード・ジョブ
- M サブシステム・モニター・ジョブ
- P パススルー・ジョブ
- R スプール読み取りプログラム・ジョブ
- S システム・ジョブ
- T 複数要求端末(MRT)ジョブ
- W スプール書き出しプログラム・ジョブ
- X システム・ジョブの開始
- 3 システム/36ジョブ

上

ジョブ・タイプの除外 (OMTJOBTYPE)

報告書から除外される最大15のジョブ・タイプのリストを指定します。

注: このパラメーターとジョブ・タイプの選択 (SLTJOBTYPE)パラメーターは同時に使用することはできません。

*NONE

別の選択値によって除外されない限り、どのジョブ・タイプも除外されません。

- A 自動開始ジョブ
- B バッチ・ジョブ
- C System i Access ジョブ
- D DDMサーバー・ジョブ
- E 呼び出しジョブ
- I 対話式ジョブ
- L ライセンス内部コード・ジョブ
- M サブシステム・モニター・ジョブ
- P パススルー・ジョブ
- R スプール読み取りプログラム・ジョブ
- S システム・ジョブ
- T 複数要求端末(MRT)ジョブ
- W スプール書き出しプログラム・ジョブ
- X システム・ジョブの開始
- 3 システム/36ジョブ

上

ジョブ実行優先順位の選択 (SLTRUNPTY)

選択する実行優先順位の範囲を指定します。指定された範囲の優先順位で実行したジョブだけが報告書に組み込まれます。

注: このパラメーターとジョブ実行優先順位の除外 (OMTRUNPTY)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが含まれます。

要素1: 最高優先順位

0-99 選択する最高の実行優先順位を指定します。優先順位は0 - 99とすることができ、0が最高のジョブ優先順位であり、99は最低のジョブ優先順位です。

要素2: 最低優先順位

0-99 選択する最低の実行優先順位を指定します。優先順位は0 - 99とすることができ、0が最高のジョブ優先順位であり、99は最低のジョブ優先順位です。

上

ジョブ実行優先順位の除外 (OMTRUNPTY)

除外する実行優先順位の範囲を指定します。指定された範囲の優先順位で実行したジョブだけが報告書から除外されます。

注: このパラメーターとジョブ実行優先順位の選択 (SLTRUNPTY)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

その優先順位に基づいて除外されるジョブはありません。

要素1: 最高優先順位

0-99 除外する最高の実行優先順位を指定します。優先順位は0 - 99とすることができ、0が最高のジョブ優先順位であり、99は最低のジョブ優先順位です。

要素2: 最低優先順位

0-99 除外する最低の実行優先順位を指定します。優先順位は0 - 99とすることができ、0が最高のジョブ優先順位であり、99は最低のジョブ優先順位です。

上

選択するプール (SLTPOOLS)

報告書に含められる最大64のプールのリストを指定します。

注: このパラメーターと除外するプール (OMTPOOLS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのプールで実行されたジョブが含まれます。

その他の値 (最大64個まで指定可能)

I-64 選択するプールの番号を指定してください。

上

除外するプール (OMTPOOLS)

除外する64個までのプールのリストを指定します。指定されたプールのいずれかで実行されたジョブは、報告書から除外されます。

注: このパラメーターと選択するプール (SLTPOOLS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE** プールに基づいてジョブは除外されません。

その他の値 (最大64個まで指定可能)

I-64 除外するプールの番号を指定してください。

上

サブシステムの選択 (SLTSBS)

選択する最大50のサブシステムのリストを指定します。指定されたサブシステムの1つで実行されたジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターとサブシステムの除外 (OMTSBS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのサブシステムのジョブが含まれます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択するサブシステムの名前を指定してください。

上

サブシステムの除外 (OMTSBS)

除外する最大50のサブシステムのリストを指定します。指定されたサブシステムで実行されたジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターとサブシステムの選択 (SLTSBS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

*NONE

そのサブシステムに基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 除外するサブシステムの名前を指定してください。

上

通信回線の選択 (SLTLINE)

選択する最大50の通信回線のリストを指定します。指定された通信回線の1つを介して接続されたりリモート装置を使用するジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと通信回線の除外 (OMTLINE)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

*ALL 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが報告書に含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択する通信回線の名前を指定してください。それ以外の通信回線を介して接続されているリモート装置のジョブは、たとえそのリモート装置が接続されている制御装置が制御装置の選択 (SLCTL)パラメーターで指定されている場合であっても、除外されます。

上

通信回線の除外 (OMTLINE)

除外する最大50の通信回線のリストを指定します。指定された通信回線のいずれかを介して接続されたりリモート装置を使用するジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターと通信回線の選択 (SLTLINE)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

*NONE

通信回線に基づいて報告書から除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 除外する通信回線の名前を指定してください。

上

制御装置の選択 (SLTCTL)

選択する最大50の通信制御装置のリストを指定します。指定された制御装置の1つに接続された装置を使用するジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと**制御装置の除外 (OMTCTL)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択する通信制御装置の名前を指定してください。

上

制御装置の除外 (OMTCTL)

除外する最大50の通信制御装置のリストを指定します。指定された制御装置のいずれかに接続された装置を使用するジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターと**制御装置の選択 (SLTCTL)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**
通信制御装置に基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 除外する通信制御装置の名前を指定してください。

上

選択する機能領域 (SLTFCNARA)

選択する最大50の機能領域のリストを指定します。この機能領域の1つで識別されたジョブおよびユーザーだけが報告書に含められます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブ名またはユーザー名、あるいはその両方のリストです。機能領域の詳細については、Performance Tools for i5/OSの資料を参照してください。

注: このパラメーターと**除外する機能領域 (OMTFCNARA)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが報告書に含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

文字値 選択する機能領域の名前を指定してください。

上

除外する機能領域 (OMTFCNARA)

除外する50個までの機能領域のリストを指定します。この機能領域のいずれかで識別されたジョブおよびユーザーが報告書から除外されます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブ名またはユーザー名、あるいはその両方のリストです。機能領域の詳細については、Performance Tools for i5/OSの資料を参照してください。

注: このパラメーターと**選択する機能領域 (SLTFCNARA)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

機能領域に基づいて報告書から除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

文字値 除外する機能領域の名前を指定してください。

上

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBDD)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBDD(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

PRTCPT

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

上

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOB

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

上

例

例1:コンポーネント報告書を印刷する

```
PRTCPT RPT MBR(APRIL18)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATAのパフォーマンス・データ・メンバーAPRIL18のすべてのコンポーネントを報告書に印刷します。報告書の表題はそのメンバーのテキストと同一になります。

例2:表題をつけて報告書を印刷する

```
PRTCPT RPT MBR(NOV1) PERIOD(*SELECT)  
TITLE('INTERVALS WITH HIGHEST RESPONSE TIMES')
```

このコマンドはライブラリーQPFRDATAのデータ・メンバーNOV1のコンポーネント報告書を印刷します。時間間隔の選択画面が表示されるので、ユーザーは時間間隔をさまざまな基準でソートすることができ、報告書を作成する特定の時間間隔をいくつか選択できます。報告書の表題は「*INTERVALS WITH HIGHEST RESPONSE TIMES*」です。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

PFR1010

データが見つからないので要求を処理することができない。

PFR3002

データがないために報告書を印刷することができない。

PFR3004

指定した測定間隔が正しくない。

PFR3006

指定した測定間隔が正しくない。

PFR3111

機能領域&1が存在していない。

PFR5501

パフォーマンス・データ・ファイルは上方に互換性がない。

PFR5502

パフォーマンス・データ・ファイルは下方に互換性がない。

PFR9048

データが脱落しているため、グラフを表示することができない。

上

ジョブ間隔報告書の印刷 (PRTJOB RPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ報告書印刷(PRTJOB RPT)コマンドは、オペレーション・ナビゲーター・インターフェースからの収集サービスによって集められたパフォーマンス・データからジョブ基準報告書を作成します。この報告書は印刷装置ファイルQPPTITVJに書き出され、間隔別にジョブ情報を表示します。ジョブは、各種のジョブ詳細および間隔時間に基づいて報告書に含め、あるいは報告書から除外することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
TITLE	報告書のタイトル	文字値, <u>*MBRTXT</u> , *BLANK	オプション, 定位置 3
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*FIRST</u> , *SELECT	
	要素 2: 開始日	日付, <u>*FIRST</u>	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*LAST</u>	
	要素 2: 終了日	日付, <u>*LAST</u>	
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2
DETAIL	報告書の詳細	<u>*JOB</u> , *THREAD	オプション
SLTJOB	選択するジョブ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: スレッド	文字値, <u>*ALL</u>	
OMTJOB	除外するジョブ	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: スレッド	文字値, <u>*ALL</u>	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SLTUSRID	選択するユーザー	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMTUSRID	除外するユーザー	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
SLTPOOLS	選択するプール	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64	オプション
OMTPOOLS	除外するプール	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64	オプション
SLTSBS	サブシステムの選択	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTSBS	サブシステムの除外	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTLINE	通信回線の選択	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTLINE	通信回線の除外	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTCTL	制御装置の選択	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTCTL	制御装置の除外	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTFCNARA	選択する機能領域	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMTFCNARA	除外する機能領域	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMTSYSTSK	システム・タスクの省略	<u>*YES</u> , *NO	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>PRTJOB</u> RPT, *MBR	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QFPRJOB</u> D	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

上

メンバー (MBR)

使用するパフォーマンス・データ・メンバーを指定します。この名前は、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンドの TOMBR パラメーターに指定されているメンバー名と対応している必要があります。

これは必須パラメーターです。

上

報告書のタイトル (TITLE)

作成される報告書のタイトルを指定します。

***MBRTXT**

パフォーマンス・データが入っているデータベース・メンバーのテキストが報告書のタイトルです。

***BLANK**

タイトルは指定されません。

文字値 アポストロフィで囲んで最大50桁のタイトルを指定してください。

上

報告書の期間 (PERIOD)

報告する期間を指定します。パラメーターは、開始時刻と開始日および終了時刻と終了日の4つの要素から構成されています。開始日の開始時刻の前に収集されたデータおよび終了日の終了時刻の後に収集されたデータは報告書に含まれません。

4つのどの要素にも省略時の値を示すために記号*Nを使用することができます。

要素1:開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

***FIRST**

収集期間の初日の始め(00:00:00)から開始するデータ・レコードが含まれます。

***SELECT**

含める1つまたは複数の間隔を選択できる間隔選択画面が表示されます。この値は対話式環境でのみ有効です。この値を使用した場合には、このパラメーターの残りの値（開始時刻と日付および終了時刻と日付）は無視されます。

時刻 **HHMM**または**HHMMSS**の形式を使用して、報告書に含める最初のデータ・レコードの時刻を指定してください。この場合に、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、次のように時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしで24時間形式で指定します。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のストリング(**HHMM**または**HHMMSS**)を指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、**SS** =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のストリングを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日

***FIRST**

収集期間の最初の日からのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最初のデータ・レコードの日付を指定してください。日付は、システム値

QDATFMT によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 QDATSEPによって指定されているように）入力しなければなりません。

要素2:終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

*LAST

その日の終わり(23:59:59)までのデータ・レコードが報告書に含められます。

時刻 報告書に含める最後のデータ・レコードの時刻を指定してください。開始時刻に使用したものと同一形式を使用してください。

要素2: 終了日

*LAST

収集期間の最後の日までのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最後のレコードの日付を指定してください。日付は、システム値 QDATFMT によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 QDATSEPによって指定されているように）入力しなければなりません。

上

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データが入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データ・ファイルはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

報告書の詳細 (DETAIL)

報告書で詳細なジョブ情報をジョブ・レベルで提供するかスレッド・レベルで提供するかを指定します。

***JOB** ジョブ・レベルの詳細な情報が必要であることを指定します。

***THREAD**

スレッド・レベルの詳細な情報が必要であることを指定します。

上

選択するジョブ (SLTJOB)

報告書に含める最大50のジョブのリストを指定します。指定されたジョブだけが報告書に含まれます。

個々のジョブは「ジョブID」によって識別されます。ジョブIDは、特殊値*ALLまたは修飾名のいずれかであり、ジョブ番号、ユーザー名、およびジョブ名の最大3つの修飾子から構成されます。ジョブIDはジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名の形式で書かれますが、必ずしも3つの修飾子全部を指定する必要はありません。ジョブIDの最大2つの修飾子のプレースホルダーとして、記号*Nを使用することができます。

注: このパラメーターと除外するジョブ (OMTJOB)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、収集されたデータのすべてのジョブが含まれます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 選択するジョブの総称ジョブ名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば, ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 選択するジョブのジョブ名を指定してください。ジョブは同じジョブ名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子2: ユーザー

名前 選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子3: 番号

000000-999999

選択するジョブの6桁の番号を指定してください。ゼロを含めて6桁全部を指定しなければなりません。

要素2: スレッド

要素1: スレッド

***ALL** 他の選択基準で除外されない限り、すべてのスレッドが含まれます。

文字値 選択するスレッドIDを指定してください。一部のジョブは同一のスレッドID を持つことがあるので、この値では特定のジョブを識別できない場合があります。

上

除外するジョブ (OMTJOB)

報告書から除外される最大50のジョブのリストを指定します。

個々のジョブは「ジョブID」によって識別されます。ジョブIDは、特殊値*NONEまたは修飾名のいずれかであり、ジョブ番号、ユーザー名、およびジョブ名の最大3つの修飾子から構成されます。ジョブIDはジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名の形式で書かれますが、必ずしも3つの修飾子全部を指定する必要はありません。ジョブIDの最大2つの修飾子のプレースホルダーとして、記号*Nを使用することができます。

注: このパラメーターと**選択するジョブ (SLTJOB)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

*NONE

ジョブIDに基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 除外するジョブの総称ジョブ名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば, ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除外するジョブのジョブ名を指定してください。ジョブは同じジョブ名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子2: ユーザー

名前 除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子3: 番号

000000-999999

除外するジョブの6桁の番号を指定してください。ゼロを含めて6桁全部を指定しなければなりません。

要素2: スレッド

要素1: スレッド

***ALL** 他を選択基準で含まれない限り、すべてのスレッドが除外されます。

文字値 除外するスレッドIDを指定してください。一部のジョブは同一のスレッドIDを持つことがあるので、この値では特定のジョブを識別できない場合があります。

上

選択するユーザー (SLTUSRID)

報告書に含められる最大50のユーザー名のリストを指定します。指定されたユーザー名の1つのジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと除外するユーザー (OMTUSRID)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、ユーザー名をもつすべてのジョブが含まれます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

総称名 選択するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば、ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。SLTUSRID (ユーザー) はSLTJOB(*N/ユーザー/*N)と同じです。

上

除外するユーザー (OMTUSRID)

報告書から除外される最大50のユーザー名のリストを指定します。

注: このパラメーターと選択するユーザー (SLTUSRID)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

*NONE

ユーザー名に基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

総称名 除外するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば, ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。OMTUSRID (ユーザー) はOMTJOB(*N/ユーザー/*N)と同じです。

上

選択するプール (SLTPOOLS)

報告書に含められる最大64のプールのリストを指定します。

注: このパラメーターと除外するプール (OMTPOOLS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのプールで実行されたジョブが含まれます。

その他の値 (最大64個まで指定可能)

1-64 選択するプールの番号を指定してください。

上

除外するプール (OMTPOOLS)

除外する64個までのプールのリストを指定します。指定されたプールのいずれかで実行されたジョブは、報告書から除外されます。

注: このパラメーターと選択するプール (SLTPOOLS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

*NONE

それらのプールに基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大64個まで指定可能)

1-64 除外するプールの番号を指定してください。

上

サブシステムの選択 (SLTSBS)

選択する最大50のサブシステムのリストを指定します。指定されたサブシステムの1つで実行されたジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターとサブシステムの除外 (OMTSBS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのサブシステムのジョブが含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択するサブシステムの名前を指定してください。

上

サブシステムの除外 (OMTSBS)

除外する最大50のサブシステムのリストを指定します。指定されたサブシステムで実行されたジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターとサブシステムの選択 (SLTSBS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

そのサブシステムに基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 除外するサブシステムの名前を指定してください。

上

通信回線の選択 (SLTLINE)

選択する最大50の通信回線のリストを指定します。指定された通信回線の1つを介して接続されたりリモート装置を使用するジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと通信回線の除外 (OMTLINE)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが報告書に含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択する通信回線の名前を指定してください。それ以外の通信回線を介して接続されているリモート装置のジョブは、たとえそのリモート装置が接続されている制御装置が**制御装置の選択 (SLTCTL)**パラメーターで指定されている場合であっても、除外されます。

上

通信回線の除外 (OMTLINE)

除外する最大50の通信回線のリストを指定します。指定された通信回線のいずれかを介して接続されたりリモート装置を使用するジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターと**通信回線の選択 (SLTLINE)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

通信回線に基づいて報告書から除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 除外する通信回線の名前を指定してください。

上

制御装置の選択 (SLTCTL)

選択する最大50の通信制御装置のリストを指定します。指定された制御装置の1つに接続された装置を使用するジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと**制御装置の除外 (OMTCTL)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが含まれます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択する通信制御装置の名前を指定してください。

上

制御装置の除外 (OMTCTL)

除外する最大50の通信制御装置のリストを指定します。指定された制御装置のいずれかに接続された装置を使用するジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターと**制御装置の選択 (SLTCTL)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

通信制御装置に基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 除外する通信制御装置の名前を指定してください。

上

選択する機能領域 (SLTFCNARA)

選択する最大50の機能領域のリストを指定します。この機能領域の1つで識別されたジョブおよびユーザーだけが報告書に含められます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブ名またはユーザー名、あるいはその両方のリストです。機能領域の詳細については、Performance Tools for i5/OSの資料を参照してください。

注: このパラメーターと除外する機能領域 (OMTFCNARA)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが報告書に含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

文字値 選択する機能領域の名前を指定してください。

上

除外する機能領域 (OMTFCNARA)

除外する50個までの機能領域のリストを指定します。この機能領域のいずれかで識別されたジョブおよびユーザーが報告書から除外されます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブ名またはユーザー名、あるいはその両方のリストです。機能領域の詳細については、Performance Tools for i5/OSの資料を参照してください。

注: このパラメーターと選択する機能領域 (SLTFCNARA)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

機能領域に基づいて報告書から除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

文字値 除外する機能領域の名前を指定してください。

上

システム・タスクの省略 (OMTSYSTSK)

システム・タスクの印刷を省略するかどうかを指定します。

***YES** ユーザー・ジョブだけを印刷し、システム・タスクは省略します。

***NO** ユーザー・ジョブとシステム・タスクを印刷します。

上

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBDD)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBDD(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

PRTJOBRRPT

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

上

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBDD

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBDDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

上

例

例1:バッチ・ジョブを投入する

```
PRTJOBRRPT MBR(DTA071588A)
```


このコマンドは、ライブラリーQPFRDATA内のパフォーマンス・データ・ファイルのメンバー DTA071588Aにあるすべての時間間隔のすべてのジョブについての報告書を印刷するバッチ・ジョブを投入します。報告書の表題は、このメンバーのテキストになります。

例2:報告書に作成する時間間隔を選択する

```
PRTJOB RPT MBR(DTA071588A) PERIOD(*SELECT)
```

このコマンドは同じデータから報告書を作成し印刷するジョブを投入しますが、先にどの時間間隔を報告書に含めるかをユーザーが対話的に選択する画面が表示されます。

例3:特定の時間枠についての報告書を作成する

```
PRTJOB RPT MBR(DTA071588A) PERIOD((2330)(0130))
```

このコマンドは、第1日めの11:30 PMから最終日の1:30 AM までに収集されたデータによる報告書を印刷するジョブを投入します。ただし、データ収集が開始日と同じ日に終了した場合は、その終了日時は指定された開始日時よりも先になるため、エラー・メッセージが代わりに出力されます。

例4:報告書を対話的に印刷する

```
PRTJOB RPT MBR(DTA071588A) SLTUSRID(D46*) JOBD(*NONE)
```

このコマンドは、ユーザーIDがD46で始まるすべてのジョブについての報告書を対話的に印刷します。

例5:報告書を対話的に印刷する

```
PRTJOB RPT MBR(DTA071588A) SLTJOB(D46/*N) JOBD(*NONE)
```

このコマンドは、直前の例と同じ機能を実行します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR1010

データが見つからないので要求を処理することができない。

PFR3002

データがないために報告書を印刷することができない。

PFR3004

指定した測定間隔が正しくない。

PFR3006

指定した測定間隔が正しくない。

PFR3101

SLTJOBとOMTJOBパラメーターを一緒に使用することはできません。

PFR3102

SLTUSRIDとOMTUSRIDパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3103

SLTPOOLSとOMTPOOLSパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3104

SLTSBSとOMTSBSパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3105

SLTLINEとOMTLINEパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3106

SLTCTLとOMTCTLパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3107

SLTFCNARAとOMTFCNARAパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3108

SLTLOCとOMTLOCパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3111

機能領域&1が存在していない。

PFR5501

パフォーマンス・データ・ファイルは上方に互換性がない。

PFR5502

パフォーマンス・データ・ファイルは下方に互換性がない。

PFR9005

YAXIS(*TIME)を指定しなければならない。

PFR9042

SLTUSERとOMTUSERの両方のパラメーターを指定することはできない。

PFR9048

データが脱落しているので、グラフを表示することができない。

上

ジョブ・トレース印刷 (PRTJOBTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・トレース印刷(PRTJOBTRC)コマンドは、前にジョブ・トレースの開始(STRJOBTRC)およびジョブ・トレース終了(ENDJOBTRC)コマンドで収集されたジョブ・トレース・データの分析に使用されるパフォーマンス用報告書を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	データベース・ファイルのメンバー	名前, <u>QAJOBTRC</u>	オプション, 位置 1
LIB	データベース・ファイル・ライブラリー	名前, <u>QPFRRDATA</u>	オプション, 位置 2
RPTTYPE	報告書タイプ	<u>*BOTH</u> , *DETAIL, *SUMMARY	オプション, 位置 3
TITLE	報告書のタイトル	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション, 位置 4
STRSEQ	開始順序番号	1-999999, <u>*FIRST</u>	オプション
ENDSEQ	終了順序番号	10 進数, <u>*LAST</u>	オプション
ENDTNS	トランザクション終了プログラム	名前, <u>QT3REQIO</u> , *BATCH	オプション
STRTNS	トランザクション開始プログラム	名前, <u>QWSGET</u>	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>PRTJOBTRC</u> , *MBR	オプション
JOBID	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRRJOBID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

データベース・ファイルのメンバー (MBR)

ジョブ・トレース終了(ENDJOBTRC)コマンドによってトレース・データが保管されるファイルQAPTRCJのメンバーを指定します。

QAJOBTRC

標準メンバー名QAJOBTRCが使用されます。

名前 データが保管されるメンバーの名前を指定してください。

データベース・ファイル・ライブラリー (LIB)

ジョブ・トレース終了(ENDJOBTRC)コマンドによってジョブ・トレース・データが保管されるライブラリーを指定します。

QPFRDATA

トレース・データはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAに保管されます。

名前 トレース・データが保管されるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

報告書タイプ (RPTTYPE)

作成する報告書のタイプを指定します。

注: 要約報告書を選択した (このパラメーターに***BOTH**または***SUMMARY**を指定して) 場合には、トランザクション終了プログラムとトランザクション開始プログラムの対が収集されたデータ内で見つかった時にかぎり、要約報告書に情報が入れられます。

*BOTH

明細報告書と要約報告書の両方 (合計 3 つの報告書) が作成されます。

*DETAIL

このジョブ・トレース・レコードを詳細に示す報告書が作成されます。出力は印刷装置ファイルQPPTTRCDに送られます。各ページ見出しにはテキスト「ジョブ・トレース情報」が含まれます。

*SUMMARY

トランザクション別にジョブ・トレース・データを要約する 2 つの報告書が作成されます。1 つの報告書は基本的な物理ディスク活動を示し、その印刷装置ファイルはQPPTTRC1 で、そのページ見出しにはテキスト「トレース分析の要約」が含まれます。もう 1 つの報告書はデータベース入出力やプログラム相互間の制御の転送などの高位レベルの活動に集中し、その印刷装置ファイルはQPPTTRC2で、そのページ見出しにはテキスト「トレース分析入出力の要約」が含まれます。

トップ

報告書のタイトル (TITLE)

それぞれの報告書のページ見出しに印刷されるタイトルを指定します。

*BLANK

タイトルは指定されません。

文字値 アポストロフィで囲んで50桁以内のタイトルを指定してください。これは、たとえば別のトレース・データ・セットについての報告書や同じデータの別の部分を区別するために使用することができます。

トップ

開始順序番号 (STRSEQ)

報告書に含められる最初のジョブ・トレース・レコードの順序番号を指定します。この番号より前のレコードは明細報告書にリストされず、どちらの要約報告書でもカウントされません。

*FIRST

最初のジョブ・トレース・レコード（順序番号1）からのトレース・レコードが含められます。

1-999999

含められる最初のトレース・レコードの順序を指定してください。すべてのジョブ・トレース・データから作成される報告書のプレビューを見て、適当な値を決定することができます。順序番号は、報告する特定のトランザクションのセットを一括するために使用することができます。

トップ

終了順序番号 (ENDSEQ)

報告書に含められる最後のジョブ・トレース・レコードの順序番号を指定します。この番号より後のレコードは明細報告書にリストされず、どちらの要約報告書でもカウントされません。

*LAST

最後のトレース・レコードまでのトレース・レコードが含められます。

1-999999

含められる最後のトレース・レコードの順序番号を指定してください。該当する値は、特定のトランザクション・セットを一括するように事前表示プロセスで選択することができます。

トップ

トランザクション終了プログラム (ENDTNS)

トランザクションの終わりを知らせるプログラムを指定します。トランザクション開始プログラム (STRTNS)パラメーターのプログラム名も指定しなければなりません。

QT3REQIO

ワークステーション入出力プログラムQT3REQIOが使用されます。この値は、トレース・データを中断してワークステーション・トランザクションに入るために使用されます。

名前 トランザクションを終了するプログラムの名前を指定してください。これにより、通信回線などの非ワークステーション・トランザクションで報告することができます。

トップ

トランザクション開始プログラム (STRTNS)

トランザクションの開始を知らせるプログラムを指定します。トランザクション終了プログラム (ENDTNS)パラメーターのプログラム名も指定しなければなりません。

QWSGET

ワークステーション入力プログラムQWSGETが使用されます。この値は、トレース・データを中断してワークステーション・トランザクションに入るために使用されます。

名前 トランザクションを開始するプログラムの名前を指定してください。

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBID)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBID(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

PRTJOBTRC

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBID

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBIDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

トップ

例

PRTJOBTRC LIB(MYLIB) RPTTYPE(*DETAIL)

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のファイルQAPTRCJのメンバーQAJOBTRCに保存されたデータによる詳細報告書を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ロック報告書の印刷 (PRTLCKRPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ロック報告書印刷(PRTLCKRPT)コマンドは、システム操作時に起こるロックおよび占有の競合を示す報告書を作成します。報告書は、パフォーマンス・トレース開始(STRPFRTTRC)コマンドによって収集され、トランザクション報告書印刷(PRTTNSRPT)コマンドによって様式化された資源管理トレース・データから作成されます。この情報は、ロック要求が満たされないためかあるいは内部マシン占有（これらの条件は待機とも呼ばれる）のために、処理中にジョブが遅延されるかどうかを判別するのに使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	データベース・ファイルのメンバー	名前	必須, 定位置 1
LIB	データベース・ファイル・ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2
TITLE	報告書のタイトル	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション, 定位置 3
RPTTYPE	報告書タイプ	*SUM, *TOD, *RQS, *HLD, *OBJ, *ALL	オプション
FIRST	現行データの最初の実行	*YES, *NO	オプション
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *FIRST	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *LAST	
MINWAIT	最小待ち時間	0-30000, <u>500</u>	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>PRTLCKRPT</u> , *MBR	オプション
JOBID	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRJOBID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

データベース・ファイルのメンバー (MBR)

資源管理トレース・データがパフォーマンス・トレース開始(STRPFRTTRC)コマンドによって収集されるファイルQAPMDMPT中のメンバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

データベース・ファイル・ライブラリー (LIB)

データが保管されるライブラリーを指定します。

QPFRDATA

IBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが使用されます。

名前 データが収集されるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

報告書のタイトル (TITLE)

作成される報告書のタイトルを指定します。

*MBRTXT

パフォーマンス・データが入っているデータベース・メンバーのテキストが報告書のタイトルです。

*BLANK

タイトルは指定されません。

文字値 アポストロフィで囲んで最大50桁のタイトルを指定してください。

トップ

報告書タイプ (RPTTYPE)

作成される報告書のタイプを指定します。

***SUM** この報告書には占有/ロック・データの要約だけが含まれます。

***TOD** この報告書には、後に要約が続く時刻でソートされた明細が含まれます。

***HLD** この報告書には、後に要約が続く保有ジョブの名前と時刻でソートされた明細が含まれます。

***RQS** この報告書には、後に要約が続く要求ジョブの名前と時刻でソートされた明細が含まれます。

***OBJ** この報告書には、後に要約が続くオブジェクトの名前と時刻でソートされた明細が含まれます。

ALL** 4つの報告書が作成されます。この報告書にはTOD**、***HLD**、***RQS**、および***OBJ** が含まれ、後に要約が続けられます。

トップ

現行データの最初の実行 (FIRST)

最後の資源管理トレース・データ・セットの収集以後のロック報告書印刷(PRTLCKRPT)コマンドが実行されました。

***YES** これはデータに対して始めてロック報告書印刷(PRTLCKRPT)コマンドが実行された時点です。データは再形式設定されてファイルQAPTLCKDのメンバーQAPTLCKDに書き出されます。報告書はこの前処理データから作成されます。

***NO** このデータ・セットに対してロック報告書印刷(PRTLCKRPT)コマンドが実行されます。前処理パスは行なわれません。

トップ

報告書の期間 (PERIOD)

報告する期間を指定します。

要素1: 開始時刻

要素1: 開始時刻

*FIRST

この報告書には最初のレコードからのレコードが含まれます。

時刻 報告書に含める最初のデータ・レコードの時刻を指定してください。この時刻は4桁または6桁 (HHMMまたはHHMMSS) として指定します。ここで、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁の文字列(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時間、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁の文字列を指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、文字列をアポストロフで囲まなければならない。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 終了時刻

要素1: 終了時刻

この時刻より後で作成されたレコードは明細リストまたは要約リストのどちらにも含まれません。

*LAST

この報告書には最後のレコードまでのレコードが含まれます。

時刻 報告書に含める最後のレコードの時刻を指定してください。開始時刻に使用したものと同一時刻の形式を使用してください。

トップ

最小待ち時間 (MINWAIT)

報告書に含められる占有/ロック・レコードの最小待ち時間を指定します。待ち時間がこれより短いレコードは明細リストまたは要約リストのどちらにも含まれません。

500 省略時の値の500ミリ秒 (0.5秒) が使用されます。パフォーマンス問題の発生源を判別する場合には、待ち時間がこれより短いレコードは対象にされません。

0-30000

最小待機時間をミリ秒単位で指定してください。最大待機時間は30秒です。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBID)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBID(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

PRTLCKRPT

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBID

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBIDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

例1:要約報告書を作成する

```
PRTLCKRPT MBR(RESTRC)
```

このコマンドは、事前に実行されたSTRPFTRCコマンド（パフォーマンスのトレース開始）およびPRTTNSRPTコマンド（トランザクション報告書の印刷）により、QPFRDATA/QAPMDMPTのメンバーRESTRCに保存されたパフォーマンス・データから要約報告書を作成します。

例2:時間でソートした詳細リストを含める

```
PRTLCKRPT MBR(RESTRC) RPTTYPE(*TOD)
```

このコマンドは、直前の例と同様の報告書を出力しますが、ロック／捕捉などの競合が発生した時間でソートした詳細リストを報告書に含めます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR5511

資源管理トレース・データをアクセスすることができない。

PFR5512

処理された占有またはロック競合データをアクセスすることができない。

トップ

プール報告書の印刷 (PRTPOLRPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プール報告書印刷(PRTPOLRPT)コマンドは、オペレーション・ナビゲーター・インターフェースからの収集サービスによって集められたパフォーマンス・データからプール用報告書を作成します。この報告書は印刷装置ファイルQPPTITVPに書き出されます。報告書を構成する2つのセクションは記憶域プールのサブシステム活動と作業負荷活動です。情報は間隔順に表示されます。ジョブは、各種のジョブ明細および間隔時間に基づいて報告書に選択的に含めるか、あるいは報告書から除外することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
TITLE	報告書のタイトル	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション, 定位置 3
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *FIRST, *SELECT	
	要素 2: 開始日	日付, *FIRST	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *LAST	
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2
	要素 2: 終了日	日付, *LAST	
SLTJOB	選択するジョブ	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 選択するジョブ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
OMTJOB	除外するジョブ	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 除外するジョブ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SLTUSRID	選択するユーザー	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMTUSRID	除外するユーザー	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
SLTPOOLS	選択するプール	単一値: *ALL その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
OMTPOOLS	除外するプール	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64	オプション
SLTSBS	サブシステムの選択	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTSBS	サブシステムの除外	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTLINE	通信回線の選択	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTLINE	通信回線の除外	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTCTL	制御装置の選択	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTCTL	制御装置の除外	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTFCNARA	選択する機能領域	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMTFCNARA	除外する機能領域	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>PRTPOLRPT</u> , *MBR	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRJOB</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

上

メンバー (MBR)

使用するパフォーマンス・データ・メンバーを指定します。この名前は、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンドの TOMBR パラメーターに指定されているメンバー名と対応している必要があります。

これは必須パラメーターです。

上

報告書のタイトル (TITLE)

作成される報告書のタイトルを指定します。

*MBRTXT

パフォーマンス・データが入っているデータベース・メンバーのテキストが報告書のタイトルです。

*BLANK

タイトルは指定されません。

文字値 アポストロフィで囲んで最大50桁のタイトルを指定してください。

上

報告書の期間 (PERIOD)

報告する期間を指定します。パラメーターは、開始時刻と開始日および終了時刻と終了日の4つの要素から構成されています。開始日の開始時刻の前に収集されたデータおよび終了日の終了時刻の後に収集されたデータは報告書に含まれません。

4つのどの要素にも省略時の値を示すために記号*Nを使用することができます。

要素1:開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

*FIRST

収集期間の初日の始め(00:00:00)から開始するデータ・レコードが含まれます。

*SELECT

含める1つまたは複数の間隔を選択できる間隔選択画面が表示されます。この値は対話式環境でのみ有効です。この値を使用した場合には、このパラメーターの残りの値（開始時刻と日付および終了時刻と日付）は無視されます。

時刻 **HHMM**または**HHMMSS**の形式を使用して、報告書に含める最初のデータ・レコードの時刻を指定してください。この場合に、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、次のように時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしで24時間形式で指定します。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のストリング(**HHMM**または**HHMMSS**)を指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、**SS** =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のストリングを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければならない。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日

*FIRST

収集期間の最初の日からのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最初のデータ・レコードの日付を指定してください。日付は、システム値 **QDATFMT** によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 **QDATSEP**によって指定されているように）入力しなければなりません。

要素2:終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

***LAST**

その日の終わり(23:59:59)までのデータ・レコードが報告書に含められます。

時刻 報告書に含める最後のデータ・レコードの時刻を指定してください。開始時刻に使用したものと同一形式を使用してください。

要素2: 終了日

***LAST**

収集期間の最後の日までのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最後のレコードの日付を指定してください。日付は、システム値 QDATFMT によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 QDATSEPによって指定されているように）入力しなければなりません。

上

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データが入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データ・ファイルはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

選択するジョブ (SLTJOB)

報告書に含める最大50のジョブのリストを指定します。指定されたジョブだけが報告書に含まれます。

個々のジョブは「ジョブID」によって識別されます。ジョブIDは、特殊値*ALLまたは修飾名のいずれかであり、ジョブ番号、ユーザー名、およびジョブ名の最大3つの修飾子から構成されます。ジョブIDはジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名の形式で書かれますが、必ずしも3つの修飾子全部を指定する必要はありません。ジョブIDの最大2つの修飾子のプレースホルダーとして、記号*Nを使用することができます。

注: このパラメーターと除外するジョブ (OMTJOB)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、収集されたデータのすべてのジョブが含まれます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

修飾子1: ジョブ名

総称名 選択するジョブの総称ジョブ名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば、ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 選択するジョブのジョブ名を指定してください。ジョブは同じジョブ名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子2: ユーザー

名前 選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子3: 番号

000000-999999

選択するジョブの6桁の番号を指定してください。ゼロを含めて6桁全部を指定しなければなりません。

上

除外するジョブ (OMTJOB)

報告書から除外される最大50のジョブのリストを指定します。

個々のジョブは「ジョブID」によって識別されます。ジョブIDは、特殊値*NONEまたは修飾名のいずれかであり、ジョブ番号、ユーザー名、およびジョブ名の最大3つの修飾子から構成されます。ジョブIDはジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名の形式で書かれますが、必ずしも3つの修飾子全部を指定する必要はありません。ジョブIDの最大2つの修飾子のプレースホルダーとして、記号*Nを使用することができます。

注: このパラメーターと**選択するジョブ (SLTJOB)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

ジョブIDに基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

修飾子1: ジョブ名

総称名 除外するジョブの総称ジョブ名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば、ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除外するジョブのジョブ名を指定してください。ジョブは同じジョブ名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子2: ユーザー

名前 除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子3: 番号

000000-999999

除外するジョブの6桁の番号を指定してください。ゼロを含めて6桁全部を指定しなければなりません。

上

選択するユーザー (SLTUSRID)

報告書に含められる最大50のユーザー名のリストを指定します。指定されたユーザー名の1つのジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと除外するユーザー (OMTUSRID)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、ユーザー名をもつすべてのジョブが含まれます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

総称名 選択するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば, ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。SLTUSRID (ユーザー) はSLTJOB(*N/ユーザー/*N)と同じです。

上

除外するユーザー (OMTUSRID)

報告書から除外される最大50のユーザー名のリストを指定します。

注: このパラメーターと選択するユーザー (SLTUSRID)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

ユーザー名に基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

総称名 除外するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば, ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。OMTUSRID (ユーザー) はOMTJOB(*N/ユーザー/*N)と同じです。

上

選択するプール (SLTPOOLS)

報告書に含められる最大64のプールのリストを指定します。

注: このパラメーターと除外するプール (OMTPOOLS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのプールで実行されたジョブが含まれます。

その他の値 (最大64個まで指定可能)

1-64 選択するプールの番号を指定してください。

上

除外するプール (OMTPOOLS)

除外する64個までのプールのリストを指定します。指定されたプールのいずれかで実行されたジョブは、報告書から除外されます。

注: このパラメーターと選択するプール (SLTPOOLS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**
プールに基づいてジョブは除外されません。

その他の値 (最大64個まで指定可能)

1-64 除外するプールの番号を指定してください。

上

サブシステムの選択 (SLTSBS)

選択する最大50のサブシステムのリストを指定します。指定されたサブシステムの1つで実行されたジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターとサブシステムの除外 (OMTSBS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのサブシステムのジョブが含まれます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択するサブシステムの名前を指定してください。

上

サブシステムの除外 (OMTSBS)

除外する最大50のサブシステムのリストを指定します。指定されたサブシステムで実行されたジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターと**サブシステムの選択 (SLTSBS)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

そのサブシステムに基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 除外するサブシステムの名前を指定してください。

上

通信回線の選択 (SLTLINE)

選択する最大50の通信回線のリストを指定します。指定された通信回線の1つを介して接続されたりリモート装置を使用するジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと**通信回線の除外 (OMTLINE)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが報告書に含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択する通信回線の名前を指定してください。それ以外の通信回線を介して接続されているリモート装置のジョブは、たとえそのリモート装置が接続されている制御装置が**制御装置の選択 (SLCTL)**パラメーターで指定されている場合であっても、除外されます。

上

通信回線の除外 (OMTLINE)

除外する最大50の通信回線のリストを指定します。指定された通信回線のいずれかを介して接続されたりリモート装置を使用するジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターと**通信回線の選択 (SLTLINE)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

通信回線に基づいて報告書から除外されるジョブはありません。

その他の値（最大50個まで指定可能）

名前 除外する通信回線の名前を指定してください。

上

制御装置の選択 (SLTCTL)

選択する最大50の通信制御装置のリストを指定します。指定された制御装置の1つに接続された装置を使用するジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと**制御装置の除外 (OMTCTL)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが含まれます。

その他の値（最大50個まで指定可能）

名前 選択する通信制御装置の名前を指定してください。

上

制御装置の除外 (OMTCTL)

除外する最大50の通信制御装置のリストを指定します。指定された制御装置のいずれかに接続された装置を使用するジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターと**制御装置の選択 (SLTCTL)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

通信制御装置に基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値（最大50個まで指定可能）

名前 除外する通信制御装置の名前を指定してください。

上

選択する機能領域 (SLTFCNARA)

選択する最大50の機能領域のリストを指定します。この機能領域の1つで識別されたジョブおよびユーザーだけが報告書に含められます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブ名またはユーザー名、あるいはその両方のリストです。機能領域の詳細については、Performance Tools for i5/OSの資料を参照してください。

注: このパラメーターと**除外する機能領域 (OMTFCNARA)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが報告書に含められます。

その他の値（最大50個まで指定可能）

文字値 選択する機能領域の名前を指定してください。

上

除外する機能領域 (OMTFCNARA)

除外する50個までの機能領域のリストを指定します。この機能領域のいずれかで識別されたジョブおよびユーザーが報告書から除外されます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブ名またはユーザー名、あるいはその両方のリストです。機能領域の詳細については、Performance Tools for i5/OSの資料を参照してください。

注: このパラメーターと**選択する機能領域 (SLTFCNARA)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

機能領域に基づいて報告書から除外されるジョブはありません。

その他の値（最大50個まで指定可能）

文字値 除外する機能領域の名前を指定してください。

上

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBDD)パラメーターに***NONE**を指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBDD(***NONE**)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

PRTPOLRPT

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

上

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

*NONE

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOB

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

上

例

例1: 報告書を印刷する

```
PRTPOLRPT MBR(DTA071588A)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATA内のパフォーマンス・データ・ファイルのメンバーDTA071588Aにあるすべての時間間隔のすべてのジョブについての報告書を印刷するバッチ・ジョブを投入します。報告書の表題は、このメンバーのテキストになります。

例2: 報告書に作成する時間間隔を選択する

```
PRTPOLRPT MBR(DTA071588A) PERIOD(*SELECT)
```

このコマンドは同じデータから報告書を作成し印刷するジョブを投入しますが、先にどの時間間隔を報告書に含めるかをユーザーが対話的に選択する画面が表示されます。

例3: データ収集の時間枠を指定する

```
PRTPOLRPT MBR(DTA071588A) PERIOD((2330)(0130))
```

このコマンドは、第1日めの11:30 PMから最終日の1:30 AM までに収集されたデータによる報告書を印刷するジョブを投入します。ただし、データ収集が開始日と同じ日に終了した場合は、その終了日時は指定された開始日時よりも先になるため、エラー・メッセージが出力されます。

例4: ユーザーIDを指定する

```
PRTPOLRPT MBR(DTA071588A) SLTUSRID(D46*) JOBD(*NONE)
```

このコマンドは、ユーザーIDがD46で始まるすべてのジョブについての報告書を対話的に印刷します。

例5: ユーザーIDを指定する

PRTPOLRPT MBR(DTA071588A) SLTJOB(D46*/*N) JOBD(*NONE)

このコマンドは、直前の例と同じ機能を実行します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR1010

データが見つからないので要求を処理することができない。

PFR3002

データがないために報告書を印刷することができない。

PFR3004

指定した測定間隔が正しくない。

PFR3006

指定した測定間隔が正しくない。

PFR3101

SLTJOBとOMTJOBパラメーターを一緒に使用することはできません。

PFR3102

SLTUSRIDとOMTUSRIDパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3103

SLTPOOLSとOMTPOOLSパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3104

SLTSBSとOMTSBSパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3105

SLTLINEとOMTLINEパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3106

SLTCTLとOMTCTLパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3107

SLTFCNARAとOMTFCNARAパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3108

SLTLOCとOMTLOCパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3111

機能領域&1が存在していない。

PFR5501

パフォーマンス・データ・ファイルは上方に互換性がない。

PFR5502

パフォーマンス・データ・ファイルは下方に互換性がない。

PFR9005

YAXIS(*TIME)を指定しなければならない。

PFR9042

SLTUSERとOMTUSERの両方のパラメーターを指定することはできない。

PFR9048

データが脱落しているので、グラフを表示することができない。

上

資源報告書の印刷 (PRTRSCRIPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

資源報告書印刷(PRTRSCRIPT)コマンドは、オペレーション・ナビゲーター・インターフェースからの収集サービスによって集められたパフォーマンス・データから装置資源使用状況報告書を作成します。この報告書は、印刷装置ファイルQPPTITVRに書き出され、時間間隔別に編成された装置資源情報を表示します。資源は、時間間隔に基づいて報告書に含めるか、あるいは報告書から除外するために選択することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
TITLE	報告書のタイトル	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション, 定位置 3
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *FIRST, *SELECT	
	要素 2: 開始日	日付, *FIRST	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻 要素 2: 終了日	時刻, *LAST 日付, *LAST	
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2
TYPE	情報のタイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *DISK, *CMN, *IOP, *LCLWS, *RMTWS	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>PRTRSCRIPT</u> , *MBR	オプション
JOBID	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRJOBID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

メンバー (MBR)

使用するパフォーマンス・データ・メンバーを指定します。この名前は、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFRDTA) コマンドの TOMBR パラメーターに指定されているメンバー名と対応している必要があります。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

報告書のタイトル (TITLE)

作成される報告書のタイトルを指定します。

***MBRTXT**

パフォーマンス・データが入っているデータベース・メンバーのテキストが報告書のタイトルです。

***BLANK**

タイトルは指定されません。

文字値 アポストロフィで囲んで最大50桁のタイトルを指定してください。

[トップ](#)

報告書の期間 (PERIOD)

報告する期間を指定します。パラメーターは、開始時刻と開始日および終了時刻と終了日の4つの要素から構成されています。開始日の開始時刻の前に収集されたデータおよび終了日の終了時刻の後に収集されたデータは報告書に含まれません。

4つのどの要素にも省略時の値を示すために記号*Nを使用することができます。

要素1:開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

***FIRST**

収集期間の初日の始め(00:00:00)から開始するデータ・レコードが含まれます。

***SELECT**

含める1つまたは複数の間隔を選択できる間隔選択画面が表示されます。この値は対話式環境でのみ有効です。この値を使用した場合には、このパラメーターの残りの値（開始時刻と日付および終了時刻と日付）は無視されます。

時刻 **HHMM**または**HHMMSS**の形式を使用して、報告書に含める最初のデータ・レコードの時刻を指定してください。この場合に、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、次のように時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしで24時間形式で指定します。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のストリング(**HHMM**または**HHMMSS**)を指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、**SS** =秒です。

- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のSTRINGを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、STRINGをアポストロフィで囲まなければならない。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日

*FIRST

収集期間の最初の日からのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最初のデータ・レコードの日付を指定してください。日付は、システム値 QDATFMT によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 QDATSEPによって指定されているように）入力しなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

*LAST

その日の終わり(23:59:59)までのデータ・レコードが報告書に含められます。

時刻 報告書に含める最後のデータ・レコードの時刻を指定してください。開始時刻に使用したものと同一形式を使用してください。

要素2: 終了日

*LAST

収集期間の最後の日までのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最後のレコードの日付を指定してください。日付は、システム値 QDATFMT によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 QDATSEPによって指定されているように）入力しなければなりません。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データが入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データ・ファイルはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

情報のタイプ (TYPE)

印刷したい報告書のセクションを指定します。

***ALL** 報告書のすべてのセクションが印刷されます。

***DISK** ディスク活動セクションを印刷することを指定します。

***CMN** 通信セクションを印刷することを指定します。

***IOP** IOP使用率セクションを印刷することを指定します。

***LCLWS**

ローカル・ワークステーション・セクションを印刷することを指定します。

***RMTWS**

リモート・ワークステーション・セクションを印刷することを指定します。

トップ

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBID)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBID(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

PRTRSCRIPT

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBID

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBIDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

トップ

例

例1:報告書を印刷する

```
PRTRSCRPT MBR(DTA071588A)
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATA内のパフォーマンス・データ・ファイルのメンバーDTA071588Aにあるすべての時間間隔のすべてのリソースについての報告書を印刷するバッチ・ジョブを投入します。報告書の表題は、このメンバーのテキストになります。

例2:報告書に作成する時間間隔を選択する

```
PRTRSCRPT MBR(DTA071588A) PERIOD(*SELECT)
```

このコマンドは同じデータから報告書を作成し印刷するジョブを投入しますが、先にどの時間間隔を報告書に含めるかをユーザーが対話的に選択する画面が表示されます。

例3:データ収集の時間枠を指定する

```
PRTRSCRPT MBR(DTA071588A) PERIOD((2330)(0130))
```

このコマンドは、第1日めの11:30 PMから最終日の1:30 AM までに収集されたデータによる報告書を印刷するジョブを投入します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR1010

データが見つからないので要求を処理することができない。

PFR3002

データがないために報告書を印刷することができない。

PFR3004

指定した測定間隔が正しくない。

PFR3006

指定した測定間隔が正しくない。

PFR3101

SLTJOBとOMTJOBパラメーターを一緒に使用することはできません。

PFR3102

SLTUSRIDとOMTUSRIDパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3103

SLTPOOLSとOMTPOOLSパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3104

SLTSBSとOMTSBSパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3105

SLTLINEとOMTLINEパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3106

SLTCTLとOMTCTLパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3107

SLTFCNARAとOMTFCNARAパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3108

SLTLOCとOMTLOCパラメーターの両方を指定することはできない。

PFR3111

機能領域&1が存在していない。

PFR5501

パフォーマンス・データ・ファイルは上方に互換性がない。

PFR5502

パフォーマンス・データ・ファイルは下方に互換性がない。

PFR9005

YAXIS(*TIME)を指定しなければならない。

PFR9042

SLTUSERとOMTUSERの両方のパラメーターを指定することはできない。

PFR9048

データが脱落しているので、グラフを表示することができない。

[トップ](#)

システム報告書の印刷 (PRTSYSRPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム報告書印刷(PRTSYSRPT)コマンドは、収集サービスによって集められたパフォーマンス・データからシステム操作の概要報告書を生成して印刷します。この報告書は印刷装置ファイルQPPTSYSR に書き出されます。この報告書では、システムの作業負荷、資源使用率、資源使用率拡張、記憶域プール使用率、ディスク使用率、通信要約、TCP/IP要約、HTTPサーバー要約、および相互区画要約が示されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
TITLE	報告書のタイトル	文字値, * MBR	オプション, 定位置 3
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, * FIRST , * SELECT	
	要素 2: 開始日	日付, * FIRST	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, * LAST	
LIB	ライブラリー	名前, QPFDRDATA	オプション, 定位置 2
	TYPE	情報のタイプ	
SLTJOB	選択するジョブ	単一値: * ALL その他の値 (最大 9 回の繰り返し): * WORKLOAD , * RSC , * RSCEXP , * POOL , * DISK , * CMN , * TCPIP , * HTTP , * LPAR	オプション
	修飾子 1: 選択するジョブ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
OMTJOB	除外するジョブ	単一値: * NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 除外するジョブ	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SLTUSRID	選択するユーザー	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMTUSRID	除外するユーザー	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
SLTPOOLS	選択するプール	単一値: *ALL その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64	オプション
OMTPOOLS	除外するプール	単一値: *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64	オプション
SLTSBS	サブシステムの選択	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTSBS	サブシステムの除外	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTLINE	通信回線の選択	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTLINE	通信回線の除外	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTCTL	制御装置の選択	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMTCTL	制御装置の除外	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
SLTFCNARA	選択する機能領域	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMTFCNARA	除外する機能領域	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
JOB	ジョブ名	名前, PRTSYSRPT , *MBR	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, QPFRJOB	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

上

メンバー (MBR)

使用するパフォーマンス・データ・メンバーを指定します。この名前は、パフォーマンス・データ作成 (CRTPFDRDTA) コマンドの TOMBR パラメーターに指定されているメンバー名と対応している必要があります。

これは必須パラメーターです。

上

報告書のタイトル (TITLE)

作成される報告書のタイトルを指定します。

***MBR** パフォーマンス・データが入っているデータベース・メンバーのテキストが報告書のタイトルです。

文字値 アポストロフィで囲んだ最大50桁のテキストで報告書に必要なタイトルを指定してください。

上

報告書の期間 (PERIOD)

報告する期間を指定します。パラメーターは、開始時刻と開始日および終了時刻と終了日の4つの要素から構成されています。開始日の開始時刻の前に収集されたデータおよび終了日の終了時刻の後に収集されたデータは報告書に含まれません。

4つのどの要素にも省略時の値を示すために記号*Nを使用することができます。

要素1:開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

***FIRST**

収集期間の初日の始め(00:00:00)から開始するデータ・レコードが含まれます。

***SELECT**

含める1つまたは複数の間隔を選択できる間隔選択画面が表示されます。この値は対話式環境でのみ有効です。この値を使用した場合には、このパラメーターの残りの値（開始時刻と日付および終了時刻と日付）は無視されます。

時刻 **HHMM**または**HHMMSS**の形式を使用して、報告書に含める最初のデータ・レコードの時刻を指定してください。この場合に、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、次のように時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしで24時間形式で指定します。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のストリング(**HHMM**または**HHMMSS**)を指定してください。ここで、**HH** =時間、**MM** =分、**SS** =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のストリングを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まな

ければなりません。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日

*FIRST

収集期間の最初の日からのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最初のデータ・レコードの日付を指定してください。日付は、システム値 QDATFMT によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 QDATSEPによって指定されているように）入力しなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

*LAST

その日の終わり(23:59:59)までのデータ・レコードが報告書に含められます。

時刻 報告書に含める最後のデータ・レコードの時刻を指定してください。開始時刻に使用したものと同一形式を使用してください。

要素2: 終了日

*LAST

収集期間の最後の日までのデータ・レコードが報告書に含められます。

日付 報告書に含める最後のレコードの日付を指定してください。日付は、システム値 QDATFMT によって指定された形式で（区切り記号を使用する場合には、システム値 QDATSEPによって指定されているように）入力しなければなりません。

上

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データが入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データ・ファイルはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

情報のタイプ (TYPE)

印刷したい報告書のセクションを指定します。

単一値

***ALL** 報告書のすべてのセクションが印刷されます。

その他の値 (最大9個まで指定可能)

***WORKLOAD**

作業負荷セクションを印刷します。

***RSC** 資源使用率セクションを印刷します。

***RSCEXPN**

資源使用率拡張セクションを印刷します。

***POOL**

記憶域プール使用率セクションを印刷します。

***DISK** ディスク使用率セクションを印刷します。

***CMN** 通信要約セクションを印刷します。このセクションには、IOP、プロトコル、回線使用状況、活動装置数、トランザクション数、応答時間、および受信/送信バイト数に関するデータが表示されません。

***TCPIP**

TCP/IP要約セクションを印刷します。このセクションには、TCP/IPプロトコルの追加データ（受信/送信パケット数、MTUサイズ、その他など）が含まれます。

***HTTP**

HTTPサーバー要約セクションを印刷します。このセクションには、HTTPサーバーの統計(APACHE提供)が含まれます。

***LPAR**

相互区画要約セクションを印刷します。このセクションには、QAPMLPARファイルに記録された論理区画の統計が含まれています。ファイルQAPMLPARに使用可能な区画情報がない場合は、i5/OS収集区画（収集サービスを実行する区画）のみがこのセクションで報告されます。

上

選択するジョブ (SLTJOB)

報告書に含める最大50のジョブのリストを指定します。指定されたジョブだけが報告書に含まれます。

個々のジョブは「ジョブID」によって識別されます。ジョブIDは、特殊値*ALLまたは修飾名のいずれかであり、ジョブ番号、ユーザー名、およびジョブ名の最大3つの修飾子から構成されます。ジョブIDはジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名の形式で書かれますが、必ずしも3つの修飾子全部を指定する必要はありません。ジョブIDの最大2つの修飾子のプレースホルダーとして、記号*Nを使用することができます。

注: このパラメーターと除外するジョブ (OMTJOB)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、収集されたデータのすべてのジョブが含まれます。

その他の値（最大50個まで指定可能）

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 選択するジョブの総称ジョブ名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング（たとえば、ABC*）です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 選択するジョブのジョブ名を指定してください。ジョブは同じジョブ名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子2: ユーザー

名前 選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子3: 番号

000000-999999

選択するジョブの6桁の番号を指定してください。ゼロを含めて6桁全部を指定しなければなりません。

要素2: スレッド

要素1: スレッド

***ALL** 他の選択基準で除外されない限り、すべてのスレッドが含まれます。

文字値 選択するスレッドIDを指定してください。一部のジョブは同一のスレッドIDを持つことがあるので、この値では特定のジョブを識別できない場合があります。

上

除外するジョブ (OMTJOB)

報告書から除外される最大50のジョブのリストを指定します。

個々のジョブは「ジョブID」によって識別されます。ジョブIDは、特殊値*NONEまたは修飾名のいずれかであり、ジョブ番号、ユーザー名、およびジョブ名の最大3つの修飾子から構成されます。ジョブIDはジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名の形式で書かれますが、必ずしも3つの修飾子全部を指定する必要はありません。ジョブIDの最大2つの修飾子のプレースホルダーとして、記号*Nを使用することができます。

注: このパラメーターと**選択するジョブ (SLTJOB)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

*NONE

ジョブIDに基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

要素1: ジョブ名

修飾子1: ジョブ名

総称名 除外するジョブの総称ジョブ名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば, ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除外するジョブのジョブ名を指定してください。ジョブは同じジョブ名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子2: ユーザー

名前 除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。

修飾子3: 番号

000000-999999

除外するジョブの6桁の番号を指定してください。ゼロを含めて6桁全部を指定しなければなりません。

要素2: スレッド

要素1: スレッド

***ALL** 他の選択基準で含まれない限り、すべてのスレッドが除外されます。

文字値 除外するスレッドIDを指定してください。一部のジョブは同一のスレッドIDを持つことがあるので、この値では特定のジョブを識別できない場合があります。

選択するユーザー (SLTUSRID)

報告書に含められる最大50のユーザー名のリストを指定します。指定されたユーザー名の1つのジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと除外するユーザー (OMTUSRID)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、ユーザー名をもつすべてのジョブが含まれます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

総称名 選択するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば、ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。SLTUSRID (ユーザー) はSLTJOB(*N/ユーザー/*N)と同じです。

除外するユーザー (OMTUSRID)

報告書から除外される最大50のユーザー名のリストを指定します。

注: このパラメーターと選択するユーザー (SLTUSRID)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

ユーザー名に基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

総称名 除外するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば、ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。OMTUSRID (ユーザー) はOMTJOB(*N/ユーザー/*N)と同じです。

選択するプール (SLTPOOLS)

報告書に含められる最大64のプールのリストを指定します。

注: このパラメーターと除外するプール (OMTPOOLS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのプールで実行されたジョブが含まれます。

その他の値 (最大64個まで指定可能)

I-64 選択するプールの番号を指定してください。

上

除外するプール (OMTPOOLS)

除外する64個までのプールのリストを指定します。指定されたプールのいずれかで実行されたジョブは、報告書から除外されます。

注: このパラメーターと選択するプール (SLTPOOLS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**
プールに基づいてジョブは除外されません。

その他の値 (最大64個まで指定可能)

I-64 除外するプールの番号を指定してください。

上

サブシステムの選択 (SLTSBS)

選択する最大50のサブシステムのリストを指定します。指定されたサブシステムの1つで実行されたジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターとサブシステムの除外 (OMTSBS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのサブシステムのジョブが含まれます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択するサブシステムの名前を指定してください。

上

サブシステムの除外 (OMTSBS)

除外する最大50のサブシステムのリストを指定します。指定されたサブシステムで実行されたジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターとサブシステムの選択 (SLTSBS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

*NONE

そのサブシステムに基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 除外するサブシステムの名前を指定してください。

上

通信回線の選択 (SLTLINE)

選択する最大50の通信回線のリストを指定します。指定された通信回線の1つを介して接続されたりリモート装置を使用するジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと通信回線の除外 (OMTLINE)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

*ALL 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが報告書に含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択する通信回線の名前を指定してください。それ以外の通信回線を介して接続されているリモート装置のジョブは、たとえそのリモート装置が接続されている制御装置が**制御装置の選択 (SLCTL)**パラメーターで指定されている場合であっても、除外されます。

上

通信回線の除外 (OMTLINE)

除外する最大50の通信回線のリストを指定します。指定された通信回線のいずれかを介して接続されたりリモート装置を使用するジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターと通信回線の選択 (SLTLINE)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

*NONE

通信回線に基づいて報告書から除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 除外する通信回線の名前を指定してください。

上

制御装置の選択 (SLTCTL)

選択する最大50の通信制御装置のリストを指定します。指定された制御装置の1つに接続された装置を使用するジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと**制御装置の除外 (OMTCTL)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 選択する通信制御装置の名前を指定してください。

上

制御装置の除外 (OMTCTL)

除外する最大50の通信制御装置のリストを指定します。指定された制御装置のいずれかに接続された装置を使用するジョブが報告書から除外されます。

注: このパラメーターと**制御装置の選択 (SLTCTL)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**
通信制御装置に基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

名前 除外する通信制御装置の名前を指定してください。

上

選択する機能領域 (SLTFCNARA)

選択する最大50の機能領域のリストを指定します。この機能領域の1つで識別されたジョブおよびユーザーだけが報告書に含められます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブ名またはユーザー名、あるいはその両方のリストです。機能領域の詳細については、Performance Tools for i5/OSの資料を参照してください。

注: このパラメーターと**除外する機能領域 (OMTFCNARA)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが報告書に含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

文字値 選択する機能領域の名前を指定してください。

上

除外する機能領域 (OMTFCNARA)

除外する50個までの機能領域のリストを指定します。この機能領域のいずれかで識別されたジョブおよびユーザーが報告書から除外されます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブ名またはユーザー名、あるいはその両方のリストです。機能領域の詳細については、Performance Tools for i5/OSの資料を参照してください。

注: このパラメーターと**選択する機能領域 (SLTFCNARA)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

機能領域に基づいて報告書から除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

文字値 除外する機能領域の名前を指定してください。

上

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBDD)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBDD(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

PRTSYSRPT

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

上

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOB

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

上

例

例1: 報告書を印刷する

```
PRTSYSRPT MBR(APRIL18) TYPE(*ALL)
```

これらのコマンドは、ライブラリーQPFRDATAのパフォーマンス・データ・メンバーAPRIL18のすべてのシステム報告書を印刷します。報告書の表題はそのメンバーのテキストと同一になります。

例2: 報告書に作成する時間間隔を選択する

```
PRTSYSRPT MBR(NOV1) PERIOD(*SELECT)
          TITLE('INTERVALS WITH HIGHEST RESPONSE TIMES')
```

このコマンドは、ライブラリーQPFRDATAのデータ・メンバーNOV1のシステム報告書を印刷します。時間間隔の選択画面が表示されるので、ユーザーは時間間隔をさまざまな基準でソートすることができ、報告書を作成する特定の時間間隔をいくつか選択できます。報告書の表題は「*INTERVALS WITH HIGHEST RESPONSE TIMES*」です。

例3: 報告書に含めるセクションを選択する

```
PRTSYSRPT MBR(NOV1) TYPE(*DSKUTL)
```

このコマンドは、データ・メンバーNOV1のシステム報告書から、ディスク使用状況のセクションのみを印刷します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

トランザクション報告書の印刷 (PRTTNSRPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トランザクション報告書印刷(PRTTNSRPT)コマンドは、パフォーマンス・データの収集時に行なわれたトランザクションの詳細情報を示すパフォーマンス報告書を作成し印刷します。これらの報告書では、トレース・データがパフォーマンス・トレース開始(STRPFRTRC)コマンドを使用することによって収集されていることが必要です。ジョブは、各種のジョブ明細および間隔時間に基づいて選択的に報告書に含めるか、あるいは報告書から除外することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
TITLE	報告書のタイトル	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション, 定位置 3
RPTTYPE	報告書タイプ	値 (最大 5 回の繰り返し): <u>*SUMMARY</u> , *TNSACT, *TRSIT, *FILE, *TRCDTA	オプション, 定位置 4
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*FIRST</u>	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*LAST</u>	
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2
OPTION	報告書オプション	値 (最大 7 回の繰り返し): <u>*SS</u> , *SI, *OZ, *EV, *HV, *DI, *DQ, ' '	オプション
DETAIL	報告書の詳細	<u>*JOB</u> , *THREAD	オプション
SLTJOB	選択するジョブ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	文字値	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: スレッド	文字値, <u>*ALL</u>	
OMTJOB	除外するジョブ	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジョブ名	文字値	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: スレッド	文字値, <u>*ALL</u>	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SLTUSRID	選択するユーザー	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMTUSRID	除外するユーザー	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
SLTPOOLS	選択するプール	単一値: *ALL その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
OMTPOOLS	除外するプール	単一値: *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 1-64, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	オプション
SLTFCNARA	選択する機能領域	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMTFCNARA	除外する機能領域	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
JOB	ジョブ名	名前, <u>PRTTNSRPT</u> , *MBR	オプション
JOBID	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPRJOBID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

上

メンバー (MBR)

使用するパフォーマンス・データ・メンバーを指定します。この名前は、パフォーマンス・トレース終了 (ENDPFRTRC) コマンドの MBR パラメーターに指定されているメンバー名と対応する必要があります。

これは必須パラメーターです。

報告書のタイトル (TITLE)

作成されるトランザクション報告書のタイトルを指定します。

***BLANK**

トランザクション報告書にタイトルは付けられません。

文字値 トランザクション報告書に付けたいタイトルを指定してください。アポストロフィで囲んで50桁以内を指定してください。

報告書タイプ (RPTTYPE)

印刷されるトランザクション分析報告書のタイプを指定します。同時に要約レベル報告書とトランザクション明細報告書の両方を要求できるように、報告書タイプのリストを要求することができます。トランザクション明細報告書および移行明細報告書は非常に詳細に示されるので、特定のジョブ、ユーザー、または時間間隔、あるいはこれらの組み合わせを選択する場合にしか結合することができません。

***SUMMARY**

要約レベルの報告書が印刷されます。

***TNSACT**

トランザクション明細報告書が印刷されます。

***TRSIT**

移行明細報告書が印刷されます。

***FILE** トランザクションの要約、ジョブの要約、およびジョブ・トレース・データベース・ファイル・メンバーが作成されます。要約は、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定されたライブラリーのファイルQTRTSUM, QTRJSUM,およびQTRJOBTに存在します。メンバー名は**メンバー (MBR)**パラメーターに指定されます。既存のメンバーのデータはこのコマンドの実行の結果として置き換えられます。この値は、ユーザー定義プログラムおよびジョブ・トレース報告書印刷(PRTTRCRPT)コマンドによって処理されるフィールド・レベル・データベース・ファイルを作成するために使用されます。

***TRCDTA**

トレース・データ・ファイルQAPMDMPTのデータベース・ファイル・バージョンが作成されます。データベース・ファイルの名前はQTRDMPTで、ユーザー定義プログラムによって処理可能なフィールド・レベルのデータベース・ファイルです。

報告書の期間 (PERIOD)

トランザクションを報告する時刻を指定します。

要素1: 開始時刻

要素1: 開始時刻

*FIRST

トランザクションは記録された最初のトランザクションから報告されます。

時刻 報告書に含める最初のトランザクションの時刻を指定してください。この時刻は4桁または6桁 (HHMMまたはHHMMSS) として指定します。ここで、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のstring(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時間、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のstringを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、stringをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 終了時刻

要素1: 終了時刻

*LAST

トランザクションは記録された最後のトランザクションで終了と報告されます。

時刻 報告書に含める最後のトランザクションの時刻を指定してください。この時刻は4桁または6桁 (HHMMまたはHHMMSS) として指定します。ここで、**HH**は時間、**MM**は分、**SS**は秒です。

時刻は、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のstring(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時間、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のstringを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、stringをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データが入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データ・ファイルはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

報告書オプション (OPTION)

トランザクション報告書に適用する追加オプションを指定します。

- *SS** システム要約報告書の追加セットが含まれます。これらの報告書は、**報告書タイプ (RPTTYPE)** パラメーターで*SUMMARYが指定された場合に含まれます。
- *SI** タイプが対話式のすべてのジョブが選択されます。
- *OZ** *SUMMARY報告書からトランザクションのないすべてのジョブが除外されます。
- *EV** 事象待機は、トランザクションの境界と見なされます。これは通信ジョブの分析に役立ちます。
- *HV** システム・ライセンス内部コード(SLIC)タスクが*SUMMARY報告書にリストされます。
- *DI** 表示装置入出力トランザクション境界のトレース記録が、活動待機状態の移行の代わりに、トランザクションとしてカウントされます。
- *DQ** データ待ち行列トランザクション境界のトレース記録が、活動待機状態の移行の代わりに、カウントされます。

上

報告書の詳細 (DETAIL)

報告書で詳細なジョブ情報をジョブ・レベルで提供するかスレッド・レベルで提供するかを指定します。

***JOB** ジョブ・レベルの詳細な情報が必要であることを指定します。

*THREAD

スレッド・レベルの詳細な情報が必要であることを指定します。

上

選択するジョブ (SLTJOB)

報告書に含められるジョブを指定します。これにより、報告書の範囲を特定のジョブからジョブまでの選択に狭めることができます。

選択するジョブ (SLTJOB)パラメーターと**除外するジョブ (OMTJOB)**パラメーターは同時に使用することができないので、少なくともこれらの1つに省略時の値を使用しなければなりません。

単一値

***ALL** すべてのジョブが報告書に含まれます。

その他の値（最大50個まで指定可能）

要素1: ジョブ名

文字値 報告書に含められるジョブを指定してください。総称ジョブ名は名前*のように指定することができます。

注: ジョブ名は完全に修飾されたジョブ名ではありません。これは修飾名の一部である10文字のジョブ名です。このパラメーターにジョブ番号を使用することができます。ジョブ名とジョブ番号を同時に使用することはできないので、所定の要求では一方または他方を使用しなければなりません。

要素2: スレッド

要素1: スレッド

***ALL** 他の選択基準で除外されない限り、すべてのスレッドが含まれます。

文字値 選択するスレッドIDを指定してください。複数のジョブが同一のスレッドIDを持つことがあるので、この値では特定のジョブを識別できない場合があります。

上

除外するジョブ (OMTJOB)

報告書から除外するジョブを指定します。これにより、報告書の範囲を特定のジョブからジョブまでの除外に狭めることができます。

選択するジョブ (SLTJOB)パラメーターと除外するジョブ (OMTJOB)パラメーターは同時に使用することができないので、少なくともこれらの1つに省略時の値を使用しなければなりません。

単一値

***NONE**

報告書から除外されるジョブはありません。

その他の値（最大50個まで指定可能）

要素1: ジョブ名

文字値 報告書から除外されるジョブ名を指定してください。総称ジョブ名は名前*のように指定することができます。

注: ジョブ名は完全に修飾されたジョブ名ではありません。これは修飾名の一部である10文字のジョブ名です。このパラメーターにジョブ番号を使用することができます。ジョブ名とジョブ番号を同時に使用することはできないので、所定の要求では一方または他方を使用しなければなりません。

要素2: スレッド

要素1: スレッド

***ALL** 他の選択基準で含まれない限り、すべてのスレッドが除外されます。

文字値 除外するスレッドIDを指定してください。複数のジョブが同一のスレッドIDを持つことがあるので、この値では特定のジョブを識別できない場合があります。

上

選択するユーザー (SLTUSRID)

報告書に含められる最大50のユーザー名のリストを指定します。指定されたユーザー名の1つのジョブだけが報告書に含められます。

注: このパラメーターと**除外するユーザー (OMTUSRID)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、ユーザー名をもつすべてのジョブが含められます。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

総称名 選択するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば, ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 選択するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。SLTUSRID (ユーザー) はSLTJOB(*N/ユーザー/*N)と同じです。

上

除外するユーザー (OMTUSRID)

報告書から除外される最大50のユーザー名のリストを指定します。

注: このパラメーターと**選択するユーザー (SLTUSRID)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

ユーザー名に基づいて除外されるジョブはありません。

その他の値 (最大50個まで指定可能)

総称名 除外するジョブの総称ユーザー名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くアスタリスク(*)から成る文字ストリング (たとえば, ABC*) です。アスタリスクは任意の有効な文字の代わりになります。総称名は、ユーザ

ーに権限がある一般接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称名にアスタリスクを入れないと、システムはこれを完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除外するジョブのユーザー名を指定してください。ジョブは同じユーザー名をもつことができるので、この値は特定のジョブを識別しない場合があります。OMTUSRID (ユーザー) はOMTJOB(*N/ユーザー/*N)と同じです。

上

選択するプール (SLTPOOLS)

報告書に含められる最大64のプールのリストを指定します。

注: このパラメーターと除外するプール (OMTPOOLS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのプールで実行されたジョブが含まれます。

その他の値 (最大64個まで指定可能)

1-64 選択するプールの番号を指定してください。

上

除外するプール (OMTPOOLS)

除外する64個までのプールのリストを指定します。指定されたプールのいずれかで実行されたジョブは、報告書から除外されます。

注: このパラメーターと選択するプール (SLTPOOLS)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE** プールに基づいてジョブは除外されません。

その他の値 (最大64個まで指定可能)

1-64 除外するプールの番号を指定してください。

上

選択する機能領域 (SLTFCNARA)

選択する最大50の機能領域のリストを指定します。この機能領域の1つで識別されたジョブおよびユーザーだけが報告書に含められます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブ名またはユーザー名、あるいはその両方のリストです。機能領域の詳細については、Performance Tools for i5/OSの資料を参照してください。

注: このパラメーターと除外する機能領域 (OMTFCNARA)パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***ALL** 別の選択値によって除外されない限り、すべてのジョブが報告書に含められます。

その他の値（最大50個まで指定可能）

文字値 選択する機能領域の名前を指定してください。

上

除外する機能領域 (OMTFCNARA)

除外する50個までの機能領域のリストを指定します。この機能領域のいずれかで識別されたジョブおよびユーザーが報告書から除外されます。

機能領域は、ユーザーが前に定義したジョブ名またはユーザー名、あるいはその両方のリストです。機能領域の詳細については、Performance Tools for i5/OSの資料を参照してください。

注: このパラメーターと**選択する機能領域 (SLTFCNARA)**パラメーターは同時に使用することはできません。

単一値

***NONE**

機能領域に基づいて報告書から除外されるジョブはありません。

その他の値（最大50個まで指定可能）

文字値 除外する機能領域の名前を指定してください。

上

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBID)パラメーターに***NONE**を指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: **JOBID(*NONE)**を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

PRTTNSRPT

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** **メンバー (MBR)**パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

上

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

*NONE

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBDD

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBDDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

上

例

例1: トランザクション報告書の要約を印刷する

```
PRTTNSRPT  MBR(TUESAM)
```

このコマンドは、トランザクション報告書の要約を出力します。ライブラリーQPFRDATA内のTUESAMメンバーに存在するすべてのデータが報告書の入力データとなります。この出力要求はバッチに送信されません。報告書の出力はジョブ記述QPFRJOBDDで指定された出力キューに送られます。

例2: トランザクションの詳細報告書を印刷する

```
PRTTNSRPT  MBR(TUESAM)  RPTTYPE(*TNSACT)  SLTJOB(WS01)
```

このコマンドは、選択されたジョブWS01についての詳細なトランザクション報告書を出力します。この出力要求はバッチに送信されません。報告書の出力はジョブ記述QPFRJOBDDで指定された出力キューに送られます。

上

エラー・メッセージ

なし

ジョブ・トレース報告書の印刷 (PRTTTCRPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・トレース報告書印刷(PRTTTCRPT)コマンドは、時刻によってトレースされたバッチ・ジョブの使用資源、例外、および状態移行を示す報告書を生成します。

報告書は、パフォーマンス・トレース開始(STRPFRTRC)コマンドによって収集されているトレース・データが基になっています。この報告書作成は、トランザクション報告書印刷(PRTTNSRPT)コマンドが*FILEオプションで実行された時に作成された指定のメンバーに対して実行されます。このメンバーは、QPFRDATAライブラリーのQTRJOBファイルにあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 定位置 2
TITLE	タイトル	文字値, <u>*MBR</u>	オプション, 定位置 3
PERIOD	報告書の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: 開始日	日付, <u>*FIRST</u>	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*LAST</u>	
	要素 2: 終了日	日付, <u>*LAST</u>	
JOB	ジョブ名	名前, <u>PRTTTCRPT</u> , *MBR	オプション
JOBID	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRJOBID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

トップ

メンバー (MBR)

使用するパフォーマンス・データ・メンバーを指定します。この名前は、*FILEオプションを指定してトランザクション報告書印刷(PRTTNSRPT)コマンドを実行したときに指定したメンバー名と対応している必要があります。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データが入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

パフォーマンス・データ・ファイルはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

報告書のタイトル (TITLE)

作成される報告書のタイトルを指定します。

***MBR** パフォーマンス・データが入っているデータベース・メンバーのテキストが報告書のタイトルです。

文字値 アポストロフィで囲んだ最大50桁のテキストで報告書に必要なタイトルを指定してください。

[トップ](#)

報告書の期間 (PERIOD)

報告する期間を指定します。このパラメーターは、それぞれ2つの要素からなる2つのリストから構成されています。

指定されている値に先行する要素の代わりにパラメーター値順序の位置を保守するために、記号*Nを使用することができます。たとえば、PERIOD(*N (*N 091290))は、終了日を指定し、他の値に省略時の値を使用します。

要素1:開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

***FIRST**

その日の始め(00:00:00)からのデータ・レコードが含まれます。

時刻 HHMMまたはHHMMSSの形式を使用して、報告書に含める最初のデータ・レコードの時刻を指定してください。この場合に、HHは時間、MMは分、SSは秒です。この時刻より前に収集されたデータは報告書に含められません。

時刻は、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしで、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時間、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号付きでは、5桁または8桁のストリングを指定します。ここで、ジョブに指定された時刻区切り記号が、時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定されている区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

時刻は24時間形式(13:00は1 p.m.)で、時間数、分数、秒数の値は長さが2桁でなければならず、このことはゼロを含めなければならないことを意味しています。

要素2: 開始日

*FIRST

収集期間の最初の日からのデータ・レコードが報告書に含まれます。

日付 報告書に含める最初のデータ・レコードの日付を指定してください。この日付の開始時刻より前に収集されたデータは報告書に含まれません。この日付は、ジョブに指定されているものと同じ形式で入力しなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

*LAST

その日の終わり(23:59:59)までのデータ・レコードが報告書に含まれます。

時刻 報告書に含める最後のデータ・レコードの時刻を指定してください。開始時刻に使用したものと同一形式を使用してください。終了日のこの時刻より後で収集されたデータは報告書に含まれません。

要素2: 終了日

*LAST

収集期間の最後の日までのデータ・レコードが報告書に含まれます。

日付 報告書に含める最後のレコードの日付を指定してください。この日付は、ジョブに指定されているものと同じ形式で入力しなければなりません。

トップ

ジョブ名 (JOB)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ名を指定します。

ジョブ記述 (JOBDD)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターの値は無視されます。

注: JOBDD(*NONE)を指定した場合には、ジョブ処理は対話式に実行されます。

PRTTTCRPT

コマンド名がジョブ名として使用されます。

***MBR** メンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。

名前 任意のバッチ・ジョブおよびすべてのバッチ・ジョブに使用される名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBDD)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFRJOBDD

IBM提供のジョブ記述QPFRJOBDDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

例

例1:ジョブ・トレース報告書の要約を印刷する

```
PRTTTCRPT MBR(JUNE01)
```


このコマンドは、デフォルトのライブラリーQPFRDATA内のファイルQTRJOBTのメンバーJUNE01に存在するパフォーマンス・データをもとに、ジョブ・トレース報告書の要約を生成するバッチ・ジョブを投入します。この報告書はデータ収集期間全体をカバーし、この報告書の表題はデータベース・ファイル・メンバーの名前になります。

例2:報告書の時間枠を指定する

```
PRTRCRPT  MBR(NOV15)
           PERIOD(('0800:00' '11/15/99')
                  ('2359:59' '11/15/99'))
           TITLE('JOB TRACE REPORTS FOR NOVEMBER 15')
```

このコマンドは、ジョブ・トレース報告書の要約を生成するバッチ・ジョブを投入します。パフォーマンス・データはデフォルトのライブラリーQPFRDATA内のファイルQTRJOBTのメンバーNOV15のものを使用します。この報告書は午前8:00からその日の真夜中までをカバーします。

注:日付および時刻のフォーマットは、システム値QDATFMTおよび、この例ではセパレーターが使用されるため、QDATSEPで決定されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR5515

トレース・データをアクセスすることはできない。

[トップ](#)

ジョブ・トレースの開始 (STRJOBTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・トレースの開始(STRJOBTRC)コマンドは、指定されたジョブのパフォーマンス統計を収集するためにジョブ・トレース機能を開始します。次のコマンドを出します。

```
STRTRC MAXSTG(MAXSTG) TRCFULL(*STOPTRC)
```

使用されるMAXSTG値は、STRJOBTRC省略時の値または指定された値のどちらかです。

ジョブ・トレースが開始されると、ジョブのすべての外部（プログラム）呼び出しと戻り、例外、メッセージ、およびワークステーション待機に対してトレース・レコードが生成されます。高水準言語プログラムのすべての入出力ステートメント（オープン、クローズ、読み取り、書き出し）に対して最低2つ（通常はそれ以上）のトレース・レコードが生成されます。

ターゲット・プログラムを実行した後で、ジョブ・トレース終了(ENDJOBTRC)コマンドを使用して、トレースをオフにし、収集された情報をデータベース・ファイルに記録し、任意指定でデータの分析に使用される報告書を作成します。ジョブ・トレース印刷(PRTJOBTRC) コマンドを使用して、以後任意の時点で同じ報告書を印刷することもできます。また、トレース終了(ENDTRC)コマンドの**データ・オプション (DTAOPT)**パラメーターに*DLTを指定して、ジョブ・トレースの停止に使用する（収集されたデータを記録しないでオフにする）こともできます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MAXSTG	最大記憶域	1-4000000, 10000	オプションル、定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプションル
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
THDID	組み込むスレッドID	値 (最大 20 回の繰り返し): 16 進値, *ALL	オプションル

トップ

最大記憶域 (MAXSTG)

生成されたすべてのトレース・レコードが記憶される内部バッファを割り振るために記憶域の最大量を指定します。このバッファを埋める十分なトレース・レコードが収集された場合には、トレースは自動的にオフにされます。

10000 10,000キロバイトのトレース・バッファーが使用されます。

1-16000

トレース・バッファーのサイズをキロバイトで指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

トレースするジョブを指定します。

単一値

* 現行ジョブがトレースされます。

修飾子1: ジョブ名

名前 トレースするジョブの名前を指定してください。

修飾子2: ユーザー

名前 トレースするジョブのユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

トレースするジョブの6桁の番号を指定してください。ゼロを含めて、6桁全部を指定しなければなりません。

[トップ](#)

組み込むスレッドID (THDID)

トレースに含める20以内の呼び出しと戻りのスレッドのリストを指定します。指定されたスレッドIDのトレース・レコードだけが含まれます。

単一値

***ALL** すべてのスレッドの呼び出しと戻りがこのトレースに含まれます。

その他の値 (最大20個まで指定可能)

16進値 トレース・レコードを含める20以内のスレッドIDを指定します。

[トップ](#)

例

STRJOBTRC MAXSTG(512)

このコマンドは、現在のジョブのトレース・データの収集を開始します。512キロバイト(KB)のトレース・バッファーが使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

パフォーマンス・グラフィックスの開始 (STRPFRG)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・グラフィックスの開始(STRPFRG)コマンドは、使用可能なすべてのパフォーマンス・グラフィックスへのアクセスを与えるパフォーマンス・グラフィックス・メニューを呼び出します。このコマンドは対話式環境でのみ有効です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FMTLIB	グラフ様式ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 位置 1
PFRLIB	パフォーマンス・データ・ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 位置 2
JOB	ジョブ名	名前, *CMD, *MBR	オプション
JOB	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QFRJOB</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

グラフ様式ライブラリー (FMTLIB)

グラフ様式およびグラフ・パッケージを保管するライブラリーを指定します。グラフ様式およびグラフ・パッケージは、パフォーマンスおよび実績データ・グラフを作成するために使用されます。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、グラフ様式およびグラフ・パッケージを入れる場所です。

ライブラリー名

グラフ様式およびグラフ・パッケージを入れるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

パフォーマンス・データ・ライブラリー (PFRLIB)

データベース・ファイルを保管するライブラリーを指定します。データベース・ファイルには、グラフで使用されるパフォーマンスおよび実績情報が入っています。

QPFRRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRRDATAが、データベース・ファイルを入れる場所です。

ライブラリー名

データベース・ファイルを見つけるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

バッチ処理用にジョブを投入した結果、選択されたグラフの表示オプションに使用するジョブ名を指定します。

ジョブ記述プロンプト (JOBIDパラメーター) に*NONEを指定した場合には、このパラメーターは無視され、ジョブ処理は対話式に実行されます。

指定できる**ジョブ名**の値は次の通りです。

***CMD** 選択されたメニュー・オプションと対応するコマンド名が、ジョブ名に使用されます。同じオプションで作成されたジョブはすべて同じ名前をもつことになります。

***MBR** 対応するコマンドのメンバープロンプト (MBRパラメーター) で指定されたパフォーマンス・データ・メンバー名が使用されます。

ジョブ名

グラフ表示バッチ・ジョブに使用する名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ記述 (JOBID)

バッチ処理用のジョブの投入に使用されるジョブ記述を指定します。

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジョブ記述が入っているライブラリーの名前を指定します。

QPFRRJOBID

弊社提供パフォーマンス・ツール・ジョブ記述が使用されます。

ジョブ記述名

代替ジョブ記述の名前を指定してください。

*NONE

バッチ・ジョブは投入されず、その代わりに、ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この間に、ユーザーのワークステーションを使用することはできません。これは、特に長時間ジョブの場合に考慮する事項です。

トップ

例

STRPFRG

このコマンドは、パフォーマンス・ツールのグラフィックスのメニュー・インターフェースを表示します。グラフ様式、グラフ・パッケージ、およびこのセッションのパフォーマンス・データの保管と取り出しにはライブラリーQPFRDATAが使用されます。投入されたバッチの実行要求は、ライブラリー・リストにあるジョブ記述QPFRJOBIDを使用します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PFR7023

IDLC行の間隔データを表示することはできない。

PFR9026

&1を変更または削除することはできない。

PFR9027

グラフ様式&1に選択されたオプションが正しくない。

PFR9028

グラフ・パッケージ&1に選択されたオプションが正しくない。

PFR9032

選択した様式が多すぎる。

PFR9033

削除するために選択した項目が多すぎる。

PFR9039

メンバー&2の実績データを作成することができない。

PFR9040

変数が*TIMEの場合には、範囲に*AUTOを指定してください。

PFR9044

実績グラフに指定したグラフ様式が正しくない。

PFR9045

グラフ・パッケージには*OUTFILEは正しくない。

PFR9095

&2を変更または削除することはできない。

[トップ](#)

パフォーマンス・ツール開始 (STRPFRT)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・ツール開始(STRPFRT)コマンドは、パフォーマンス・ツール・メニュー・インターフェースを呼び出します。この画面はパフォーマンス・ツール・メイン・メニュー(PERFORM)のことで、すべてのパフォーマンス・ツールにアクセスできます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRRDATA</u>	オプション, 位置 1
JOB	ジョブ名	名前, *CMD, *MBR	オプション
JOBDD	ジョブ記述	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QPFRRJOBDD</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データが入っているライブラリーを指定します。

QPFRRDATA

パフォーマンス・データ・ファイルはIBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリー QPFRRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ジョブ名 (JOB)

バッチ処理用の報告書およびユーティリティー・ジョブの投入に使用されるジョブ名を指定します。

注: ジョブ記述 (JOBID)パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターは無視され、ジョブ処理は対話式に実行されます。

***CMD** 選択されたメニュー・オプションと対応するコマンド名が、ジョブ名に使用されます。同じオプションで作成されたジョブはすべて同じ名前をもつことになります。

***MBR** 対応するコマンドのメンバー (MBR)パラメーターでパフォーマンス・データ・メンバーに選択された名前が使用されます。コマンドにMBRパラメーターがなく、このパラメーターに*MBRが指定されている場合には、このコマンド名が使用されます。

名前 バッチ・ジョブに使用する名前を指定してください。

トップ

ジョブ記述 (JOBID)

ジョブをバッチ処理に投入する場合に使用されるジョブ記述を指定します。

単一値

***NONE**

バッチ・ジョブは投入されません。ユーザーの待機中に処理が対話式に続行されます。この時間の間、ユーザーのワークステーションは他の用途に使用可能ではありません。これは長時間を要するジョブの場合に重大な意味をもつことがあります。

修飾子1: ジョブ記述

QPFJRJOBID

IBM提供のジョブ記述QPFJRJOBIDが使用されます。

名前 使用されるジョブ記述の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初の一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブ記述を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ記述が存在しているライブラリーを指定してください。

トップ

例

STRPFRT

このコマンドは、パフォーマンス・ツールのメニュー・インターフェースを呼び出します。このセッション用のパフォーマンス・データの保存と読み取りには、ライブラリーQPFRDATAが使用されます。投入されたバッチの実行要求は、ライブラリー・リストにあるジョブ記述QPFJRJOBIDを使用します。

トップ

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

機能領域の処理 (WRKFCNARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

業務分野処理(WRKFCNARA)コマンドによって、メニュー・レベルで業務分野の作成、変更、コピー、および削除を行なうことができます。業務分野は、報告書およびグラフィックス用にパフォーマンス・ツールによって使用されます。業務分野は、報告書またはグラフに含まれるジョブ名またはユーザー名（あるいはその両方）の事前定義リストです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション, 位置 1

トップ

ライブラリー (LIB)

パフォーマンス・データ・メンバーを見つけるライブラリーを指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

QPFRDATA

弊社提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、パフォーマンス・データ・メンバーの入っている場所です。

ライブラリー名

パフォーマンス・データ・メンバーを見つけるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

WRKFCNARA

このコマンドによって、メニュー・レベルで業務分野の作成、変更、および削除を行なうことができます。このセッション用の業務分野の保存と読み取りには、ライブラリーQPFRDATAが使用されます。

トップ

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (Performance Tools for i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM Performance Tools for i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA
OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan